

本宮市データ集 2018

このデータ集は、本市の現状と課題を整理し、本宮市第2次総合計画を策定するにあたっての基礎資料とするために作成したものです。なお、社会情勢や将来の見通しを踏まえながら、随時情報を更新していく予定です。

平成30年4月6日現在

目 次

第1節 人口動態.....	2
1 人口.....	2
2 自然動態（出生及び死亡）.....	5
3 社会動態（転入及び転出）.....	9
第2節 人材育成.....	12
1 子育て・結婚.....	12
2 学校・地域教育.....	20
3 生涯学習.....	35
4 スポーツ.....	39
5 歴史・文化・芸術.....	43
第3節 健康・医療・福祉.....	45
1 健康・医療.....	46
2 高齢者福祉.....	54
3 障がい者・障がい児福祉.....	58
4 地域福祉.....	61
第4節 経済・産業・仕事.....	64
1 農林業.....	64
2 商工業・中小企業.....	69
3 雇用・労働環境.....	74
4 観光・交流・にぎわい創出.....	78
第5節 生活環境・都市基盤.....	81
1 環境保全・エネルギー.....	81
2 防災・消防・生活安全.....	87
4 都市機能・住環境・土地利用.....	93
5 道路・公共交通.....	102
6 水道・下水道・雨水排水路.....	106
第6節 市民・行政活動.....	109
1 市民活動.....	109
2 都市交流・国際交流・多文化共生.....	111
3 人権・男女共生.....	113
4 情報通信.....	116
5 公共施設.....	118
6 広域等連携.....	120
7 行政活動.....	121

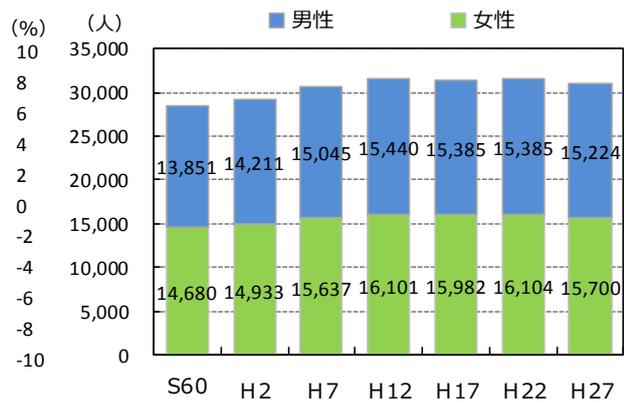
1 人口

現状と課題

- 地方から三大都市圏への人口流出、少子化の進行により、地方を中心とした人口減少の流れは以前にもまして深刻さを増している。
- 本市では、平成12（2000）年の31,541人（合併前国勢調査合算）をピークに減少した。その後、大規模住宅団地における子育て世帯の増加等により平成22（2010）年には再び増加に転じたものの、平成23（2011）年に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故（以下、「東日本大震災等」という。）の影響により、平成27（2015）年の国勢調査では30,924人まで低下した。
- 社会動態（転入転出）は対県内・県外ともに東日本大震災等直後に比べ回復基調にあるが、自然動態（出生死亡）については、依然減少傾向が続いている。
- 人口構成は、今後、少子高齢化に伴い生産年齢人口（労働人口）の減少が顕著となっていくとみられている。
- 人口減少が進むと、生活関連サービスの縮小、税収減による行政サービス水準の低下、民営地域公共交通の撤退・縮小などによる雇用の減少・生活利便性の低下、空家・空き店舗・工場跡地・耕作放棄地等の増加、地域コミュニティの機能低下による地域の魅力の低下など多くの問題によりさらなる人口減少につながるという悪循環が懸念される。
- 人口が減少を続ける一方、世帯数は平成27（2015）年に過去最高となる10,030世帯となり、単独世帯・核家族の増加が続いている。このことにより、家族の支えあいの機能が低下していくことが懸念されている。
- これらの問題は、将来のあらゆる分野に悪影響を及ぼすことから、人口問題への対応は、引き続き本市の最も重要な政策課題としてとらえていく必要がある。

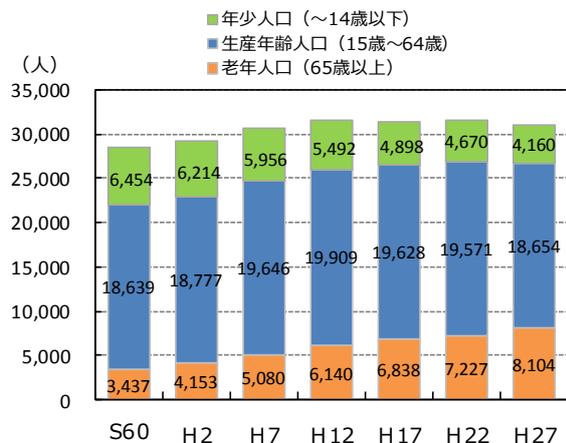
現状・課題別データ

■ 人口及び増減率の推移

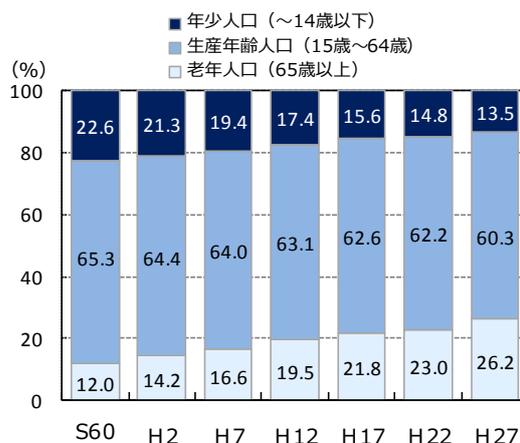


出典：国勢調査（総務省統計局）／各年10月1日現在

■ 人口構成の推移



■ 人口構成比の推移



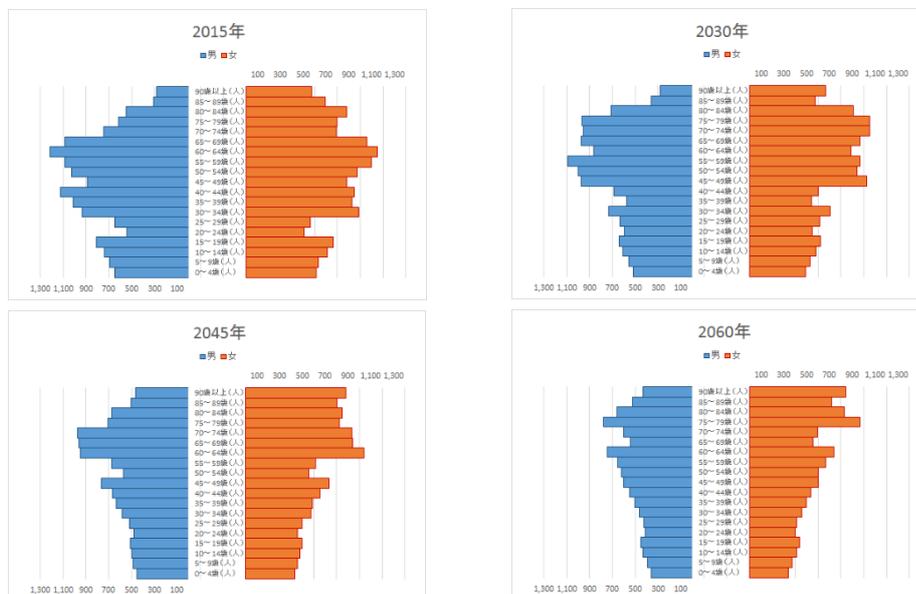
出典：国勢調査（総務省統計局）／各年 10月 1日現在

■ 将来人口推計



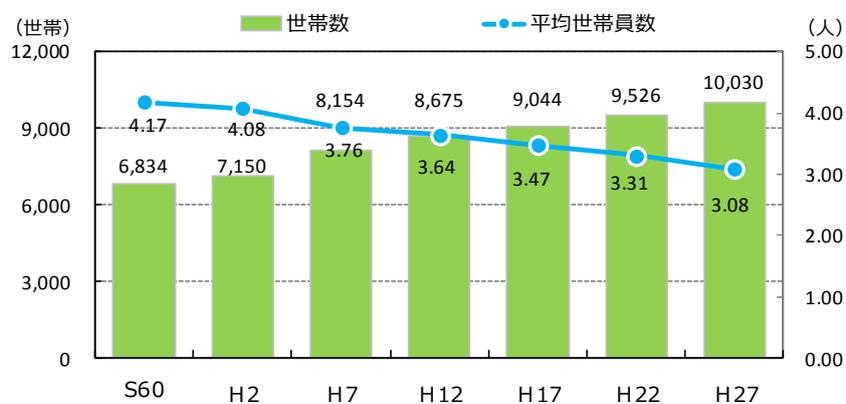
出典：本宮市人口ビジョン（低位推計）／2012年（国勢調査）を基準とした推計値

■ 人口ピラミッド



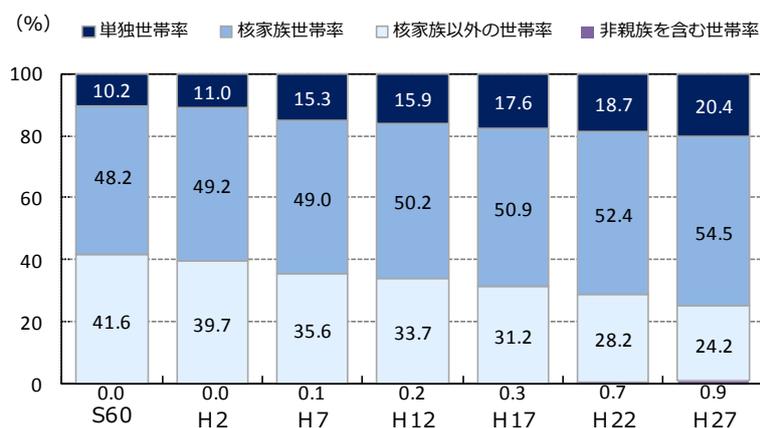
出典：本宮市人口ビジョン（低位推計）／2012年（国勢調査）を基準とした推計値

■ 世帯数の推移



出典：国勢調査（総務省統計局）／各年10月1日現在

■ 世帯構成の推移



出典：国勢調査（総務省統計局）／各年10月1日現在

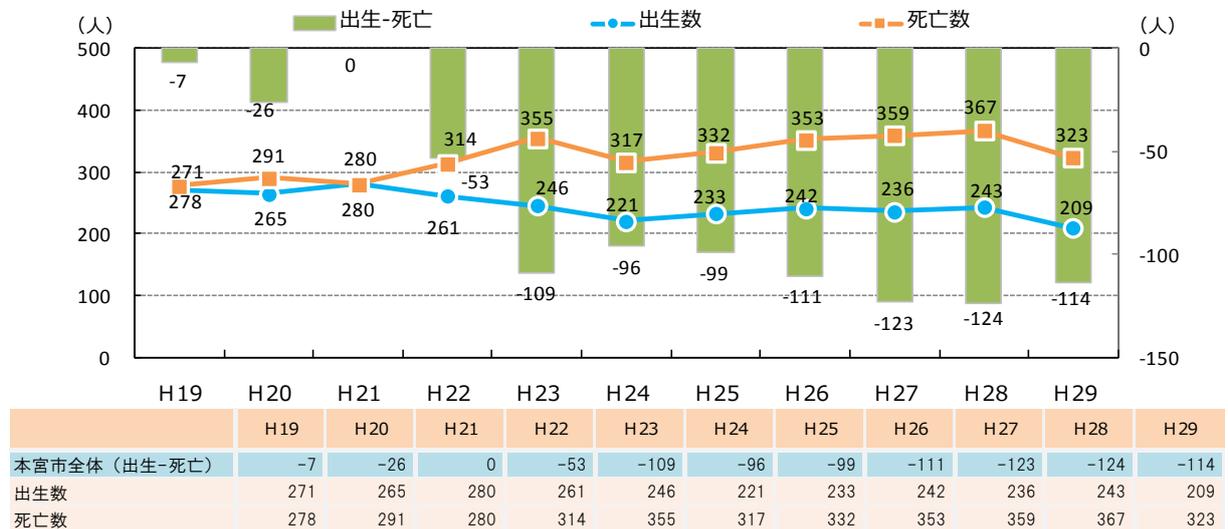
2 自然動態（出生及び死亡）

現状と課題

- 自然動態人口（出生-死亡）は、減少傾向が続いており、本市の人口減少の最大要因になっている。
- 出生数は、新市が誕生した平成19年（2007）年以降、平成21（2009）年の280人をピークに平成24（2012）年まで減少を続け、その後微増傾向となったが、平成29（2017）年に最低の209人となった。
- 1人の女性が生涯に出産する子供の平均人数を示す合計特殊出生率の推移をみると出生数と連動性がみられることから、出生数を増加させるためには、合計特殊出生率を上昇させることが重要であることが分かる。
- なお、合計特殊出生率の上昇に加え女性人口（特に減少傾向の著しい20～29歳）を増加させていくことや、男女の未婚化・晩婚化の解消などの対策を複合的に講じていくことも必要である。
- 死亡数については、65歳以上の高齢者人口は年々増加傾向にあること、本市の平均寿命が男性78.9年、女性86.5年（平成22（2010）年時点）であることを踏まえると、今後も増加していくことが推察される。
- 病気、不慮の事故、自殺等の防止など死亡数減少の取組とともに、「健康寿命」の延伸が大変重要である。
- 福島県が公表した対象年齢65才における健康寿命を表す「お達者度」で、本市は、県内13市中、男性が第1位、女性が第5位という結果であった。

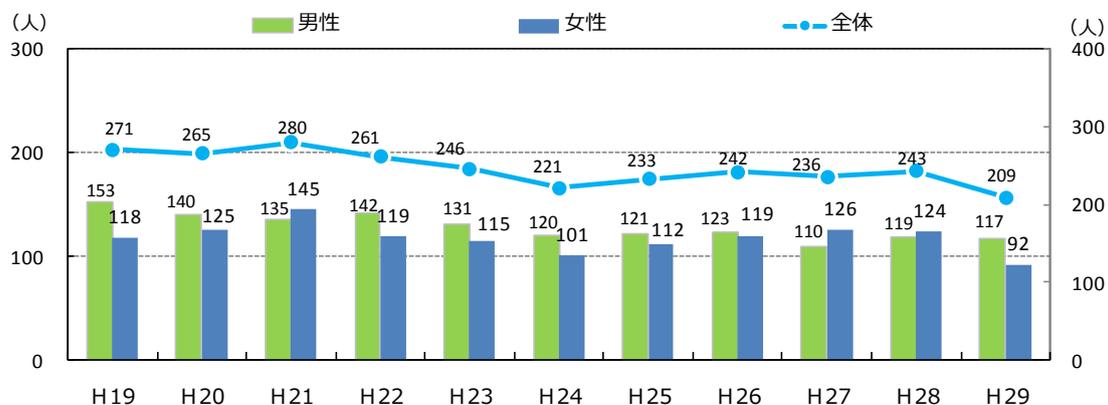
現状・課題別データ

■ 出生死亡相関表



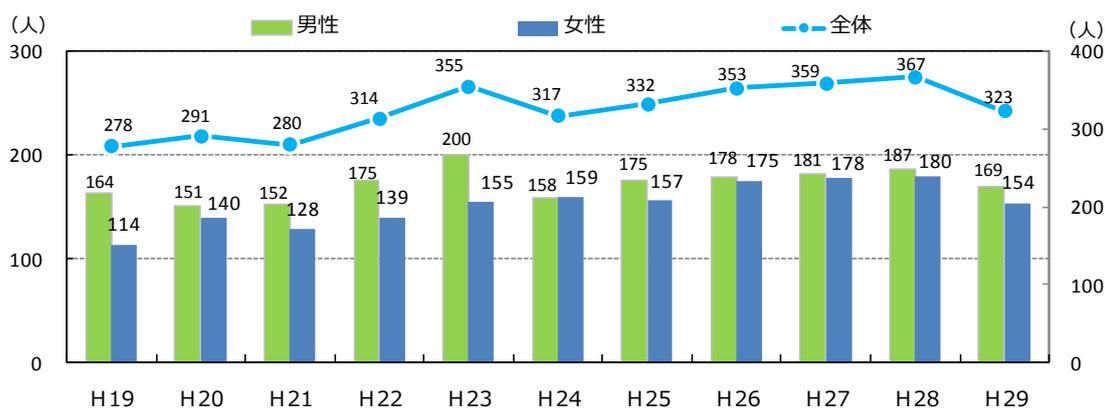
出典：福島県現住人口調査年報／各年

■ 出生数 (性別) の推移



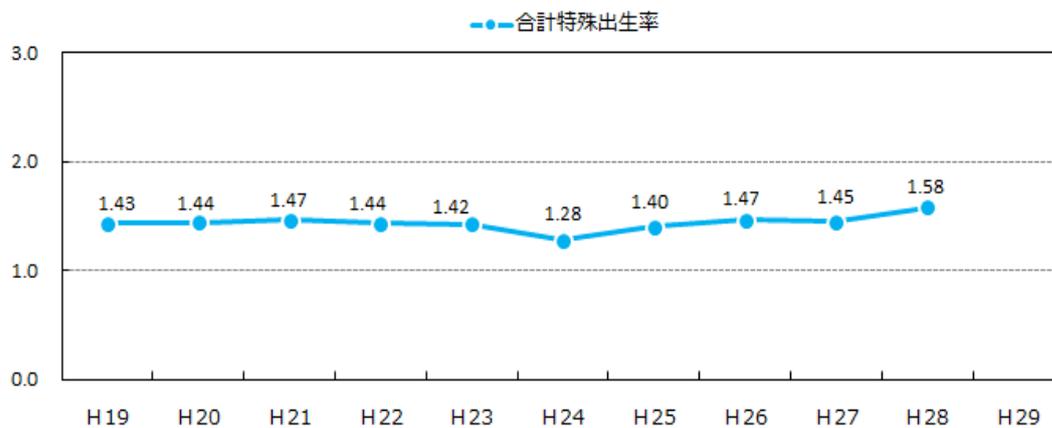
出典：福島県現住人口調査年報／各年

■ 死亡数 (性別) の推移



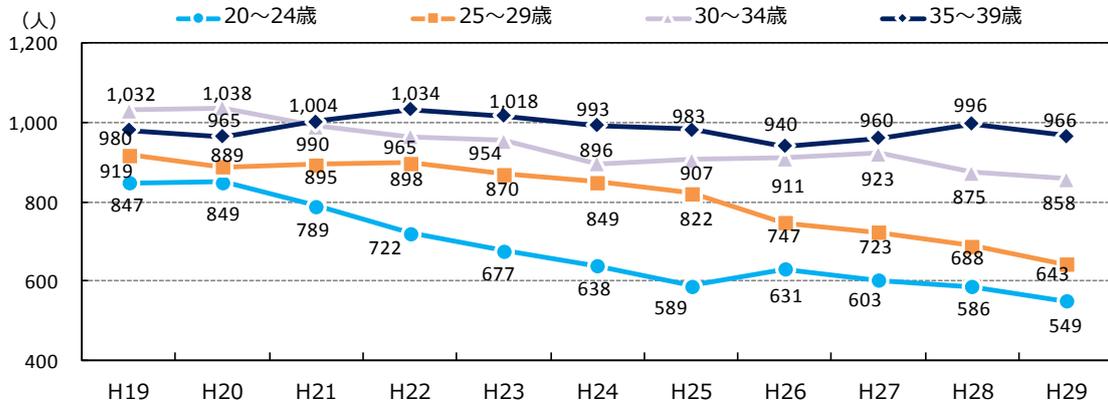
出典：福島県現住人口調査年報／各年

■ 合計特殊出生率の推移



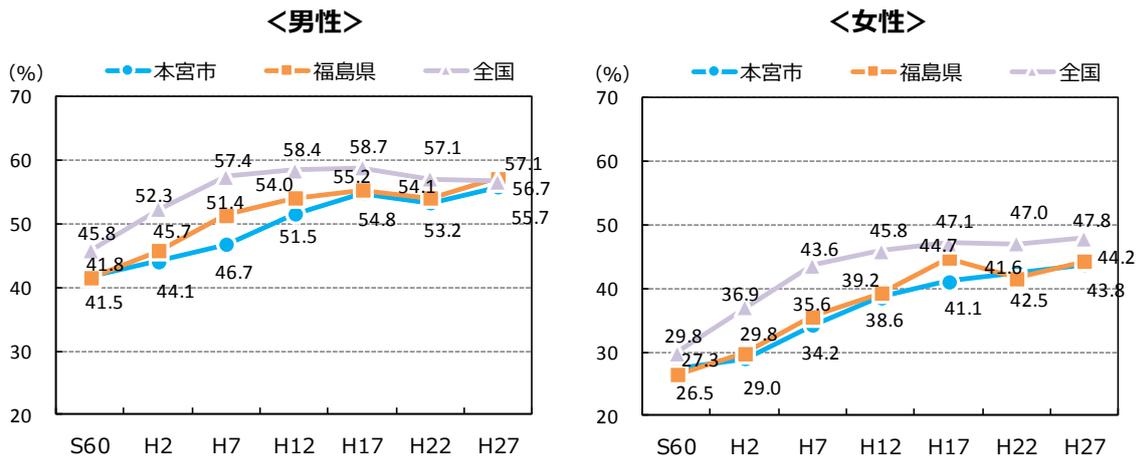
出典：本宮市独自算出／各年

■ 年齢別女性人口



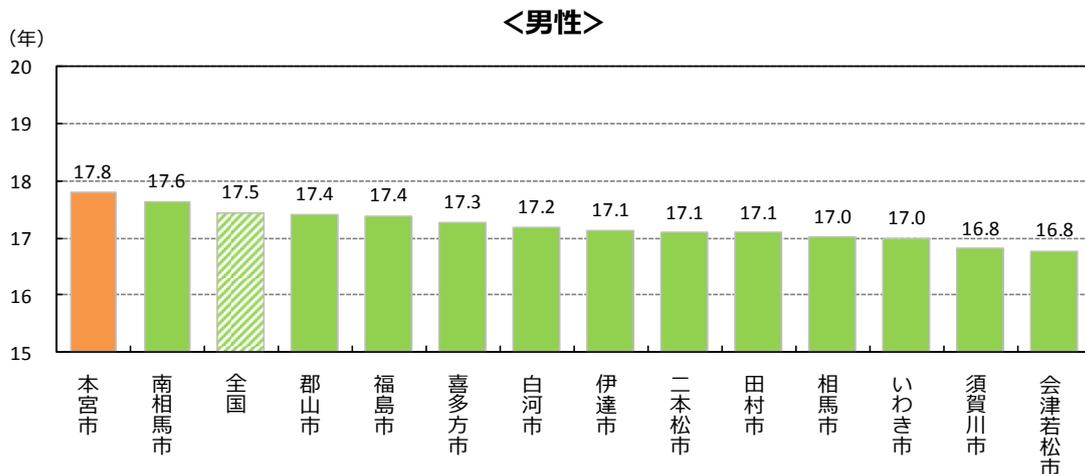
出典：福島県現住人口の年齢(5歳階級)別女性人口/各年10月1日時点

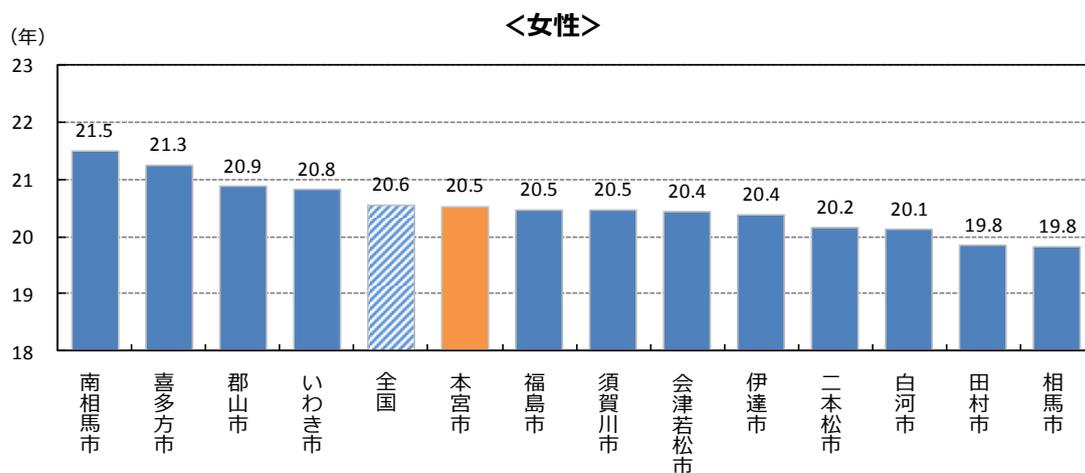
■ 男女未婚率の推移 (20~39歳)



出典：国勢調査（総務省統計局）/各年10月1日時点

■ 健康寿命（お達者度）





出典：福島県市町村別「お達者度(65歳の日常生活動作が自立している期間の平均(年))」
 (福島県保健福祉部・公立大学法人福島県医科大学健康増進センター) /平成 25 年
 ※65歳+お達者度=健康寿命 【例】本宮市(男性): 65歳+17.8年=82.8歳



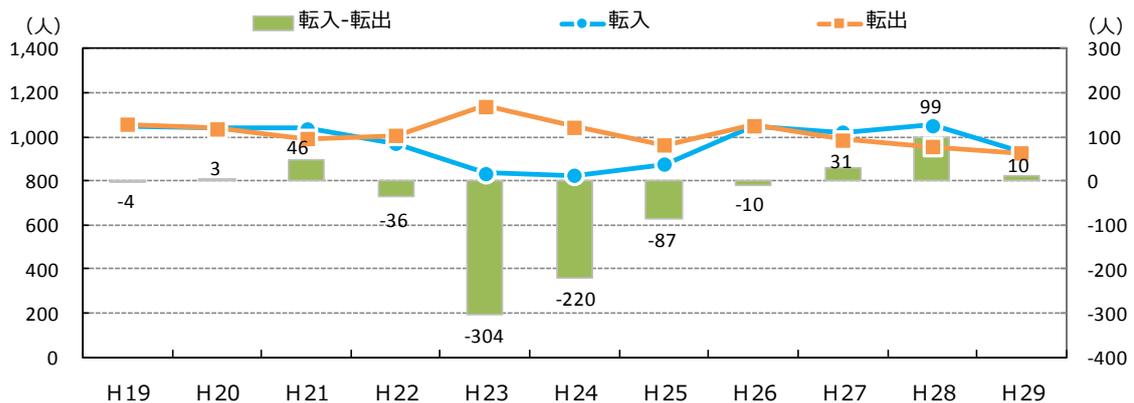
3 社会動態（転入及び転出）

現状と課題

- 社会動態人口は、平成22（2010年）まではほぼ横ばい状態で推移していたが、東日本大震災等の発生直後の平成23（2011）年をピークに転出超過が続いていた。その後、平成27（2015）年から転入超過に転じている。
- 今後も社会動態人口を維持・増加させていくためには、転入増加策と転出抑制策を複合的に講じ、移住・定住を推進していくことが重要である。
- 特に、少子高齢化がさらに進行することが懸念されている中であって持続可能なまちを維持していくためには、若者の転出抑制とU I ターンの推進等により、バランスのよい人口ピラミッドを形成していくことが必要である。
- 本市は昼夜間人口比率が高く、通学者は市外向けが多い一方で、通勤者は市内向けが多い状況にある。こうした状況を踏まえながら、社会動態人口増加につなげていくことが重要である。

現状・課題別データ

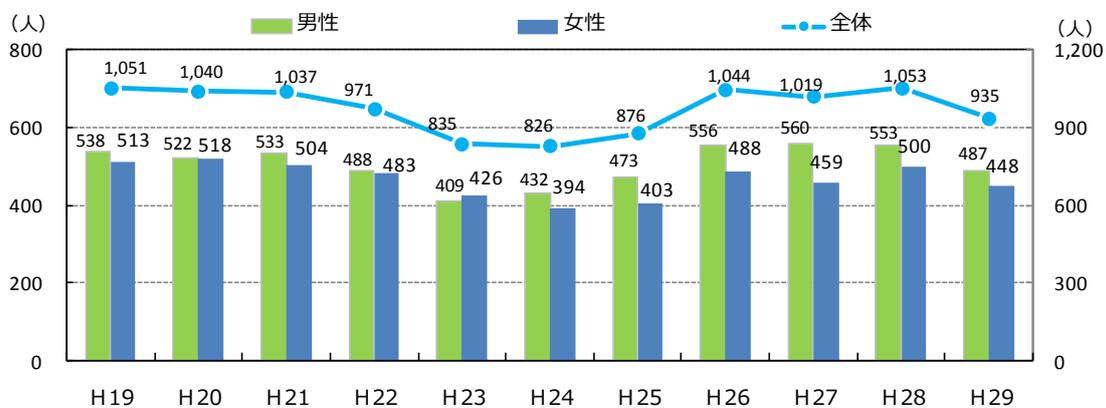
■転入数（性別）の推移 ■転入転出相関表



	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
本宮市全体（転入-転出）	-4	3	46	-36	-304	-220	-87	-10	31	99	10
転入	1,051	1,040	1,037	971	835	826	876	1,044	1,019	1,053	935
転出	1,055	1,037	991	1,007	1,139	1,046	963	1,054	988	954	925

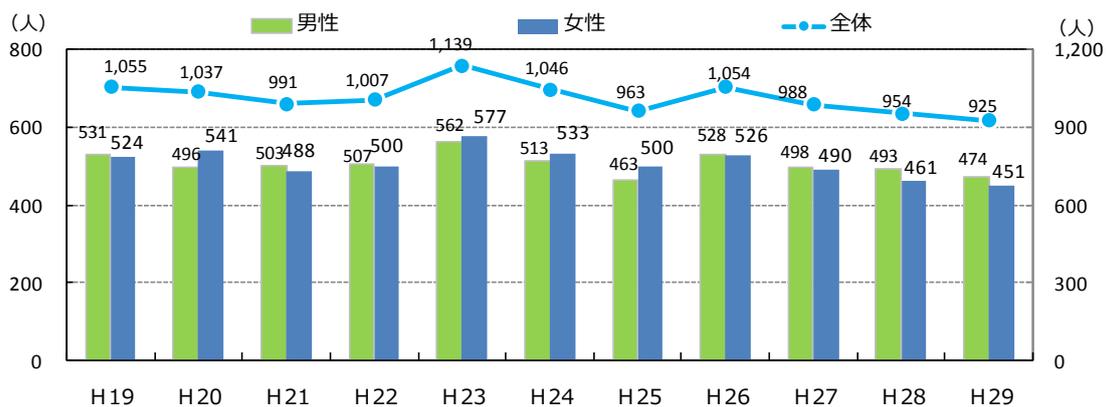
出典：福島県現住人口調査年報／各年

■ 転入数（性別）の推移



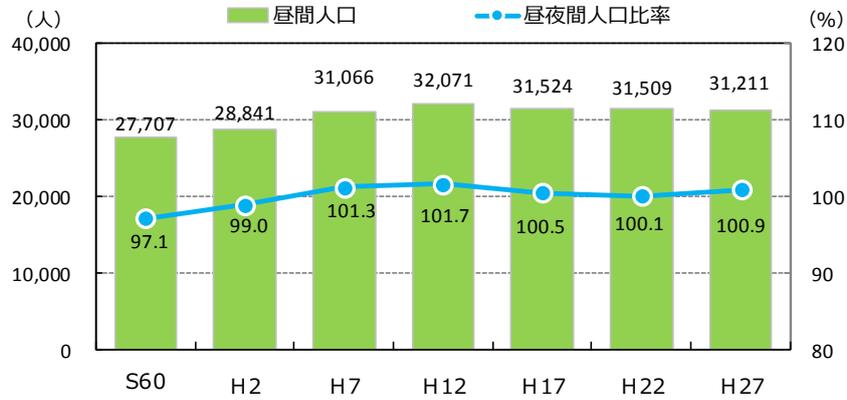
出典：福島県現住人口調査年報／各年

■ 転出数（性別）の推移



出典：福島県現住人口調査年報／各年

■昼夜間人口



県内市部データ

	単位	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27
福島県全体	人	99.8	99.8	100.0	99.8	99.6	99.6	100.2
福島市	人	104.4	104.7	104.6	104.2	103.4	103.5	103.2
会津若松市	人	105.9	105.8	106.0	106.1	106.1	105.9	105.7
郡山市	人	103.9	104.6	105.3	106.2	106.0	105.7	105.1
いわき市	人	99.7	99.9	100.3	99.9	100.1	99.5	98.3
白河市	人	102.0	102.2	101.3	101.1	101.7	100.6	101.6
須賀川市	人	98.5	97.4	95.5	94.2	94.3	94.3	93.7
喜多方市	人	99.3	99.5	98.9	97.0	96.3	97.0	94.6
相馬市	人	99.8	99.7	99.1	100.1	100.1	100.1	98.6
二本松市	人	94.3	93.2	92.6	92.4	93.9	94.4	93.9
田村市	人	92.2	91.1	91.0	89.3	90.2	89.7	89.4
南相馬市	人	99.4	99.4	99.8	98.9	97.6	98.0	104.1
伊達市	人	93.4	92.3	90.3	90.1	89.9	90.0	89.0
本宮市	人	97.1	99.0	101.3	101.7	100.5	100.1	100.9

出典：国勢調査（総務省統計局）／各年10月1日時点
 ※昼夜間人口比率は夜間人口=100

1 子育て・結婚

現状と課題

- 将来にわたり持続可能なまちづくりを進めるためには、少子化対策は最重要課題である。市民意識調査結果においても、子育て支援は重要度ランキング第1位であった。
- 出生数を増加させるとともに子育て世代を増加させるためには子どもを安心して生み育てることのできる環境の整備が必要である。
- 全国的に保育士の確保等が困難な状況にあり、待機児童の問題が課題になっている。本市においても、保育士を確保しながら、待機児童の発生を抑制するとともに、利用者の視点に立った質の高い保育サービスを提供することが重要である。
- 市の全幼稚園・保育所に幼児教育統一カリキュラムの導入や読書推進（ブックスタート）を実施している。幼児期における教育は大変重要であることから、ニーズや状況等を検証するとともに、教職員等の研修を重ねながら、継続して質の高い幼児教育を行っていく必要がある。
- 家庭内保育世帯も多くおり、一時預かり、情報交換の場の提供など多様なニーズへの対応が必要である。
- 子どもや家庭をめぐる様々な問題が複雑・多様化する中であって、相談体制の充実をはじめとしてきめ細かい支援を含めた子育て環境整備が求められている。
- 男女の未婚率が上昇傾向にある。平成27（2015）年時点で20歳～39歳の未婚率は、男性が55.7%、女性が43.8%であり、少子化・人口減少の大きな要因となっており、結婚支援に対するニーズが高まっている。

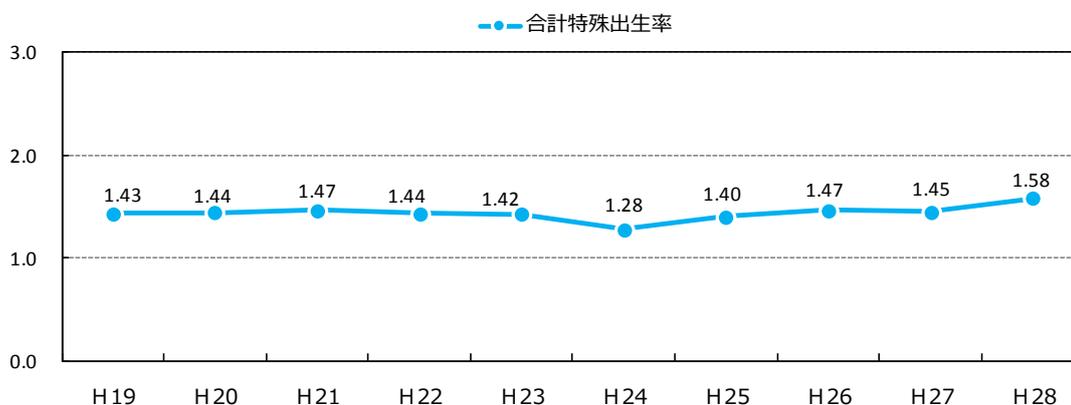
現状・課題別データ

(1) 保育支援（幼稚園、保育所、在宅）

《キーワード》

保育所（延長保育）、幼稚園（預かり保育、延長保育）、在宅支援（一時保育※地域子育て支援センター、ファミリーサポートセンター）、親子交流支援、幼児教育（ブックスタート）、幼保統一カリキュラム

■ 合計特殊出生率の推移（再掲）



出典：本宮市独自算出／各年

■ 公立保育所・幼稚園状況一覧

<保育所の定員数・入所数・入所率>

	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
保育所定員	人	450	450	430	430	430	449	449	449	567	567	-
保育園入所者数	人	416	412	413	453	434	409	319	421	459	484	-
入所率（対施設定員）	%	92.4	91.6	96.0	105.3	100.9	91.1	71.0	93.8	81.0	85.4	-
入所率（対人口）	%	22.8	23.1	22.8	25.4	24.9	25.1	21.1	28.1	31.3	32.9	-
0～5歳人口	人	1,822	1,782	1,812	1,783	1,743	1,630	1,513	1,500	1,468	1,469	-

出典：【定員】一目でわかる福島県の指標、市町村編（福島県企画調整部統計課）／各年4月時点
 【保育園入所者数】成果報告書（本宮市）／各年度末
 【0～5歳人口】住民基本台帳／各年4月1日時点

<幼稚園の定員・入園者数・入園率>

	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
幼稚園数	人	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
幼稚園定員	人	630	630	630	630	630	630	630	630	560	560	560
幼稚園入園者数	人	289	350	396	408	415	401	377	375	335	346	335
入園率（対人口）	%	31.3	38.9	42.3	42.8	45.2	45.4	46.2	47.6	45.1	46.8	44.9
3～5歳人口	人	923	900	937	953	918	884	816	787	742	740	746
教員数	人	-	36	29	34	34	39	34	36	25	25	24

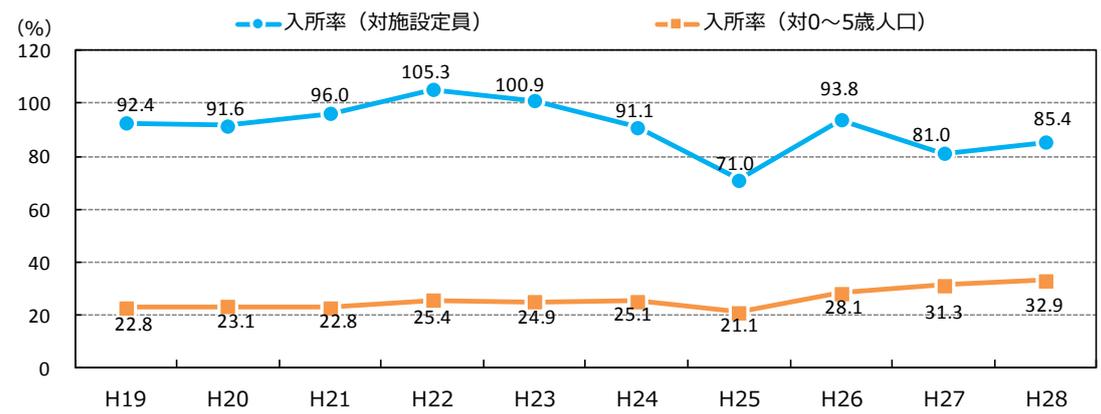
出典：【定員】「一目でわかる福島県の指標 2010～2017」、市町村編（福島県企画調整部統計課）／各年4月時点
 【公立・私立幼稚園入園者数】学校基本調査報告書（福島県）／各年5月1日時点
 【3～5歳人口】住民基本台帳／各年4月1日時点

■ 待機児童数

	単位	H24	H25	H26	H27	H28	H29
待機児童数	人	0	0	0	0	0	0

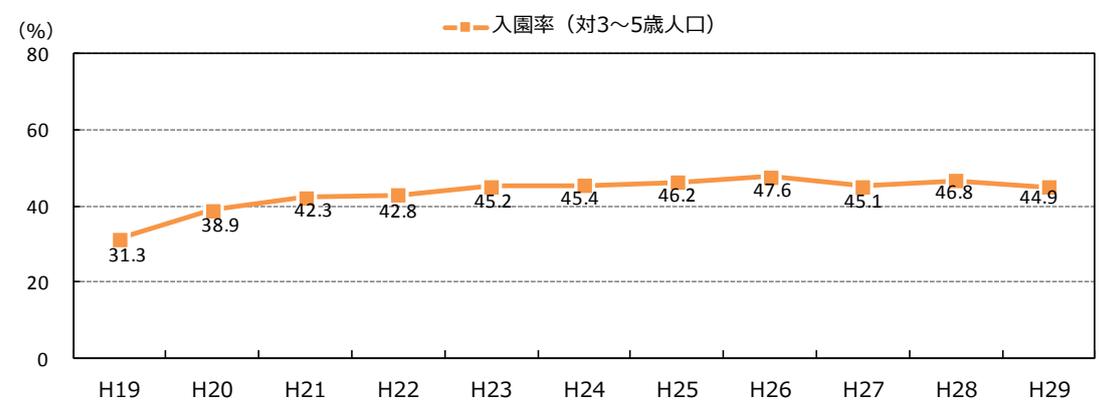
出典：本宮市第1次総合計画 「主な成果指標」／各年4月1日時点

■ 保育所入所率



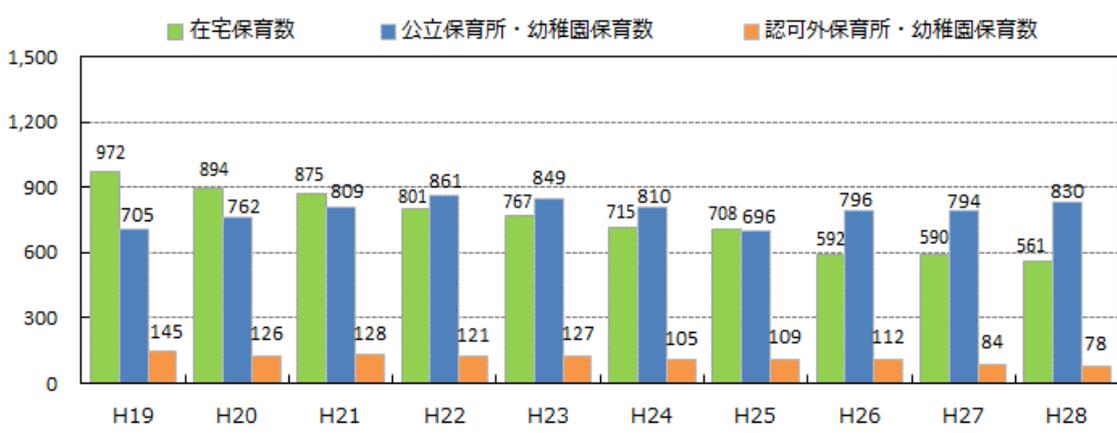
出典：本宮市独自算出

■ 幼稚園入園率



出典：本宮市独自算出

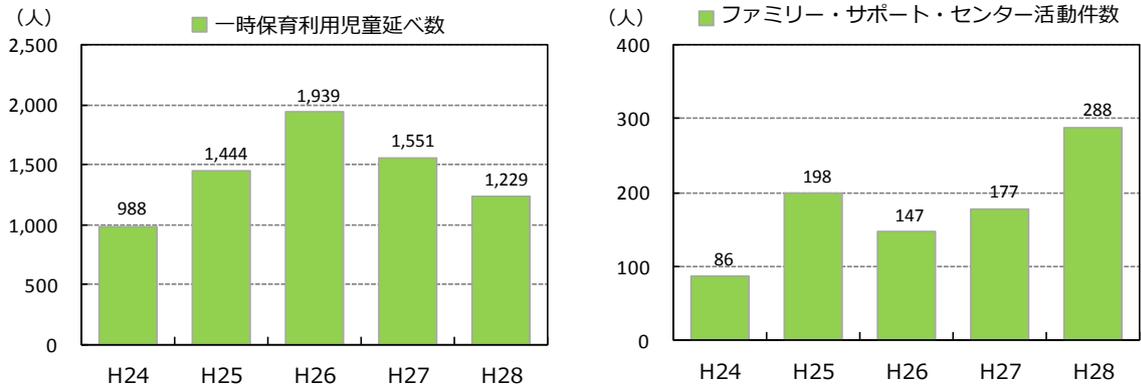
■ 在宅保育数



出典：本宮市独自算出

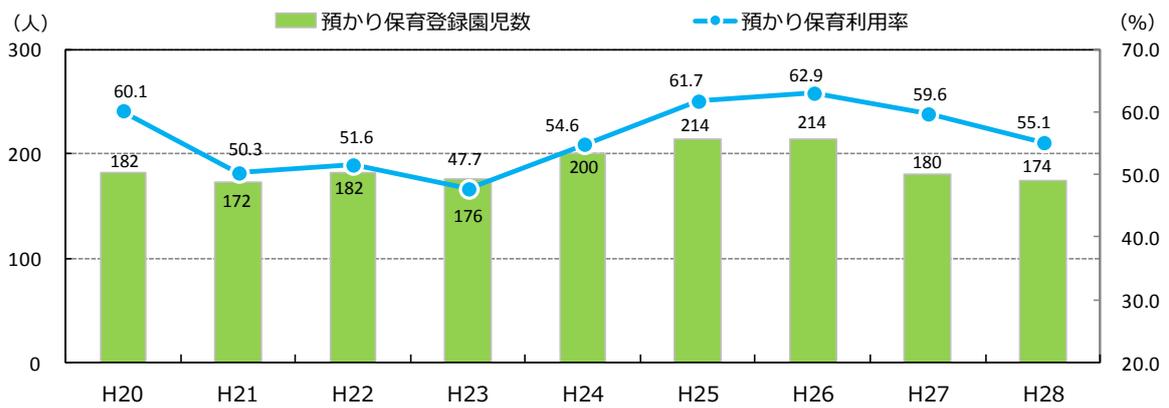
※在宅保育数：0~5歳人口－宅外保育数（公立保育所・幼稚園保育数+認可外保育所・幼稚園保育数）

■一時保育利用児童延べ数・ファミリーサポートセンター活動件数



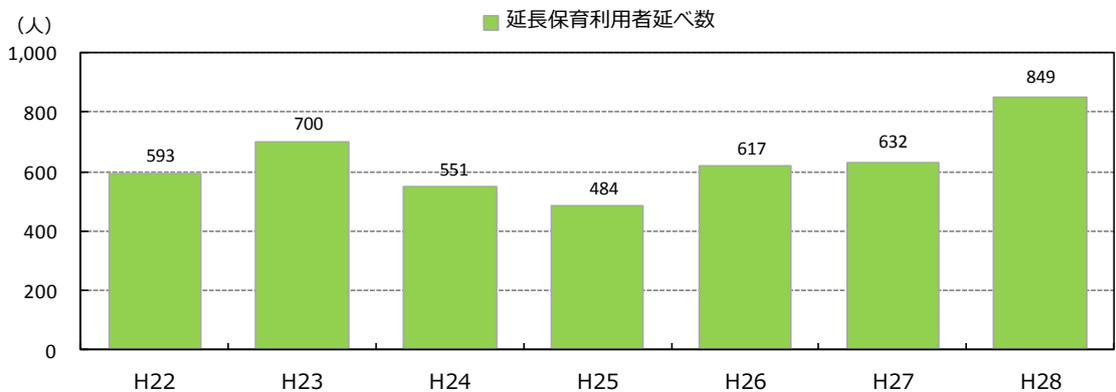
出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

■預かり保育



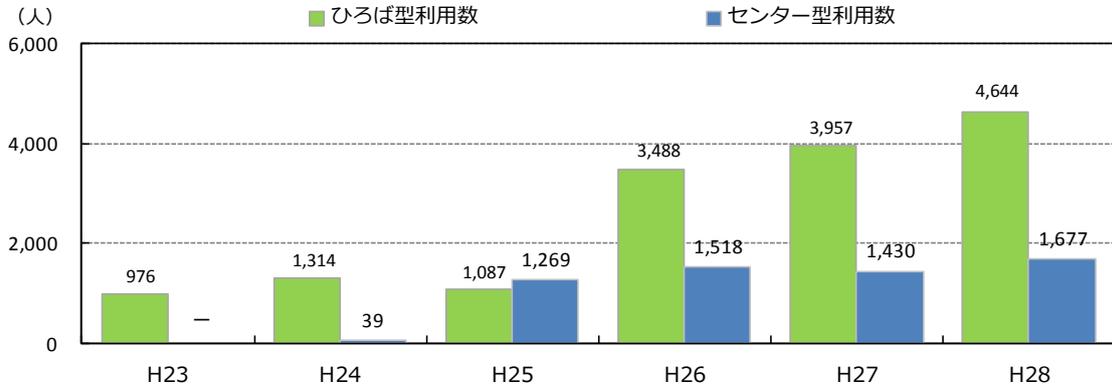
出典：成果報告書「預かり保育事業」（本宮市）／各年度末

■延長保育



出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

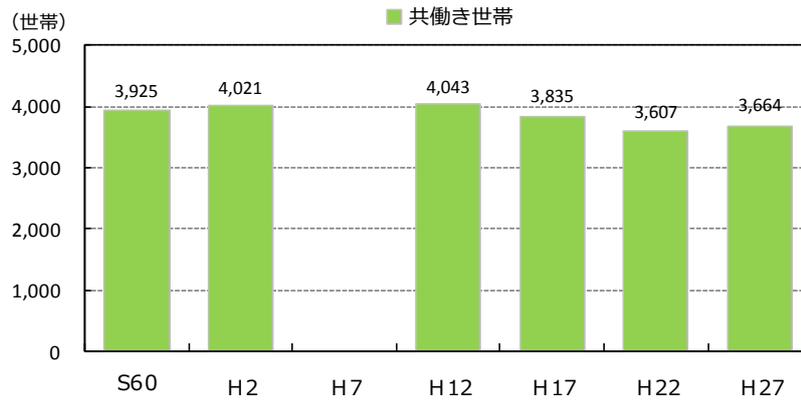
■地域子育て支援拠点利用数（ひろば型・センター型）



出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

※センター型は H23 以前は、設置なし。

■共働き世帯数



出典：国勢調査（総務省統計局）／各年 10 月 1 日時点

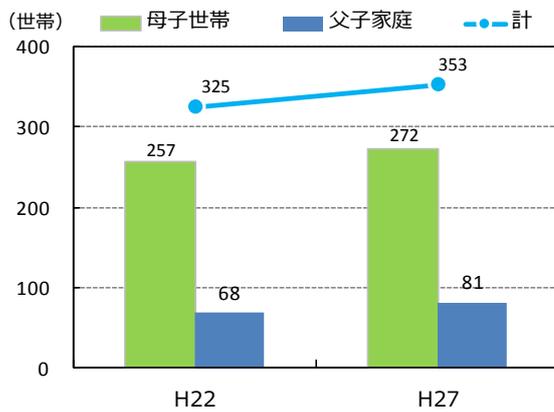
※共働き世帯：夫婦ともに就業している世帯。



(2) 総合支援

《キーワード》相談・支援体制、ひとり親家庭支援、児童虐待防止

■ひとり親家庭数



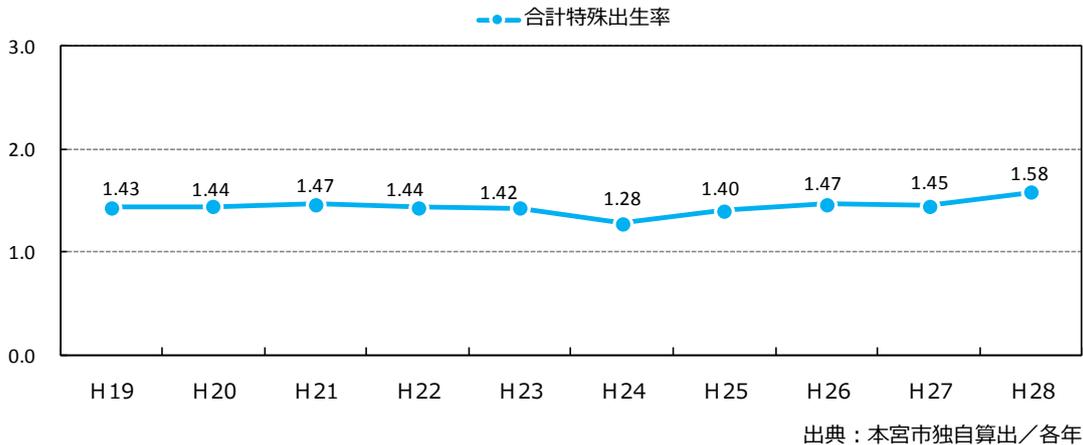
出典：国勢調査（総務省統計局）／各年10月1日時点

※「母と子」「父と子」のみの世帯だけでなく、他の世帯員がいる家庭を含む値。

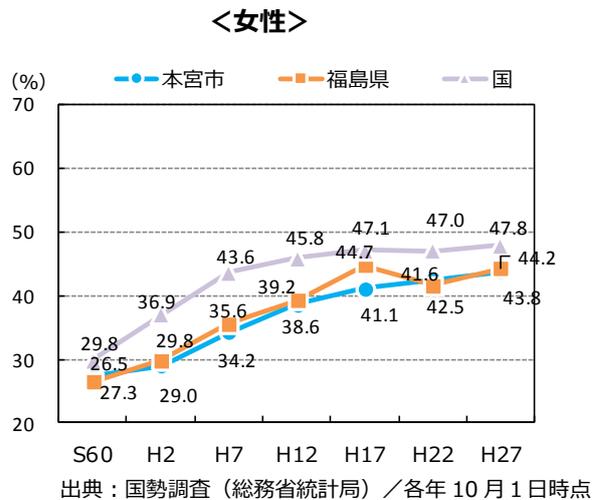
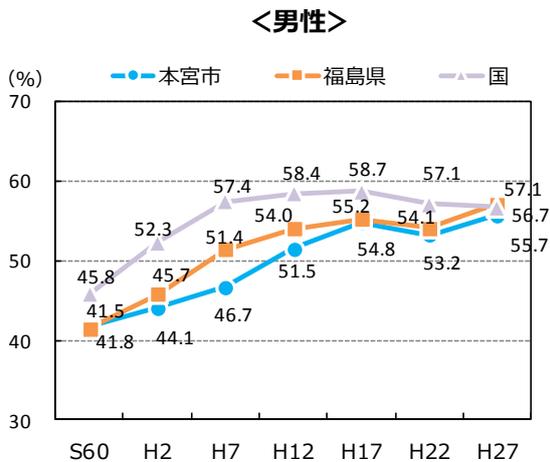
(3) 結婚支援

《キーワード》 出会い創出、婚活サポーター

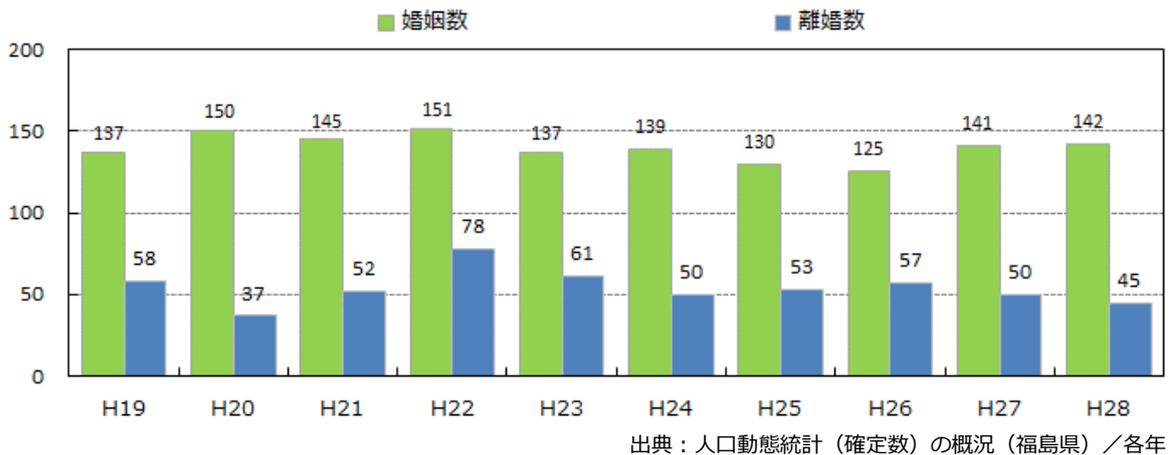
■ 合計特殊出生率の推移（再掲）



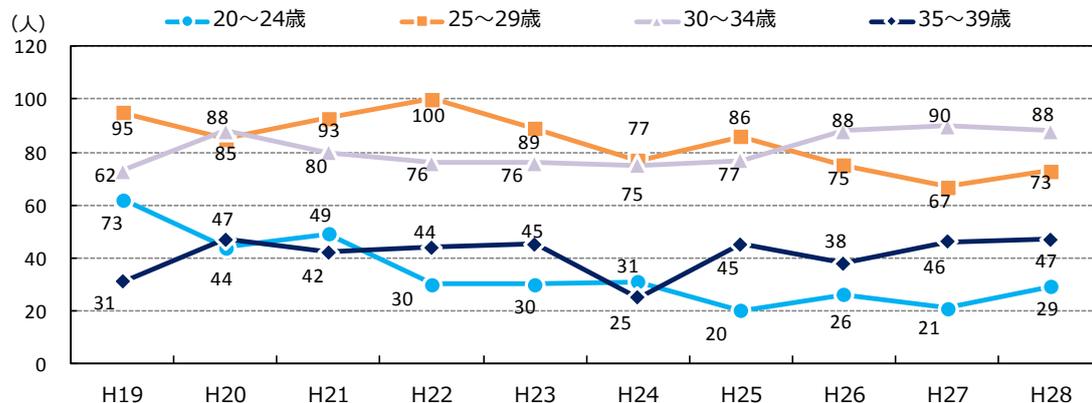
■ 男女未婚率の推移（20～39歳）（再掲）



■ 婚姻数・離婚数

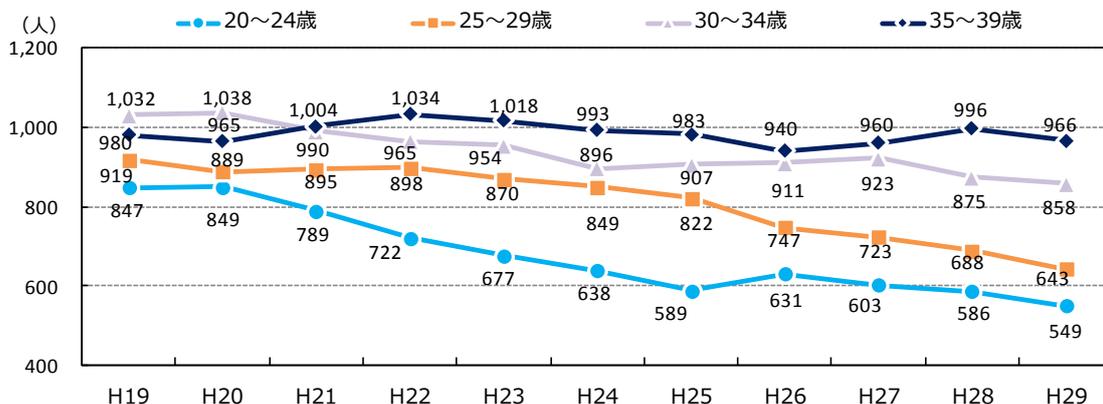


■母の年齢別出生数



出典：厚生労働省人口動態調査／各年（1月1日～12月31日）

■年齢別女性人口



出典：福島県現住人口の年齢(5歳階級)別女性人口／各年10月1日時点

■婚活イベント等開催回数・参加者数・カップリング数

		H28			H29		
		開催数 (回)	参加者数 (延べ人)	カップリング数 (組)	開催数 (回)	参加者数 (延べ人)	カップリング数 (組)
婚活パーティ	男性	2	30	13	3	71	24
	女性		30			72	
セミナー	男性	2	21	3	39	72	
	女性	2	31		72		
婚活サポーターセミナー		2	42		1	18	

出典：成果報告書（本宮市）、政策推進課資料／各年度末

2 学校・地域教育

現状と課題

- 市民意識調査で学校等教育分野は、重要度が全 35 項目中子育て支援に次いで、第 2 位にランキングされている。
- 未来を拓く子どもたちの人材育成は最重要課題であり、学校・家庭・地域が連携しながら取り組んでいく必要がある。
- 小中学校の義務教育期に、バランスのとれた「生きる力（豊かな人間性、確かな学力、健康と体力）」を確実に育むことが重要である。
- ICT（情報通信技術）・グローバル化をはじめ社会情勢の変化に対応した多様なスキルを身につけることが必要である。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしている児童・生徒の割合」、「地域の行事に参加している児童・生徒の割合」では、いずれも小学生より中学生が下回っている傾向にあり、中学生の家庭での勉強、地域での活動の機会や時間の確保が課題である。
- 青少年を取り巻く情勢は大きく変化しており、青少年が抱える問題は複雑化している。このような中、青少年の健全を育成し、非行・犯罪をなくすためには、地域社会における機運の醸成を図りながら、学校、家庭、地域が一丸となって見守り、社会のルールやマナーの教育などを行うことが重要である。
- 不登校や障がいなど個別に特別な支援を必要とする子どもたちに寄り添ったきめ細かい対応が求められている。
- 中生意識調査によると、市内中学生の 19.4%が「進学にあたっての費用」を心配ごととして回答している。
- 子どもたちが将来の夢や目標に向かって安心して学校活動に専念するためには、ハードとソフトの両面から教育環境整備を進める必要がある。

現状・課題別データ

（1）確かな学力

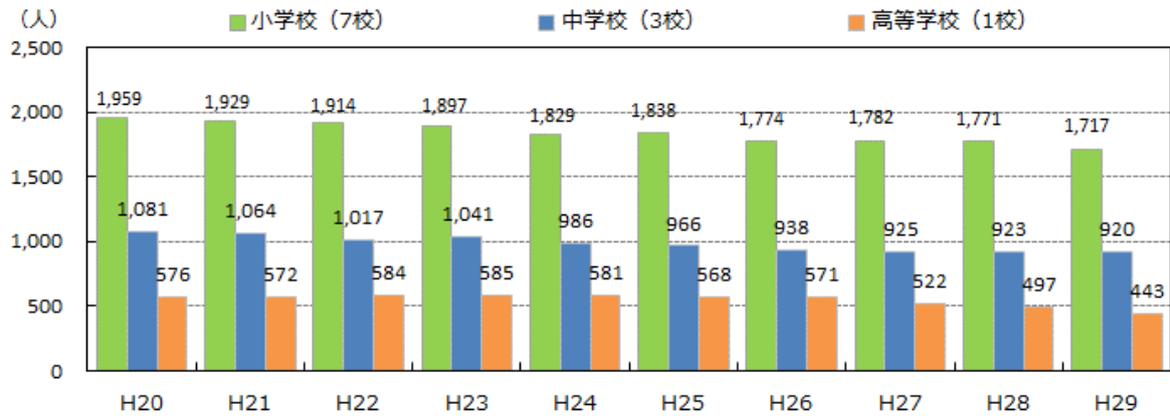
《キーワード》学力向上、ICT・グローバル化対応

■ 学校数

	小学校	中学校	高校
学校数	7	3	1

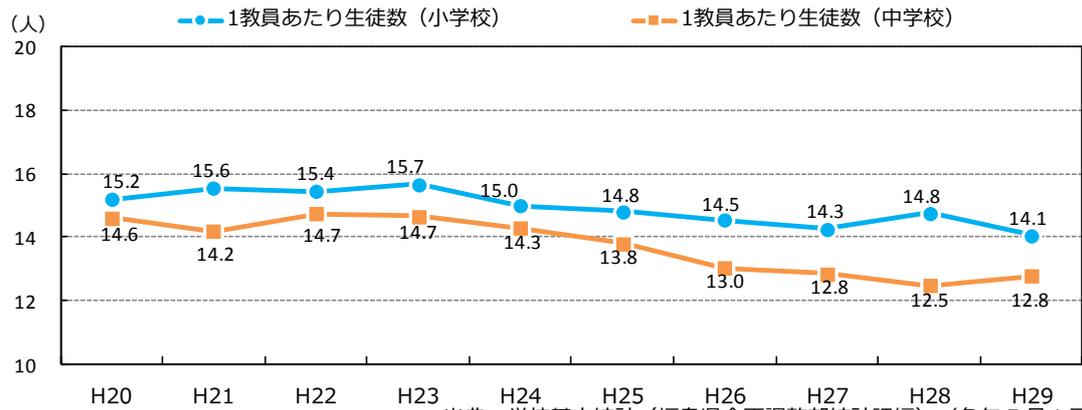
出典：学校基本統計（福島県企画調整部統計課編）／平成 29 年 5 月 1 日時点

■ 児童・生徒数



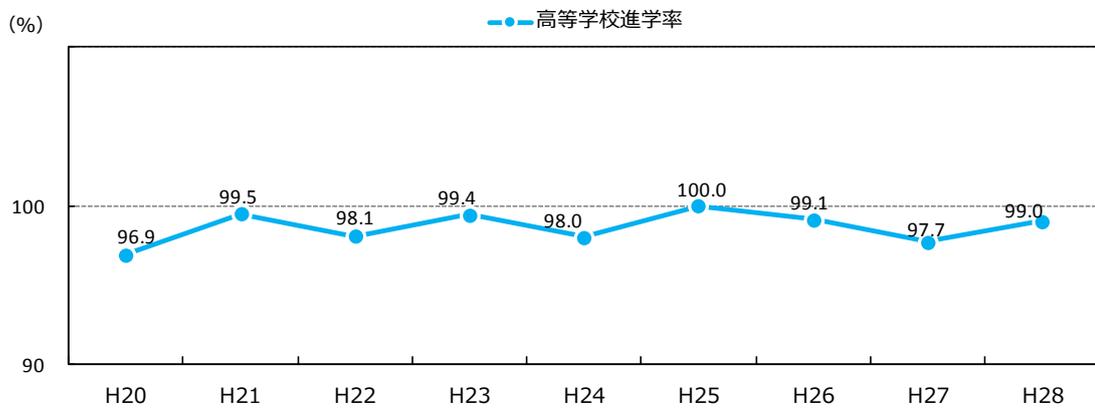
出典：学校基本統計（福島県企画調整部統計課編）／各年 5 月 1 日時点

■ 1 教員あたり児童・生徒数



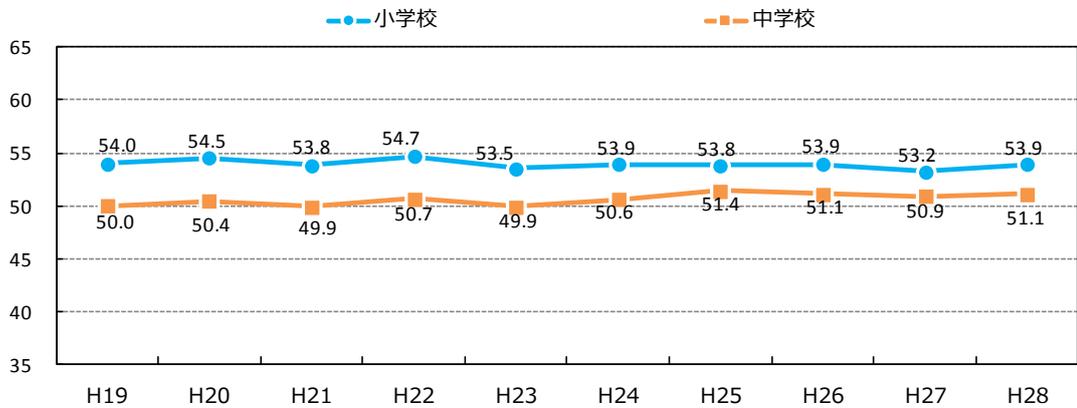
出典：学校基本統計（福島県企画調整部統計課編）／各年 5 月 1 日時点

■ 高等学校進学率



出典：学校基本統計（福島県企画調整部統計課編）／各年 5 月 1 日時点

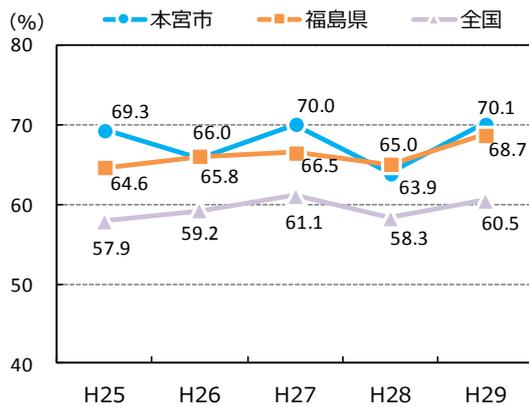
■全国標準学力テスト（NRT学力検査）偏差値（小学生、中学生）



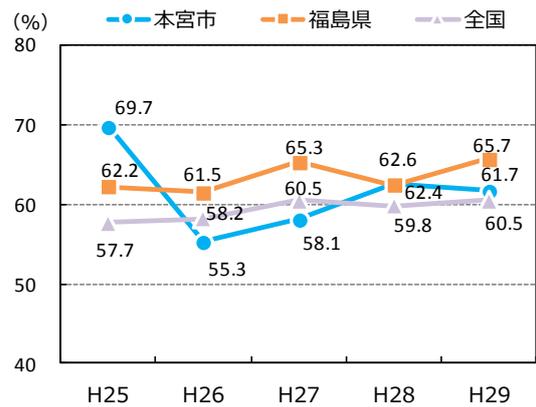
出典：本宮市第一次総合計画 「主な成果指標」／各年度

■国語の勉強が好きな児童・生徒の割合

<小学生>



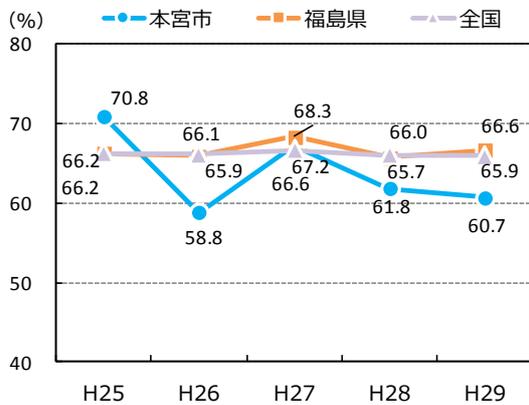
<中学生>



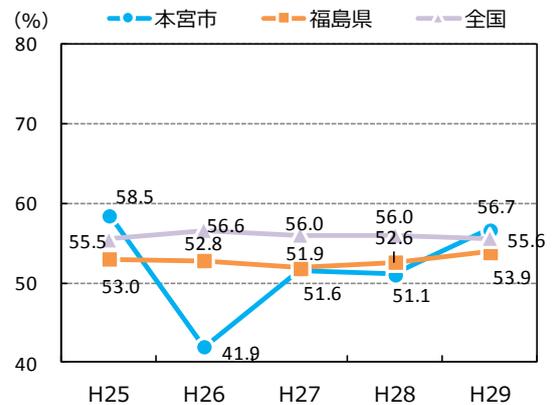
出典：全国学力・学習状況調査／各年度

■算数の勉強が好きな児童・生徒の割合

<小学生>



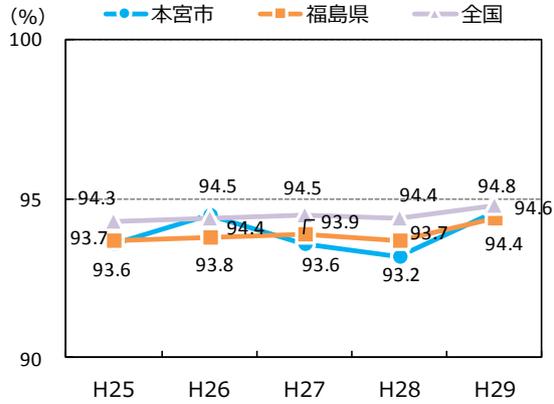
<中学生>



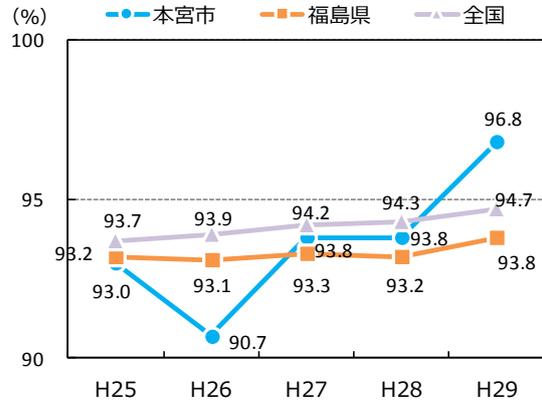
出典：全国学力・学習状況調査／各年度

■ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある児童・生徒の割合

<小学生>



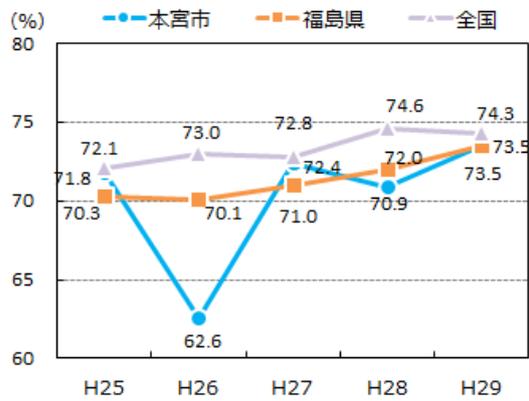
<中学生>



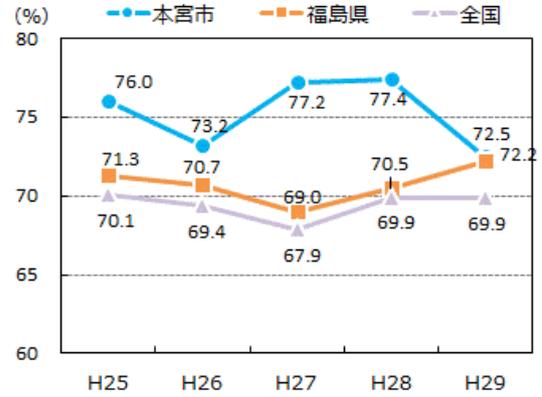
出典：全国学力・学習状況調査／各年度

■読書が好きな児童・生徒の割合

<小学生>

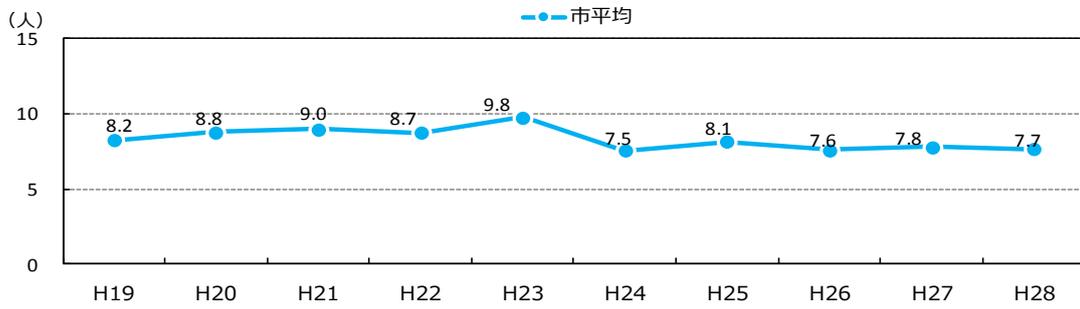


<中学生>



出典：全国学力・学習状況調査／各年度

■教育用コンピュータ1台当たりの児童・生徒数

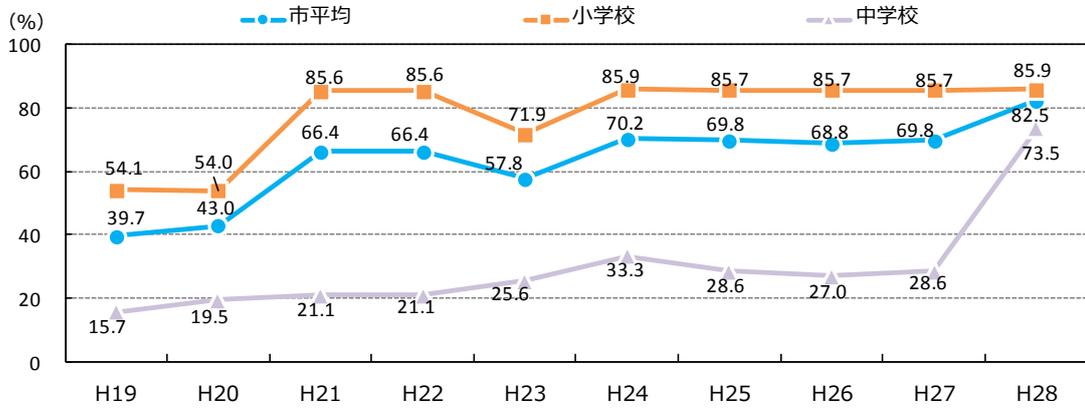


	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
市平均	人/台	8.2	8.8	9.0	8.7	9.8	7.5	8.1	7.6	7.8	7.7
小学校	人/台	9.3	9.7	9.9	9.9	11.3	7.4	8.0	7.7	7.7	7.7
中学校	人/台	7.1	7.5	7.7	7.2	7.8	7.7	8.4	7.4	8.0	7.6

出典：学校における教育の情報化の実態等に関する調査（文科省）／各年3月1日時点

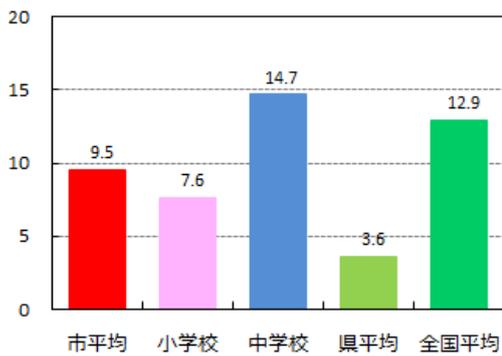


■ 普通教室のLAN整備率



出典：学校における教育の情報化の実態等に関する調査（文科省）／各年 3 月 1 日時点

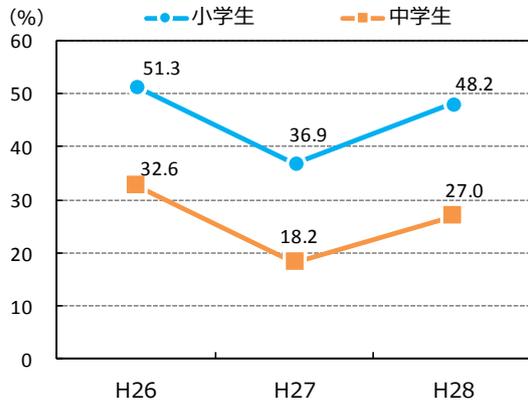
■ 普通教室の電子黒板整備率



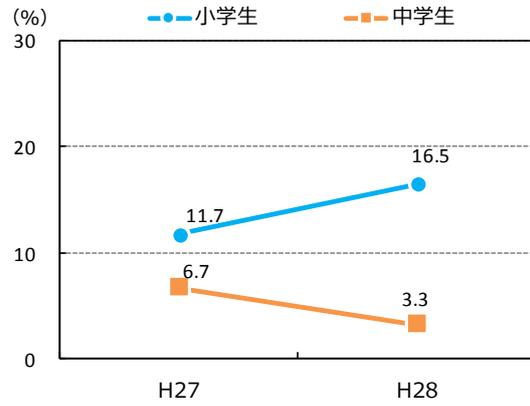
出典：学校における教育の情報化の実態等に関する調査（文科省）／平成 28 年 3 月 1 日時点

■ チャレンジ学習補助による検定試験（英検・漢検・数検）受験率

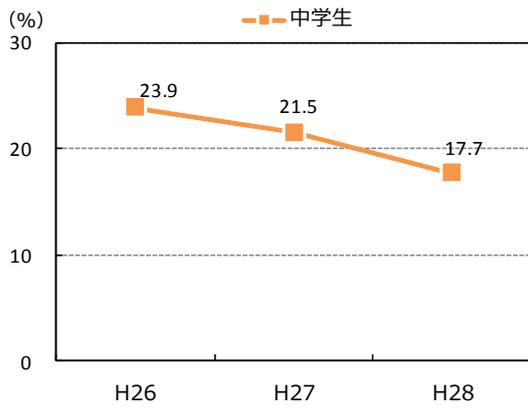
＜漢字検定＞



＜算数/数学検定＞



＜英語検定＞

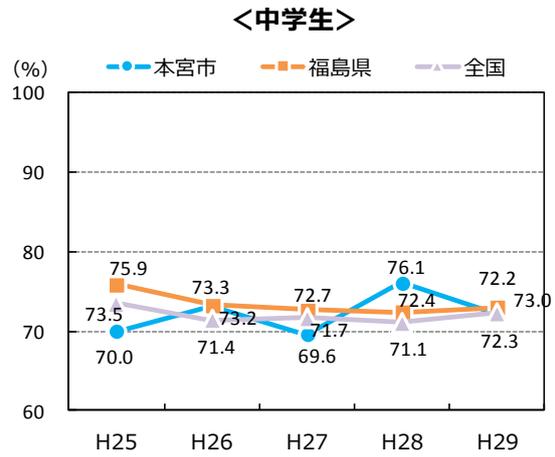
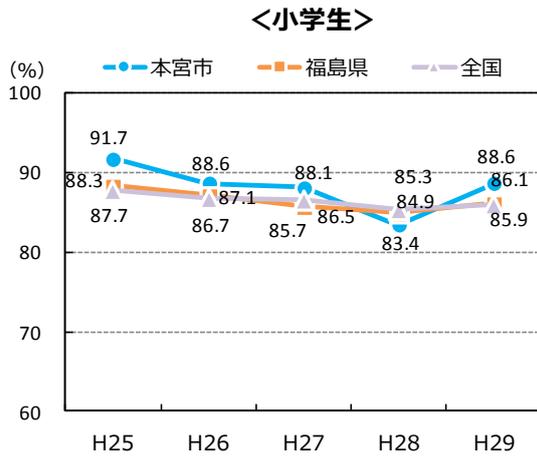


出典：成果報告書（本宮市）、教育委員会資料／各年度末

(2) 豊かな心

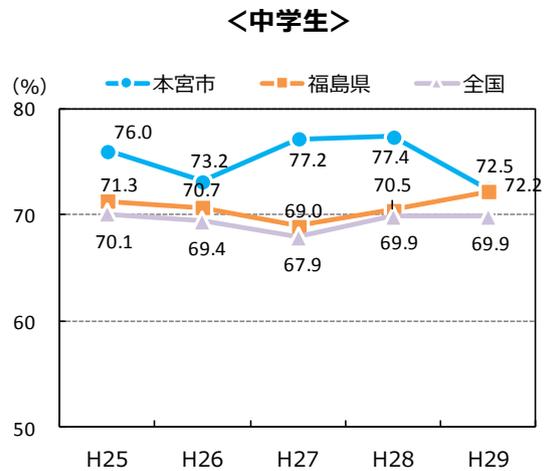
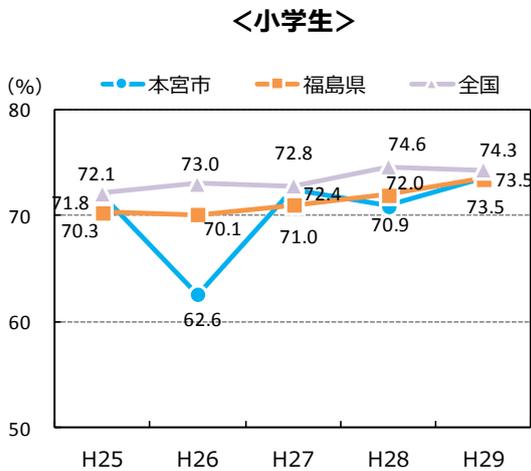
《キーワード》 課題解決、読書活動、道徳教育、不登校・いじめ防止、相談・支援体制

■ 将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合



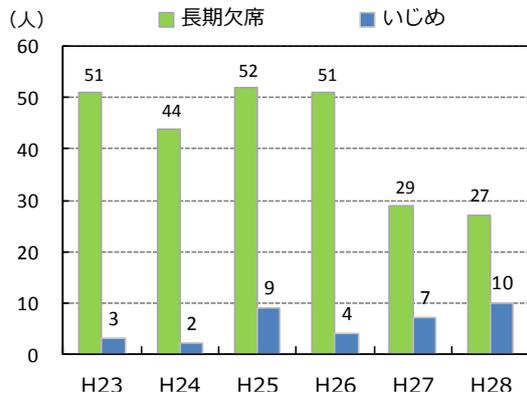
出典：全国学力・学習状況調査／各年度

■ 読書が好きな児童・生徒の割合（再掲）



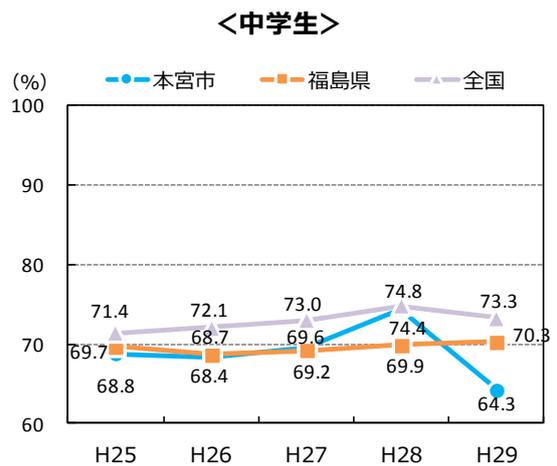
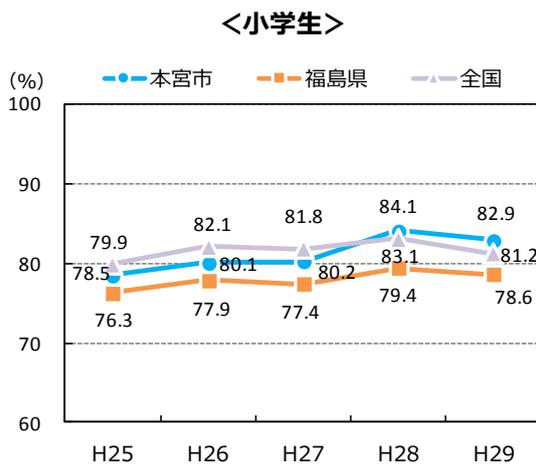
出典：全国学力・学習状況調査／各年度

■ 諸問題（不登校〔長期欠席〕件数／いじめ把握件数）



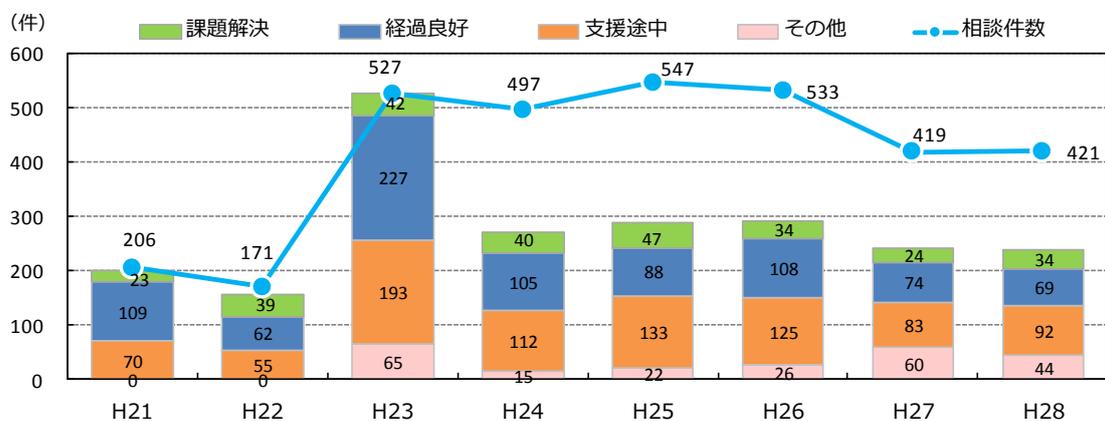
出典：成果報告書「スクールソーシャルワーカー設置事業」（本宮市）／各年度

■ いじめはどんな理由があってもいけないことと考える児童・生徒の割合



出典：全国学力・学習状況調査／各年度

■ 諸問題に係る支援状況（相談、支援状況件数）

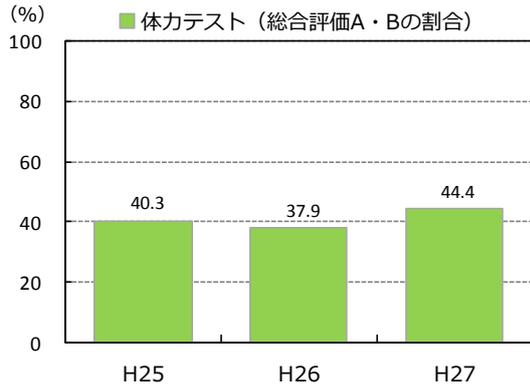


出典：成果報告書「スクールソーシャルワーカー設置事業」（本宮市）／各年度

(3) 健やかな身体

《キーワード》体力向上、学校給食、食育推進

■ 体カテスト



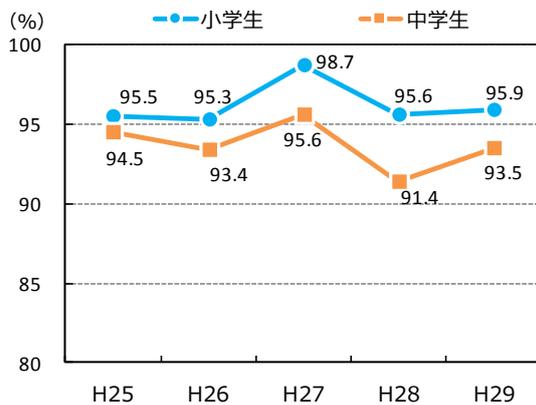
学校別データ

	単位	H25	H26	H27
本宮小学校	%	55.4	14.3	25.9
本宮まゆみ小学校	%	42.6	51.7	37.2
五百川小学校	%	19.1	27.7	47.9
岩根小学校	%	36.2	26.7	34.0
糠沢小学校	%	29.0	52.8	40.8
和田小学校	%	53.8	22.2	26.7
白岩小学校	%	28.1	33.5	44.5
本宮第一中学校	%	51.9	56.6	66.9
本宮第二中学校	%	34.9	43.3	53.3
白沢中学校	%	52.0	50.0	66.8
市全体	%	40.3	37.9	44.4

出典：本宮市教育委員会／●●時点

※データは小学5年生男女、中学2年生男女を抽出。

■ 朝食をとる児童・生徒の割合



出典：全国学力・学習状況調査／各年度

(4) 家庭・地域教育

《キーワード》家庭教育、放課後地域教育

■放課後児童クラブ利用者数（率）・日平均利用者数

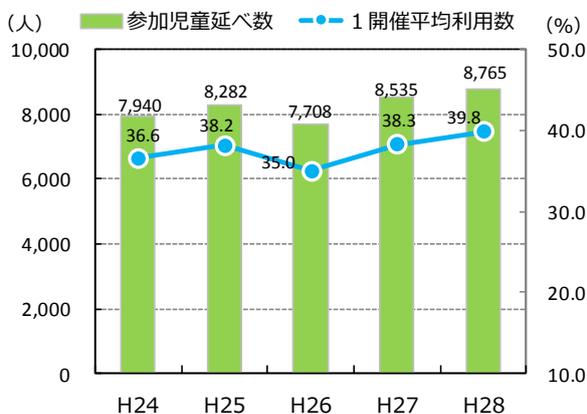


児童クラブ別・日平均利用者数

	単位	H24	H25	H26	H27	H28
もとみや放課後児童クラブ	人	25.7	25.0	33.8	40.8	50.7
まゆみ放課後児童クラブ	人	28.2	31.8	28.0	31.8	37.0
五百川放課後児童クラブ	人	35.0	31.7	27.5	28.4	33.0
岩根放課後児童クラブ	人	39.2	38.6	34.2	57.6	55.0
和田放課後児童クラブ	人	10.4	14.2	13.9	20.5	21.0
糠沢放課後児童クラブ	人	19.7	17.5	20.1	23.6	27.4
岩根放課後児童クラブ	人	17.2	16.1	11.9	18.1	26.0
市全体	人	25.0	24.9	24.1	31.4	35.6

出典：成果報告書「放課後児童健全育成事業」（本宮市）／各年度末

■放課後子ども教室（遊友クラブ）－開催あたりの平均利用者数

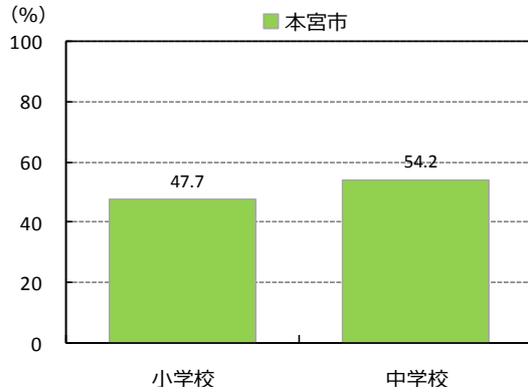


クラブ別・1開催平均利用数

	単位	H26	H27	H28
もとみや遊友クラブ	人	45.5	47.9	55.1
まゆみ遊友クラブ	人	31.3	28.2	31.0
ごひゃくがわ遊友クラブ	人	24.1	31.8	30.0
いわね遊友クラブ	人	27.0	37.7	34.1
ぬかざわ遊友クラブ	人	56.8	59.6	58.5
わだ遊友クラブ	人	35.0	32.7	36.1
しらいわ遊友クラブ	人	25.0	30.3	33.3
市全体	人	35.0	38.3	39.8

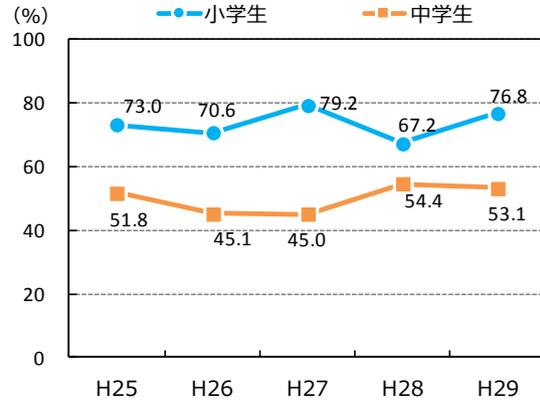
出典：成果報告書「放課後子ども教室推進事業」（本宮市）／各年度末

■家の人と将来について話をしている
児童・生徒の割合



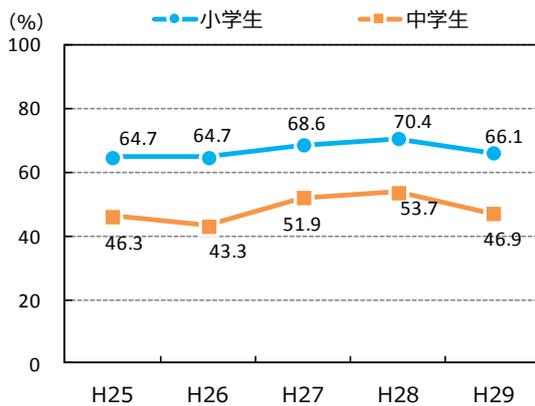
出典：全国学力・学習状況調査／平成 29 年度

■家で自分で計画を立てて勉強をしている
児童・生徒の割合

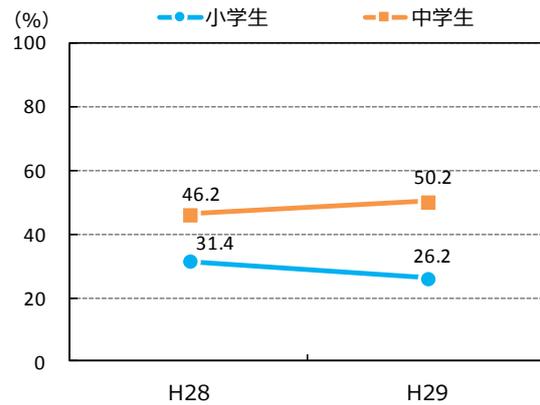


出典：全国学力・学習状況調査／各年度

■地域の行事に参加している児童・生徒の
割合

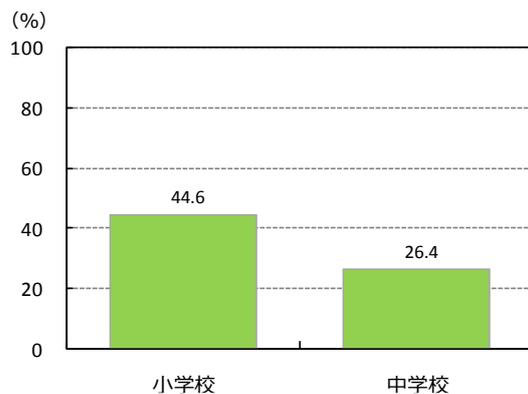


■地域社会などでボランティア活動に参加
した経験のある児童・生徒の割合



出典：全国学力・学習状況調査／各年度

■地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることのある生徒の割合

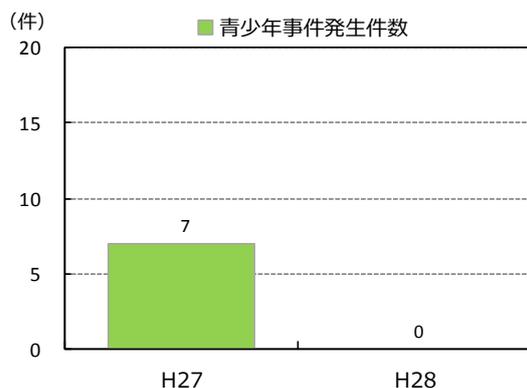


出典：全国学力・学習状況調査／平成 29 年度

(5) 青少年の健全育成

《キーワード》青少年の健全育成

■ 青少年事件発生件数



出典：平成 28 年中の地域安全白書 こおりやま北

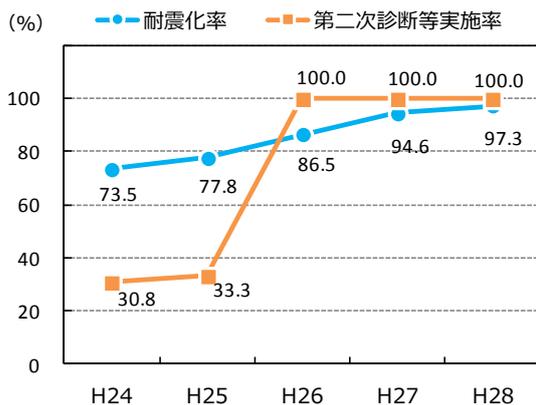
－ 犯罪と少年非行の概況－（郡山北警察署・郡山北地区防犯協会連合会）

※本宮地区（本宮市・大玉村）における刑法犯少年の人数

(6) 教育環境

《キーワード》施設環境整備、特別支援教育、進学経済支援、通学支援

■ 学校教育施設耐震化率（小中学校）



出典：公立学校施設の耐震改修状況調査（文科省）／各年 4 月 1 日時点

■ 学校教育施設エアコン設置率（小中学校）

	単位	H25	H26	H27	H28	H29
学校教育施設エアコン設置率（小中学校）	%	0.0	90.0	100.0	100.0	100.0

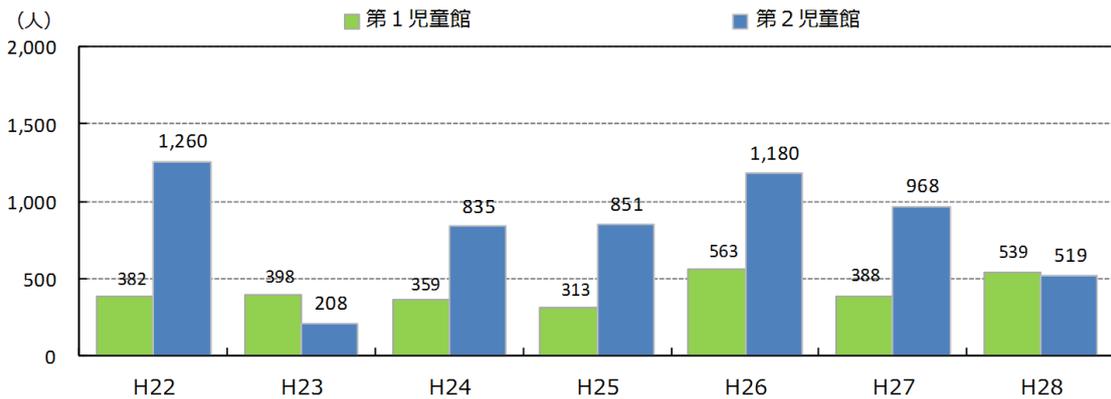
出典：平成 26 年度成果報告書「小学校空調設備整備事業」、「中学校空調設備整備事業」（本宮市）/各年度末時点
 平成 27 年度成果報告書「中学校空調設備整備事業」（本宮市）/各年度末時点
 ※全教室へのエアコン設置率

■ 放課後児童クラブ利用者数（率）・日平均利用者数（再掲）



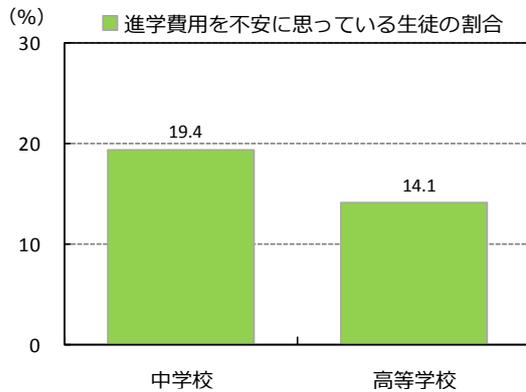
出典：成果報告書「放課後児童健全育成事業」（本宮市）/各年度末

■ 児童館利用者数（第 1 児童館・第 2 児童館）



出典：成果報告書「第 1・第 2 児童館運営事業」（本宮市）/各年度末時点

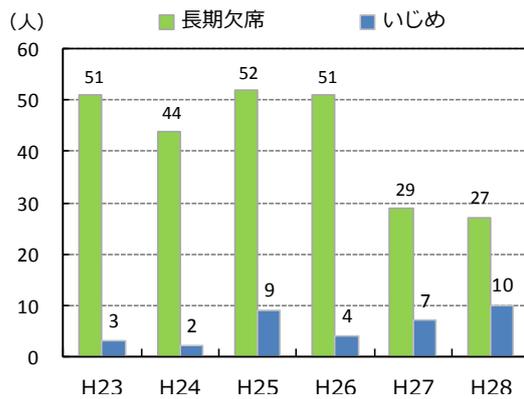
■進学にあたっての費用を不安に思っている生徒の割合



出典：市民等意識調査結果／平成 29 年

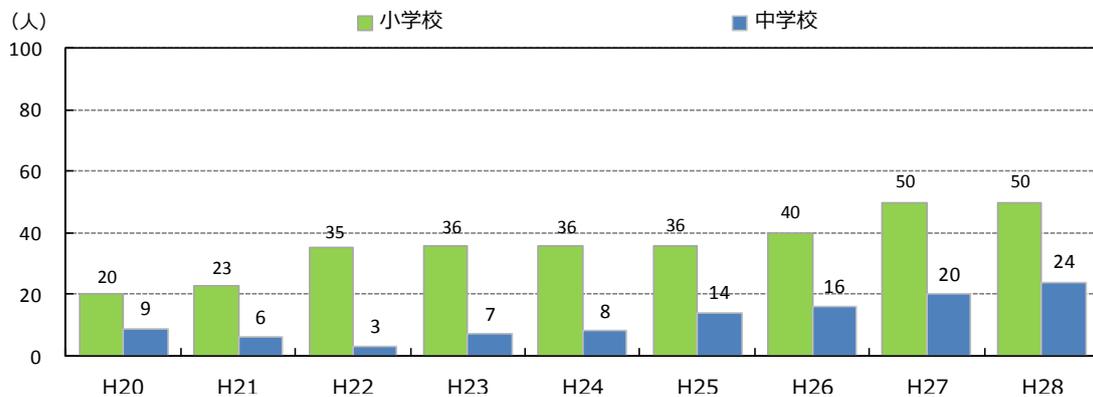
※調査対象生徒は、調査時点における市内中学校 3 年生、市内県立高校 3 年生

■諸問題（不登校〔長期欠席〕件数／いじめ把握件数）（再掲）



出典：成果報告書「スクールソーシャルワーカー設置事業」（本宮市）／各年度

■要特別支援児童・生徒数



出典：学校基本統計（福島県企画調整部統計課編）／各年 5 月 1 日時点

3 生涯学習

現状と課題

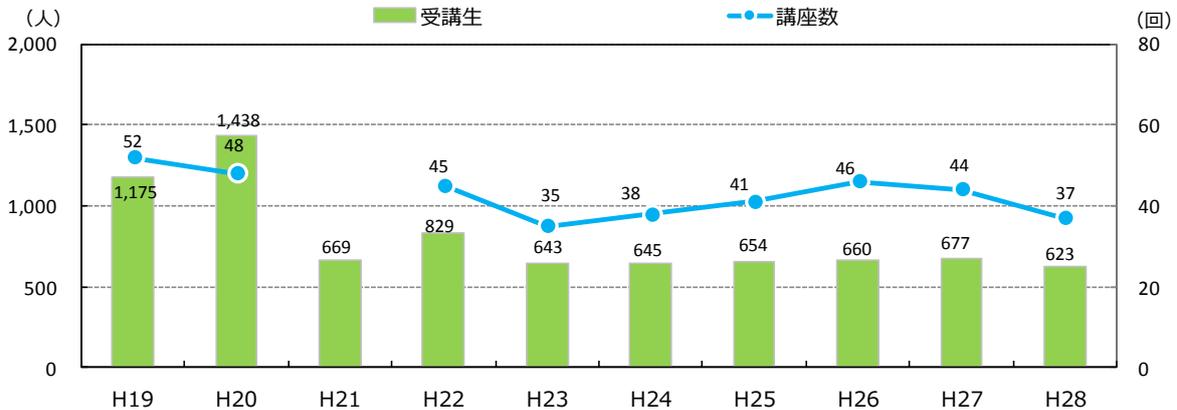
- 地域社会における課題が多様化している中、人づくりの必要性が高まっている。他方、生活の向上、職業上の能力の向上、自己の充実を目指し、主体的に生涯学び続けることは市民の生きがいにつながる重要な取組である。
- 学習した成果を地域活動やボランティア活動等に活かされることにより、地域の活力維持につながることを期待できる。
- 読書は、知識や教養に加え、豊かな心、論理的な思考力や想像力を育むことのできる、有効な生涯学習の一つである。また、市民意識調査では、多くの市民から図書の充実を求められている。
- 市民の多様なニーズに対応し、生涯のいつでもどこでも自由に学習や読書の機会を選択し、安全・安心・快適に活動ができる環境整備が必要である。

現状・課題別データ

(1) 生涯学習活動

《キーワード》 機会提供、活動支援

■ 講座参加者数



講座別参加者数

単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
青少年教育講座	108	60	-	24	24	20	(中止)	21	15	7
成人教育講座	563	612	416	393	249	245	299	318	313	262
女性教育講座	19	16	15	30	30	22	24	24	25	25
高齢者教育講座	244	243	218	204	209	211	216	189	212	213
家庭教育講座	241	507	20	25	20	33	35	32	35	21
ふれあい文化ホール	-	-	-	153	111	114	80	76	77	95
市全体	1,175	1,438	669	829	643	645	654	660	677	623

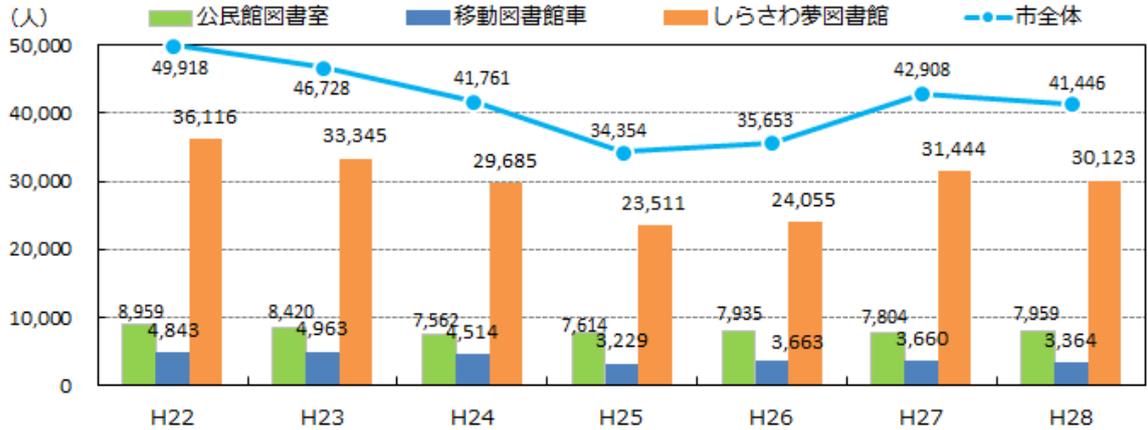
出典：成果報告書「青少年教育事業」、「成人教育事業」、「女性教育事業」、「高齢者教育事業」、「ふれあい文化ホール講座開催事業」（本宮市）／各年度

※青少年教育事業のみ成果指標より引用、H21年度の講座数のデータはなし

(2) 読書活動

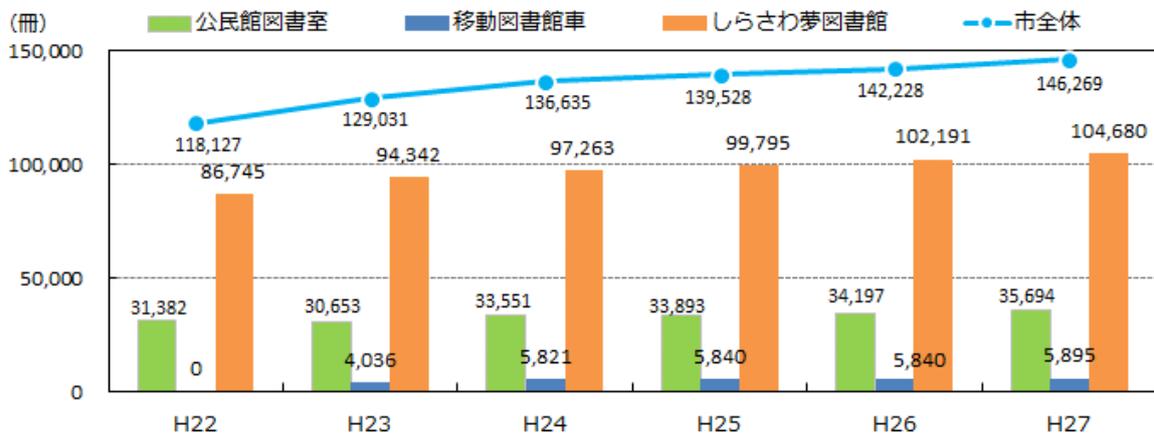
《キーワード》図書整備、読書活動推進

■ 図書館等利用者数



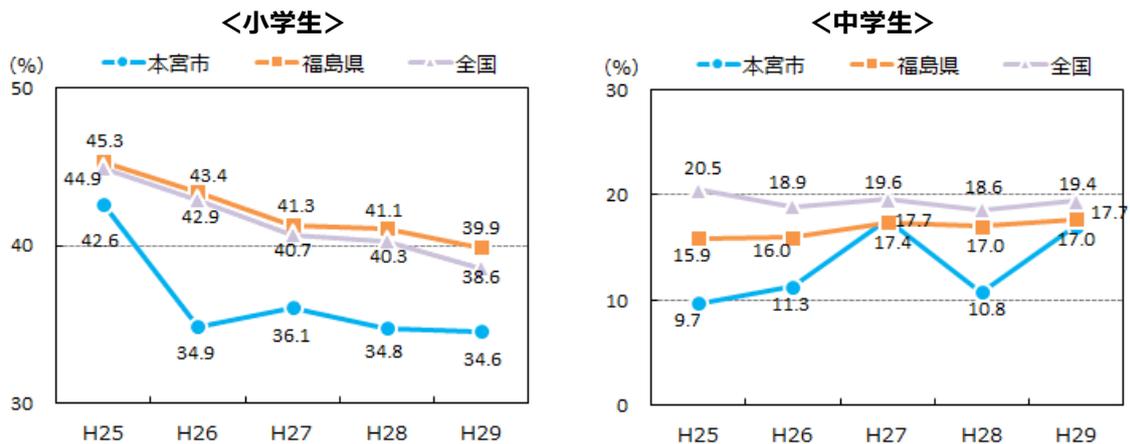
出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

■ 図書館蔵書数



出典：【公民館図書室・移動図書館車】成果報告書（本宮市）／各年度末
【しらさわ夢図書館】福島県統計年鑑／各年4月1日時点

■ 放課後、休日等に図書館等を利用する児童・生徒の割合

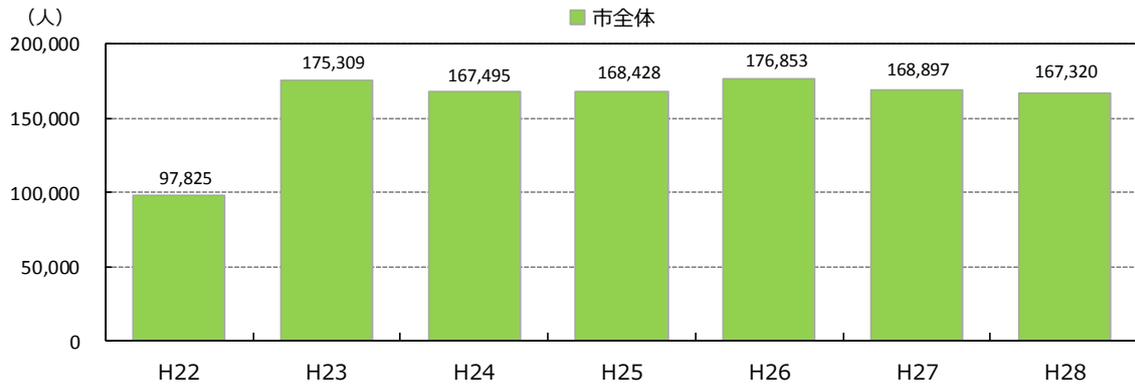


出典：全国学力・学習状況調査／各年度

(3) 学習環境

《キーワード》施設環境整備

■ 公民館利用者数（本宮・白沢）



施設別利用者数

	単位	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
中央公民館	人	47,810	47,729	51,726	48,893	47,043	48,275	44,870
サンライズもとみや	人	-	32,334	23,048	27,623	30,596	26,465	22,976
青田地区公民館	人	-	13,815	10,058	9,181	9,668	8,574	8,673
荒井地区公民館	人	-	21,080	4,790	4,927	6,533	5,056	5,719
仁井田地区公民館	人	-	10,755	11,489	10,213	11,191	10,037	8,465
高木地区公民館	人	-	7,961	7,263	7,022	6,855	7,084	7,819
岩根地区公民館	人	-	4,411	14,874	19,645	20,740	7,864	7,951
白沢公民館	人	19,775	18,383	20,609	17,092	18,917	23,173	24,469
白沢公民館和田分館	人	6,877	3,140	5,329	5,319	5,719	9,708	11,446
白沢公民館糠沢分館	人	6,640	5,945	5,181	6,525	6,024	11,458	14,769
白沢公民館白岩分館	人	5,142	1,960	5,198	3,834	5,167	4,065	2,882
白沢公民館長屋分館	人	3,101	1,371	1,885	2,151	2,138	2,139	2,012
白沢公民館稲沢分館	人	5,124	4,009	3,808	3,927	4,382	2,680	3,038
白沢公民館松沢分館	人	3,356	2,416	2,237	2,076	1,880	2,319	2,231
市全体	人	97,825	175,309	167,495	168,428	176,853	168,897	167,320

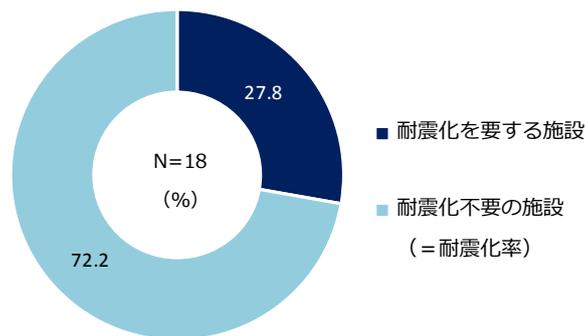
出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

■生涯学習施設一覧

No.	施設名	所在地	竣工
1	中央公民館	本宮字矢来	1977/6
2	青田地区公民館	青田字行人段	1975/3
3	荒井地区公民館	荒井字茶園	1976/3
4	仁井田地区公民館	仁井田字寺下	1977/2
5	高木地区公民館	高木字大学	1979/2
6	岩根地区公民館	岩根字上土淵	—
7	白沢公民館	白岩字堤崎	1986/11
8	白沢公民館和田分館	和田字久保	1984/3
9	白沢公民館糠沢分館	糠沢字原	1994/3
10	白沢公民館白岩分館	白岩字関根	1991/3
11	白沢公民館長屋分館	長屋字小山	1982/3
12	白沢公民館稲沢公民館	稲沢字見切田	1988/10
13	白沢公民館松沢分館	松沢字池平	1985/3
14	歴史民俗資料館	本宮字南町	1924年
15	白沢ふれあい文化ホール	白岩字堤崎	1989/9
16	サンライズもとみや	本宮字矢来	1989/9
17	しらさわカルチャーセンター	和田字牛ヶ平	1994/2
18	しらさわ夢図書館	白岩字堤崎	1997/3

出典：平成 29 年度 本宮市の教育／平成 29 年 9 月時点

■公民館等社会教育施設耐震化率



出典：耐震診断結果聞き取りによる（本宮市生涯学習センター）／平成 29 年度末時点

※耐震性能ランク『B 判定以下』

4 スポーツ

現状と課題

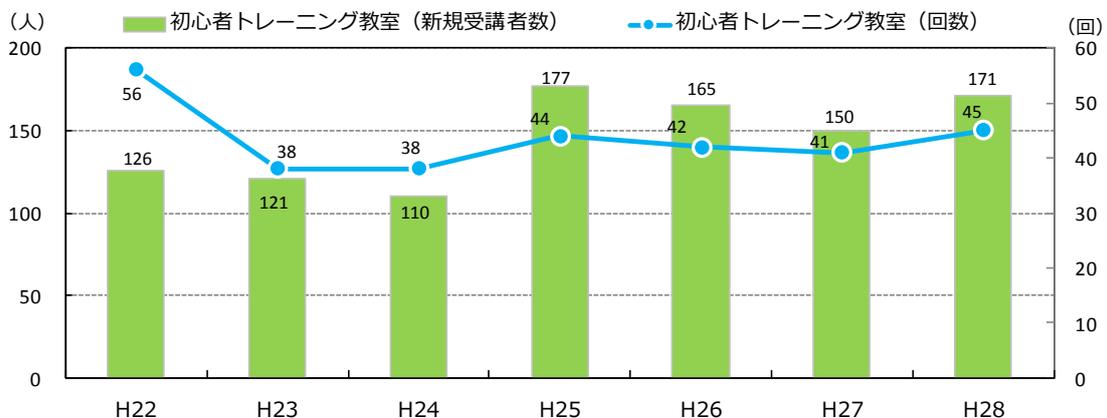
- スポーツは、健康増進や体力の維持向上に有効だけでなく、スポーツ活動を通じた交流などによる地域活性化にも効果的である。
- 市内には、バラエティに富んだスポーツ施設があり、多くの利用者が市内外から訪れスポーツを楽しんでいる。
- 市民がいつでもどこでも誰とでもスポーツを楽しめる環境づくりが重要である。
- 市では、各種スポーツ教室、ロードレース大会、駅伝競走大会などのスポーツイベントを開催している。また、総合型スポーツクラブの会員数は年々増加している。
- 平成 28（2016）年には、障がい者も安心して利用できる全天候型屋内運動施設「まゆみアリーナ」がオープンした。これらの施設の費用対効果を高めるため、さらなる利活用を図る必要がある。
- 2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの「復興『ありがとう』ホストタウン」に登録された。このことから、英国をはじめ国内外からの多くの関係者や観光客が来訪することが期待されており、今後は、市民・地域・企業・行政が連携しながら、将来にわたり観光地等の誘客、人材育成等につなげていくことが重要となる。

現状・課題別データ

（1）スポーツ活動

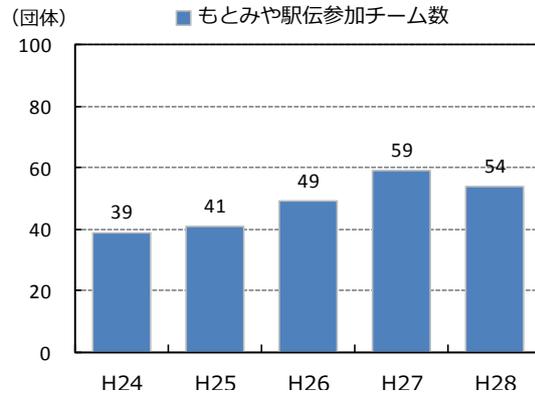
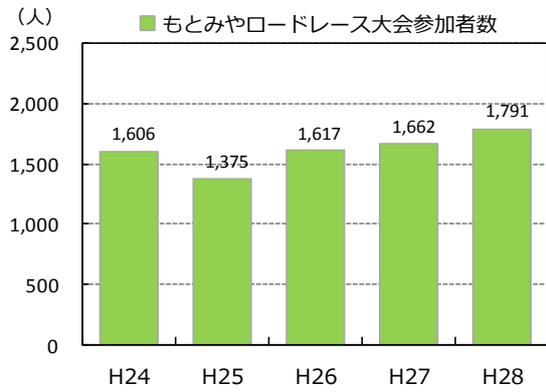
《キーワード》スポーツ教室、スポーツイベント、スポーツ交流、東京オリンピック・パラリンピック

■スポーツ教室参加者数



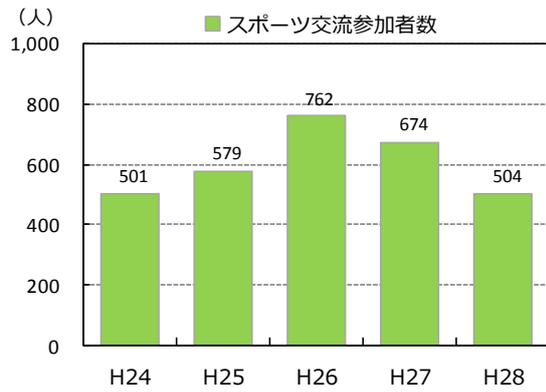
出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

■スポーツイベント参加者数



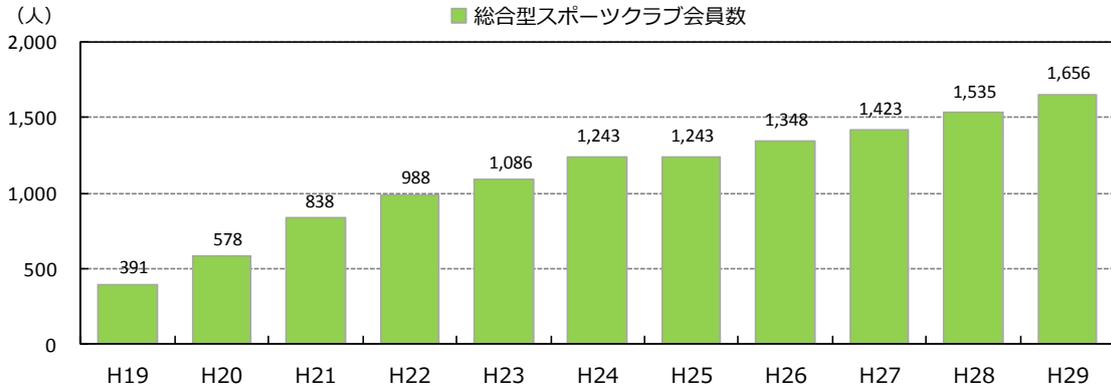
出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

■スポーツ交流参加者数



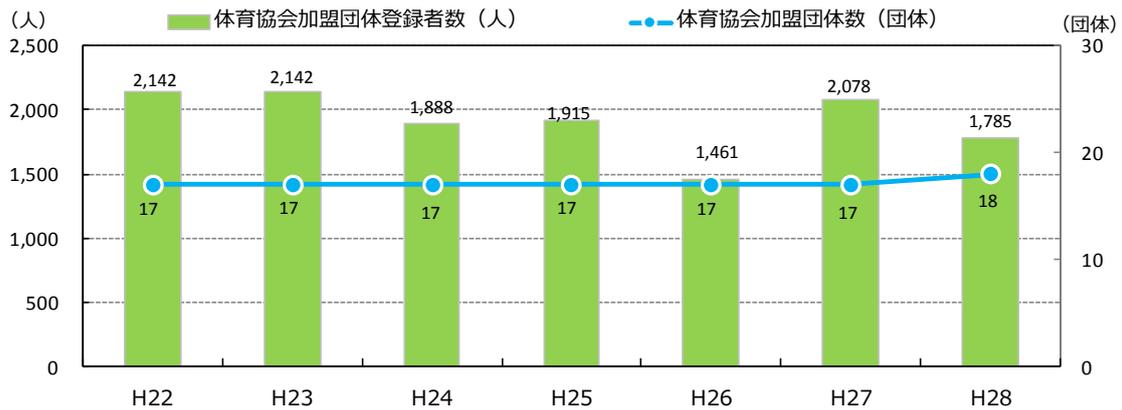
出典：都市交流事業実績報告書（本宮市）／各年度末

■総合型スポーツクラブ会員数



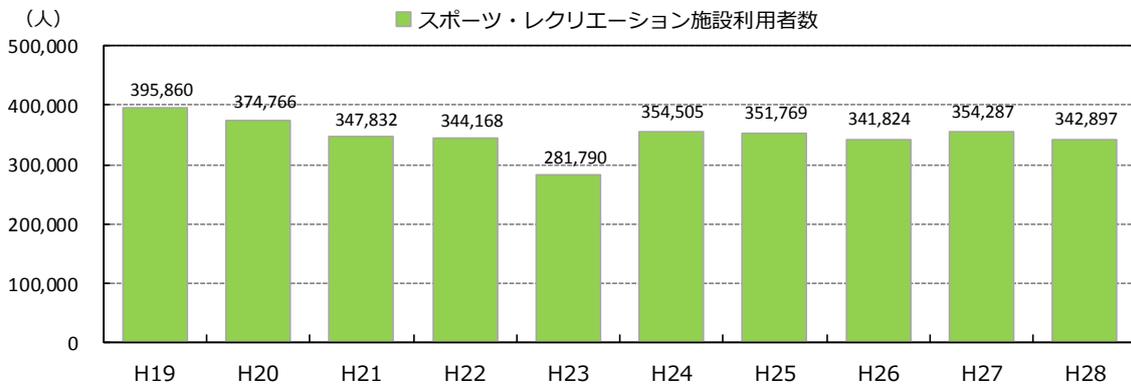
出典：本宮市総合計画「主な成果指標」／各年度

■体育協会加盟団体数・登録者数



出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

■スポーツ・レクリエーション施設利用者数



出典：本宮市総合計画「主な成果指標」／各年度

(2) スポーツ環境

《キーワード》スポーツ施設整備

No.	施設名	所在地	竣工
1	本宮運動公園	高木字黒作	1993/7
2	白沢体育館	白岩字堤崎	1990/10
3	荒井体育館	荒井字茶園	1980/12
4	仁井田体育館	仁井田字寺下	1980/12
5	長屋体育館	長屋字小山	1987/1
6	稲沢体育館	稲沢字見切田	1992/9
7	白沢運動場	白岩字堤崎	1995/3
8	神座運動場	関下字東原	1983/10
9	青田運動場	青田字来ノ池	—
10	荒井運動場	荒井字茶園	—
11	仁井田運動場	仁井田字寺下	—
12	和木沢運動場	和田字大木内	1987/3
13	長屋みややま運動場	長屋字宮山	1995/7
14	稲沢運動場	稲沢字五百田	1988/11
15	松沢運動場	松沢字宮前	1982/7
16	しらさわグリーンパーク	糠沢字石神	1994/6
17	白沢野球場	糠沢字五味内	1980/3
18	市民プール	本宮字舞台	1997/3
19	白沢B&G海洋センター	白岩字堤崎	1990/5
20	白沢庭球場	白岩字堤崎	1988/3
21	白沢柔剣道場	白岩字柳内	1995/3
22	白沢シルバースポーツセンター	和田字牛ヶ平	1999/11
23	子ども屋外プール	本宮字舞台	2015/3
24	屋内運動場（まゆみアリーナ）	関下字東原	2016/9
25	コミュニティ交流広場パークゴルフ場	高木字長瀬	2017/6

出典：平成 29 年度 本宮市の教育／平成 29 年 9 月時点

5 歴史・文化・芸術

現状と課題

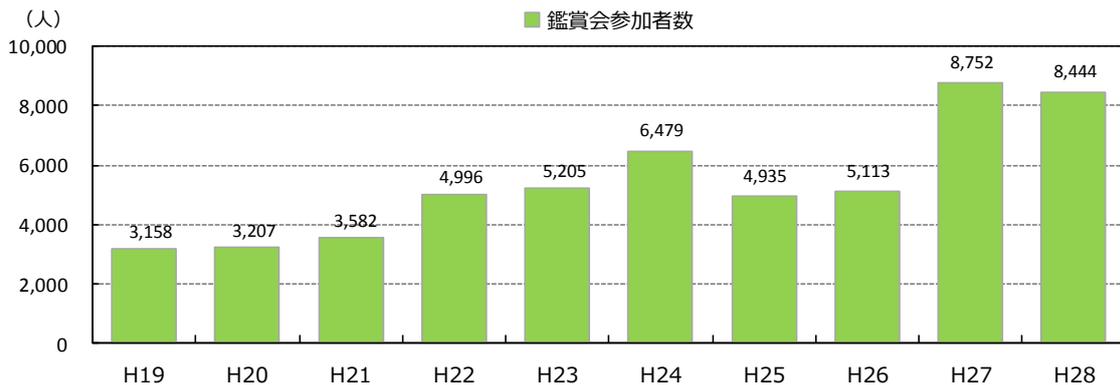
- 本市には、有形・無形の様々な文化財がある。これら古くから受け継がれてきた郷土の歴史遺産を保護・保存しながら、後世への伝承や継承者の育成を行っていくことが必要である。
- これらの文化財の有効活用が重要であり、学校教育や観光分野と連携を図りながら、子供たちに地元の歴史や文化を伝えながら郷土愛を育むとともに、市内外に発信し誘客活動を強化することが求められている。
- 施設の利活用にあたっては、各施設の耐震性・良好な景観の確保などの環境整備に努める必要がある。
- 芸術は、楽しさ、感動、安らぎなどを与え、豊かな人間性、創造性、人と人が共感・理解し合う感性などを育むことが期待できる。このことから、幼少・青少年期から本物の芸術にふれあう機会を提供することが重要である。

現状・課題別データ

(1) 歴史・文化・芸術振興

《キーワード》鑑賞機会提供、活動支援

■ 鑑賞会参加者数（文化芸術開催事業）



出典：成果報告書「文化芸術開催事業」（本宮市）／各年度末時点

■ 文化財保存団体数

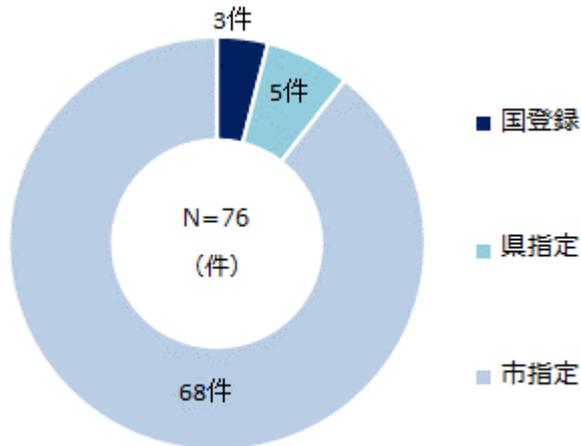
	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
文化財保存団体数	団体	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14

出典：成果報告書「文化芸術開催事業」（本宮市）／各年度末時点

(2) 保護・活用

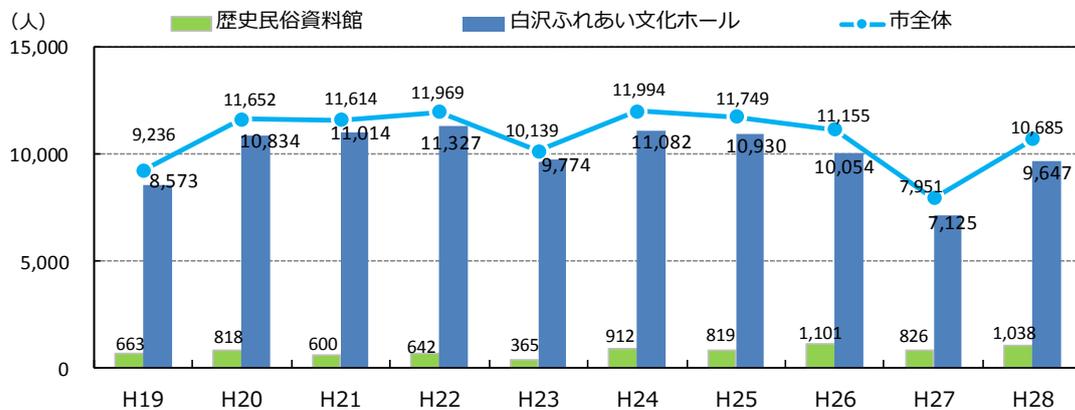
《キーワード》 民俗芸能、市内史跡、歴史民俗資料館、文化ホール、施設環境整備

■ 指定文化財数



出典：本宮市の教育（本宮市）／平成 28 年度

■ 施設来館者数（資料館、文化ホール）



出典：成果報告書「資料館管理運営事業」、「ふれあい文化ホール管理運営事業」（本宮市）／各年度
※（歴史民俗資料館）入館者数、（白沢ふれあい文化ホール）観覧者数

■本宮市の文化財（国登録、県指定、市指定等）

No.	施設名	所在地	No.	施設名	所在地
国登録文化財			41	申供養塔C（1）	仁井田字申
1	蛇の鼻御殿 本館1棟	本宮字蛇の鼻	42	不動堂供養塔（1）	仁井田字西町
2	蛇の鼻御殿 蔵座敷1棟	本宮字蛇の鼻	43	不動堂供養塔（2）	仁井田字西町
3	白沢の養蚕関係用具 331点	白岩字堤崎	44	不動堂供養塔（3）	仁井田字西町
県指定文化財			45	新昌寺供養塔（2）	仁井田字東町
4	天王壇古墳出土品一括	本宮字南町裡	46	田中稲荷供養塔	仁井田字田中
5	白岩の太々神楽	白岩字宮ノ下	47	高木寺供養塔	高木字舟場
6	木造毘沙門天及吉祥天賦師童子像3体	和田字東屋口	48	石網供養塔	関下字石網
7	岩角山	和田字東屋口	49	諏訪神社獅子舞	長屋字諏訪
8	塩ノ崎の大ザクラ	白岩字塩ノ崎	50	八ツ田内七福神舞	白岩字塩ノ崎
市指定文化財			51	稲沢御田植踊	稲沢字団子森
9	庚申壇古墳	本宮字竹花	52	春日神社太々神楽	稲沢字春日
10	天王壇古墳	本宮字南ノ内	53	鹿島神社太々神楽	松沢字宮前
11	岩井の清水	青田字岩井	54	高松神社太々神楽	糠沢字高松
12	田中の肥上桜	仁井田字田中	55	和田神社太々神楽	和田字中ノ宮
13	日輪時の枝垂桜	本宮字山田	56	長屋神社太々神楽	長屋字宮山
14	安達太良神社の森	本宮字館ノ越	57	荒井の太々神楽	荒井字荒井
15	碓森のツバキ	青田字碓森	58	北部先囃子	本宮
16	寺下のかき松	仁井田字寺下	59	南部先囃子	本宮
17	苗代田神社のモミ	岩根字小屋館山	60	東部先囃子	本宮
18	仁井田のモミジ	仁井田字西町	61	館ヶ岡板碑	和田字館ヶ岡
19	誓伝寺のキャラボク	本宮字南山神	62	境ノ内五輪塔	和田字境ノ内
20	本陣のクロマツ	本宮字大町	63	浮彫三尊来迎板碑	白岩字馬場
21	羽黒神社の森	関下字羽黒	64	鹿島神社の絵馬	松沢字宮前
22	竹花のカキノキ	本宮字竹花	65	桜本の臼石	和田字桜本
23	高木寺の鯛口	高木字舟場	66	城ノ内古戦場	糠沢字城ノ内
24	太郎丸観音堂供養塔	本宮字太郎丸	67	高松山	糠沢字高松
25	太郎丸観音堂供養塔（2）	本宮字太郎丸	68	白旗山古墳	和田字白旗
26	太郎丸供養塔	本宮字太郎丸	69	糠塚古墳	糠沢字耕網
27	日輪時供養塔	本宮字山田	70	花水庵寺跡	和田字西明内
28	館供養塔	青田字館	71	戸ノ内八幡桜	糠沢字羽黒
29	神宮寺供養塔（1）	荒井字荒井	72	浮島神社の大櫓	白岩字宮ノ下
30	神宮寺供養塔（2）	荒井字荒井	73	金礼寺の枝垂れ銀杏	白岩字根岸
31	神宮寺供養塔（3）	荒井字荒井	74	宮久保の大桜	長屋字鼓石
32	白山供養塔（3）	荒井字白山	75	竹ノ作の桜	白岩字竹ノ作
33	荒井観音堂供養塔（6）	荒井字五百川	その他		
34	荒井観音堂供養塔（8）	荒井字五百川	76	わんだの清水	和田字刑部内
35	五百川供養塔A	仁井田字五百川	77	抱付観音	岩根字深沢
36	五百川供養塔B（1）	仁井田字五百川	78	仙道人取合橋合戦跡	青田字茂庭
37	五百川供養塔C（1）	仁井田字五百川	79	平安の歌碑	本宮字下町
38	申供養塔A（1）	仁井田字申	80	岩井の歌碑	青田字岩井
39	申供養塔A（4）	仁井田字申	81	文覚上人巡錫の地	青田字錫杖
40	申供養塔B（1）	仁井田字申	82	本宮映画劇場	本宮字中條

出典：本宮市の教育（本宮市）、文化庁「国指定文化財等データベース」／平成29年度

1 健康・医療

現状と課題

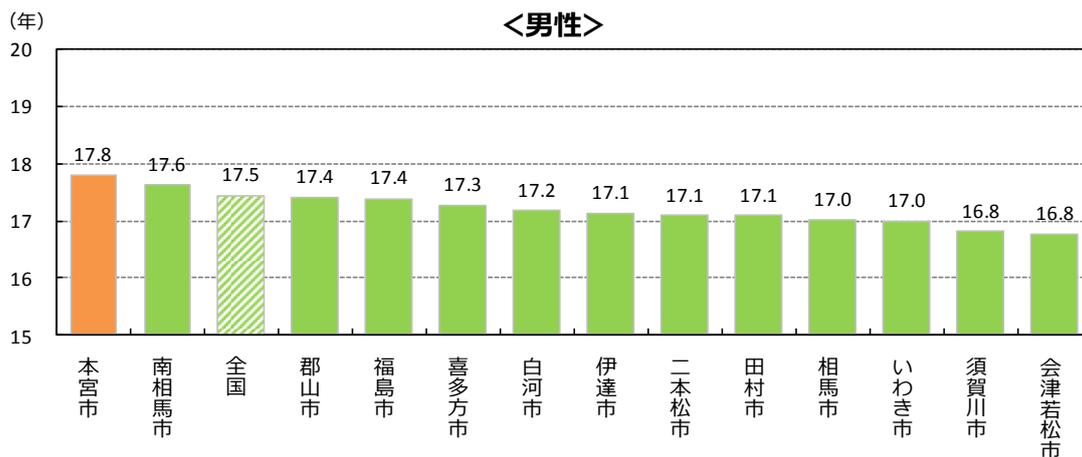
- 健康は、市民意識調査で最も重要性が高い分野の一つとして評価されている。
- 市民が健康で安心な生活を送れるよう、妊娠・出産・子育て、また成人・高齢期まで切れ目のない保健・医療支援体制の充実が求められている。
- 発達障がい、虐待、出産・育児に対する不安など子どもに関する多様な課題に対して包括的な支援が求められている。
- 生活習慣の変化により疾病構造が変化し、がんや心疾患等の生活習慣病に罹患する市民が多くなっている。
- 生活習慣病の増加は、個人だけでなく、家族や社会的な負担の増加につながる大きな社会問題となっている。
- 国民健康保険加入者の一人あたりの医療費は年々増加傾向にあり、医療費抑制が要な課題となっている。
- 生活習慣病の減少や医療費抑制には、特定健康診査等の受診率向上と適切な保健指導実施と実践、食育の推進などによる未然予防等が重要である。
- 福島県が公表した対象年齢 65 歳における健康寿命を表す「お達者度」で、本市は、県内 13 市中、男性が第 1 位、女性が第 5 位という結果であった。(再掲)
- 今後さらに健康寿命を延伸するためには、「生活習慣の発症・重症化予防」に加え、「住民主体の健康づくり・食育の推進」や「健康を支え、守るための環境づくり」など総合的な取組が必要である。
- 東日本大震災等による放射線に対する健康管理を継続して行っているが、今後は市内外に対する正しい知識の普及と不安の払しょくが重要性を増していく。

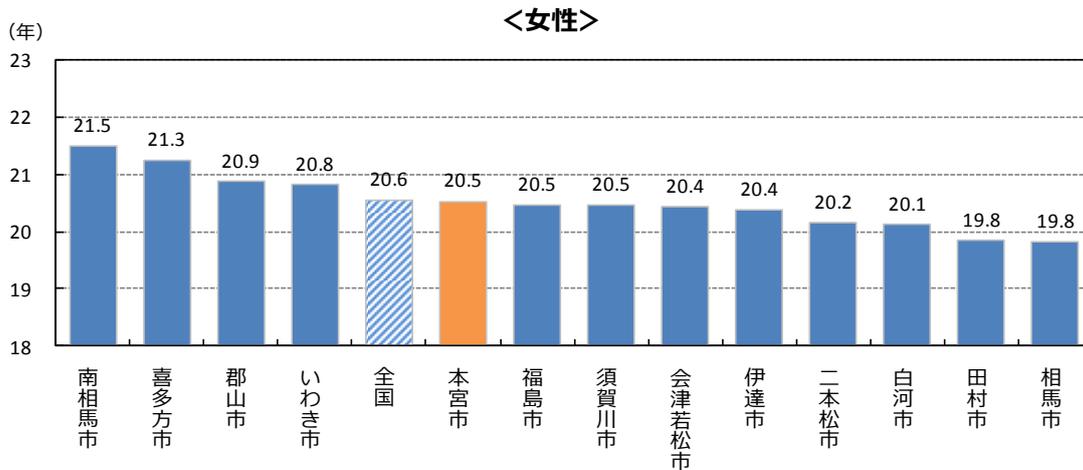
現状・課題別データ

(1) 健康管理

《キーワード》生活習慣病（感染症含む。）予防、母子健康、食育、自殺対策、放射線管理

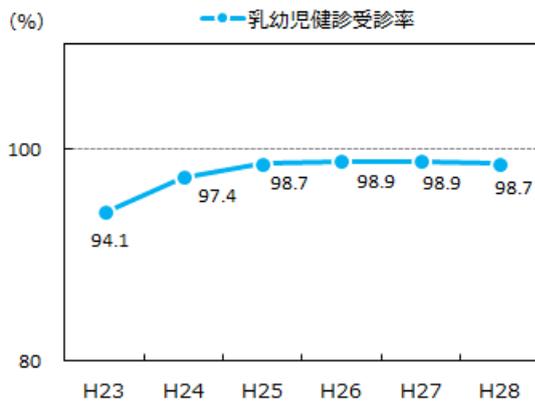
■健康寿命（お達者度）（再掲）





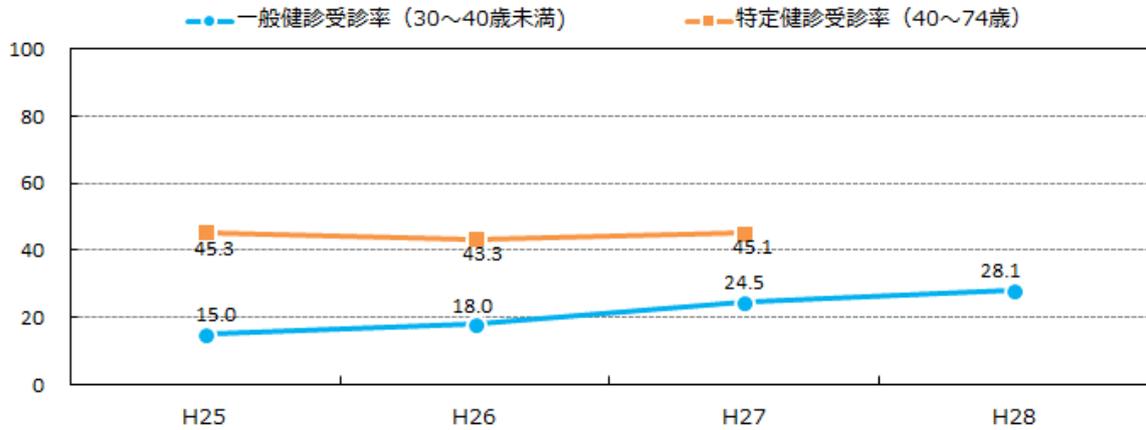
出典：福島県市町村別「お達者度(65歳の日常生活動作が自立している期間の平均(年))」
 (福島県保健福祉部・公立大学法人福島県医科大学健康増進センター) /平成 25 年
 ※65歳+お達者度=健康寿命 【例】本宮市(男性): 65歳+17.8年=82.8歳

■乳幼児健診受診率



出典：成果報告書(本宮市) /各年度末

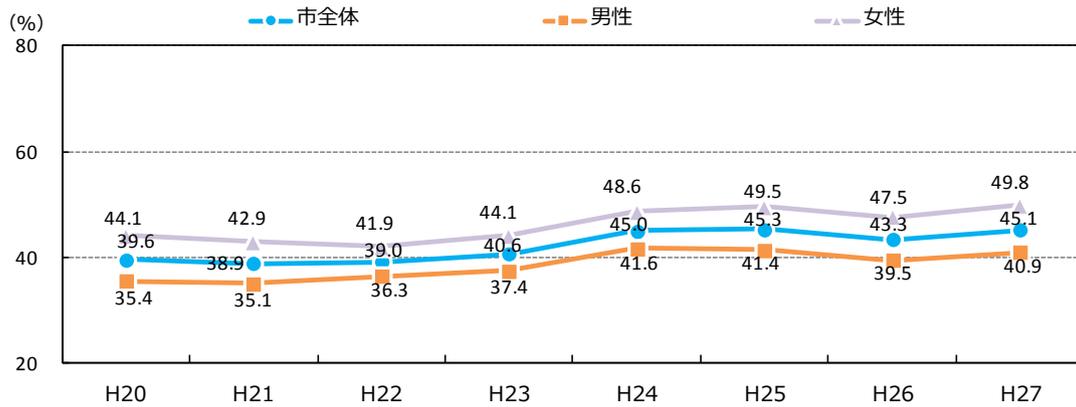
■ 一般健診受診率（30～40歳未満）・特定健診受診率



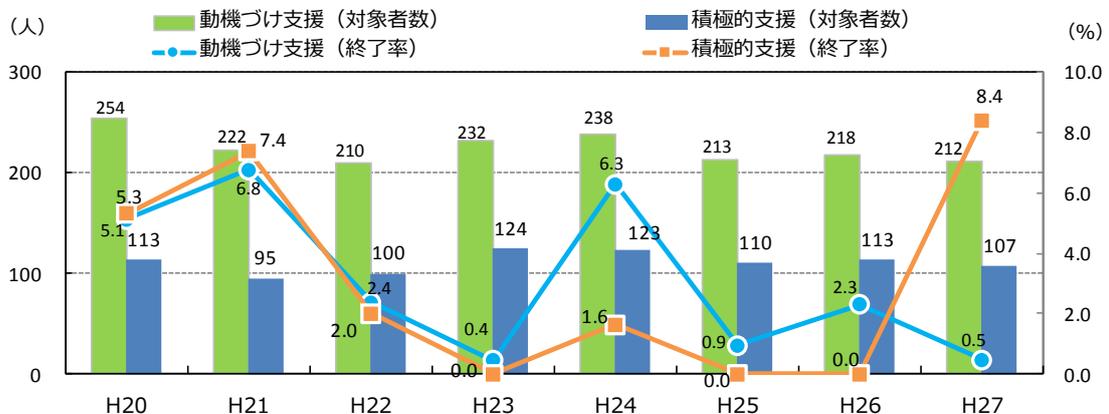
出典：（一般健診）成果報告書（本宮市）／各年度末
（特定健診）特定健診・特定保健指導終了等（福島県国民健康保険団体連合会／各年11月時点
H25年度から30-39歳の健診対象者は社会保険本人の希望者。

■ 特定健診受診率・特定保健指導実施率等

<特定健診受診率（性別）>

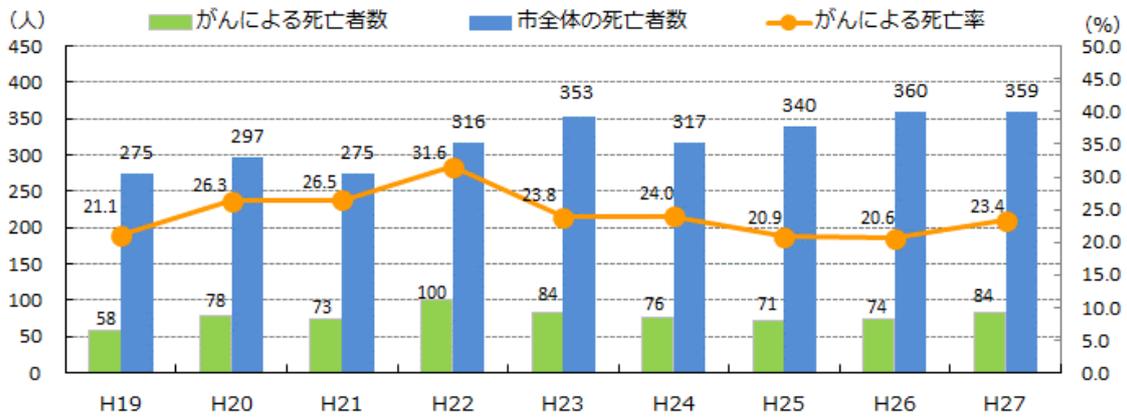


<特定保健指導実施率>



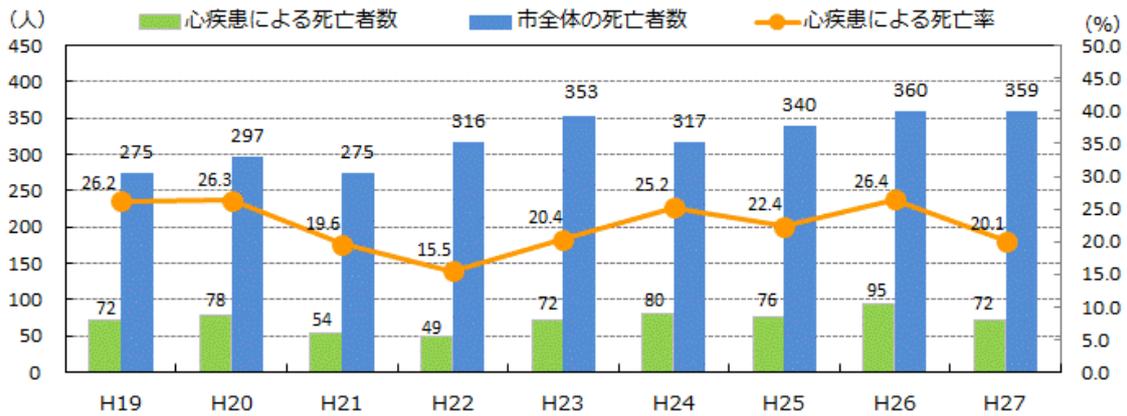
出典：特定健診・特定保健指導～特定健診受診率・特定保健指導終了率等（福島県国民健康保険団体連合会）／不明

■がんによる死亡率



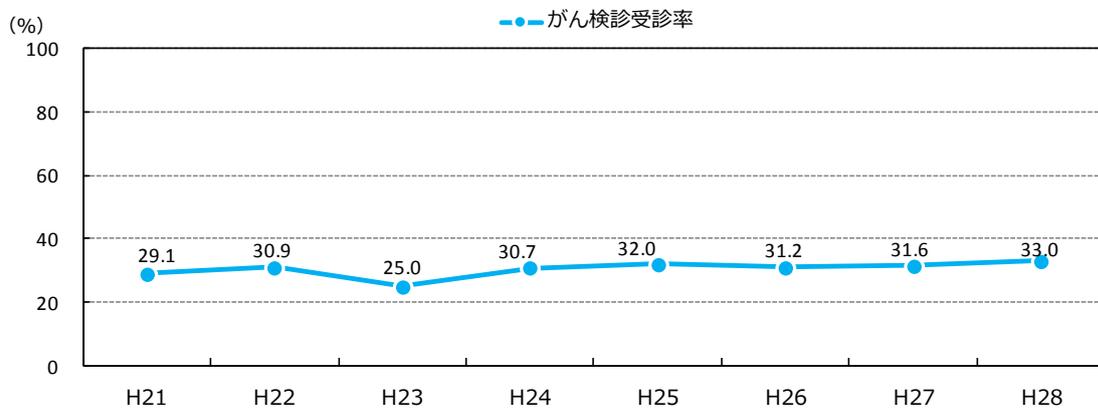
出典：福島県人口動態統計確定数／各年 12 月 31 日時点

■心疾患による死亡率



出典：福島県人口動態統計確定数／各年 12 月 31 日時点

■がん検診受診率

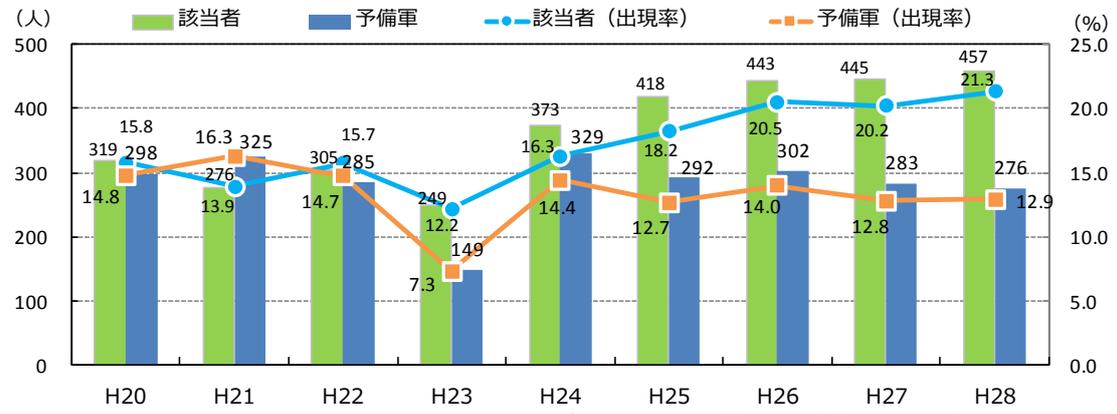


検診種別受診率

	単位	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
胃がん (30歳代)	%	26.9	28.2	21.6	28.5	32.1	28.2	30.0	33.6
胃がん (40歳以上)	%	27.5	27.1	23.0	24.9	26.2	25.7	25.9	25.5
大腸がん (30歳代)	%	30.6	37.1	27.3	41.5	44.2	38.3	38.6	47.7
大腸がん (40歳以上)	%	34.0	33.7	29.6	37.8	38.5	37.1	39.0	38.8
肺がん	%	42.8	42.3	36.8	39.7	39.7	41.0	42.8	42.5
前立腺がん	%	37.6	39.2	32.7	36.3	39.3	40.4	42.9	41.6
子宮頸がん	%	15.1	19.3	15.0	17.3	16.7	17.3	15.5	16.2
乳がん	%	18.1	20.6	14.2	19.6	19.2	21.3	18.2	18.4
市全体	%	29.1	30.9	25.0	30.7	32.0	31.2	31.6	33.0

出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

■ 特定健康診査メタボリックシンドローム該当者数



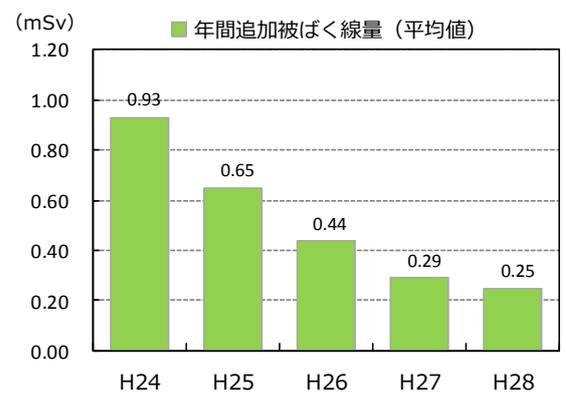
出典：データランド（福島県国民健康保険団体連合会）／各年度末時点

■ ホールボディカウンタによる内部被ばく検査結果

	単位	H24	H25	H26	H27	H28
ホールボディカウンタ検査による預託実効線量が1 mSv以上の者	人	0	0	0	0	0

出典：ホールボディカウンタによる内部被ばく検査結果（本宮市保健課）／各年度末
※成人は50年間、子どもは70歳までに受けるとされる内部被ばく線量

■ 年間追加被ばく線量（平均値）

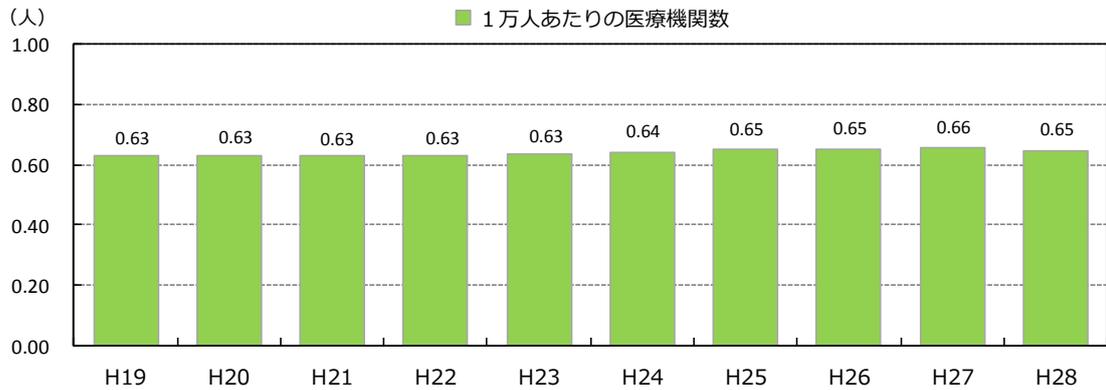


出典：ガラスバッジ測定結果（本宮市保健課）／各年度末
※1mSv/年未満を目標とする。

(2) 医療体制

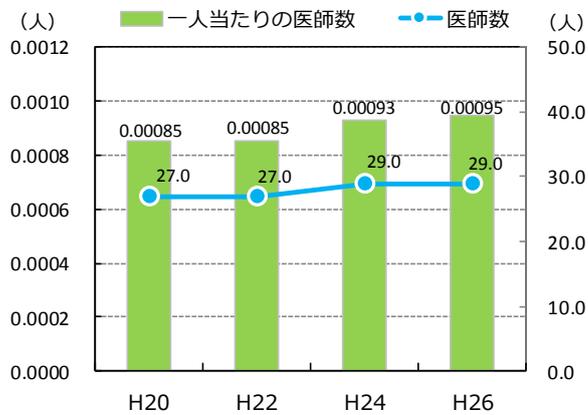
《キーワード》 地域医療体制

■ 1万人あたりの医療機関数



出典：医療施設調査（厚生労働省）／各年 10月1日現在

■ 1人あたりの医師数



出典：医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省）／各年 12月31日時点

■ 休日・夜間医療提供病院数

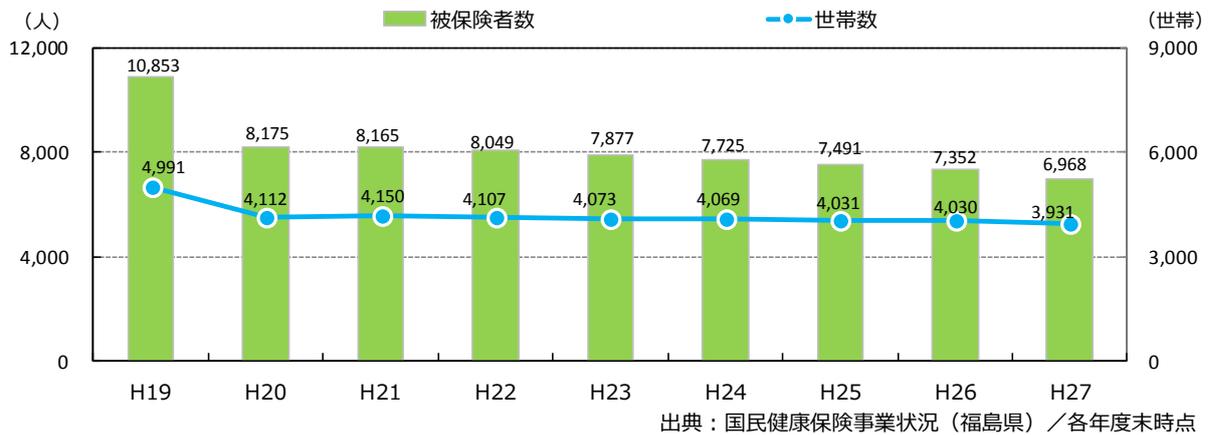
	単位	H24	H25	H26	H27	H28
休日・夜間医療提供病院数	箇所	4	4	4	4	4

出典：本宮市総合戦略「KPI」／各年度

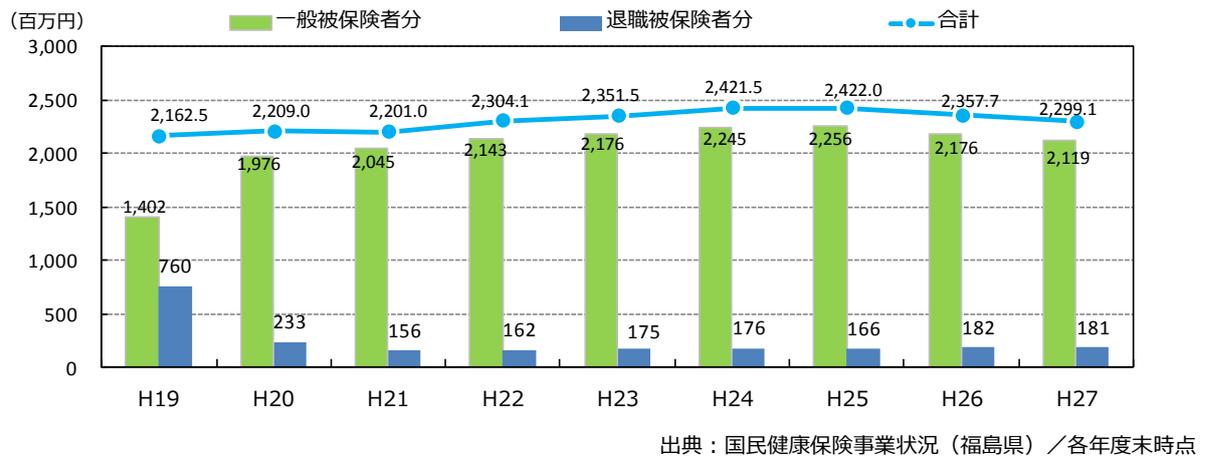
(3) 医療保険制度

《キーワード》国民健康保険

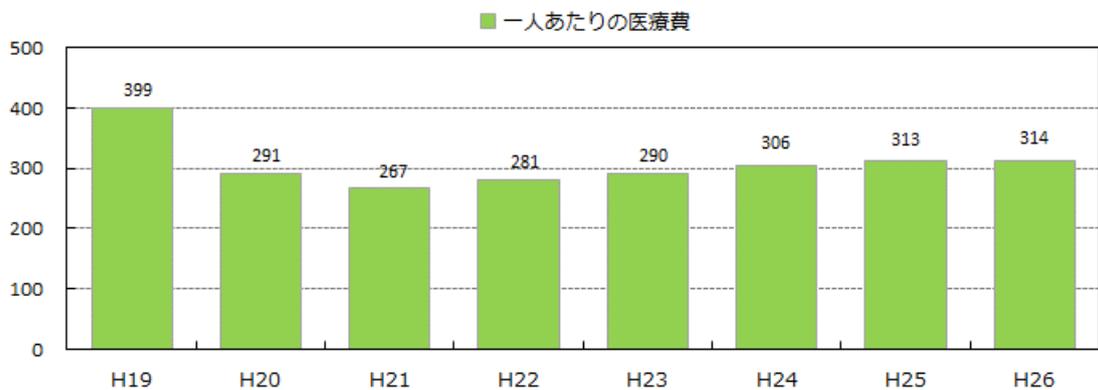
■ 国民健康保険被保険者数



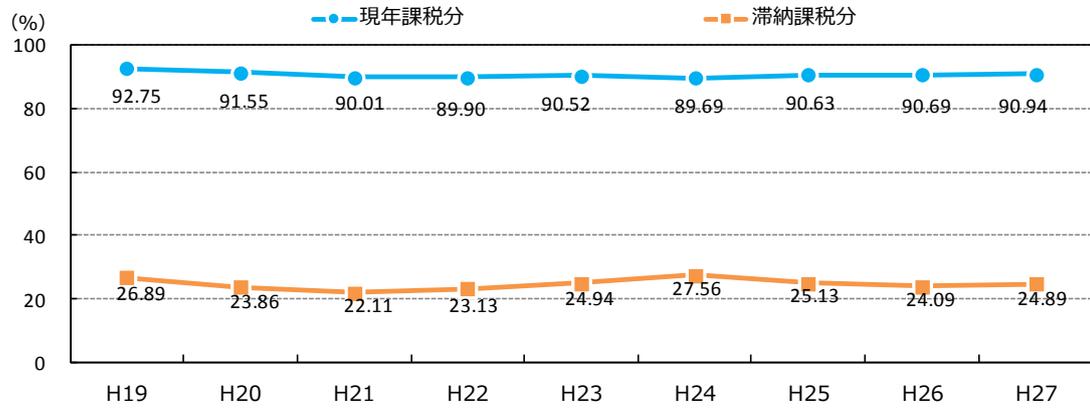
■ 国民健康保険給付額



■ 国保加入者の一人あたりの医療費



■ 国保税収納率



出典：国民健康保険事業状況（福島県）／各年度末時点

2 高齢者福祉

現状と課題

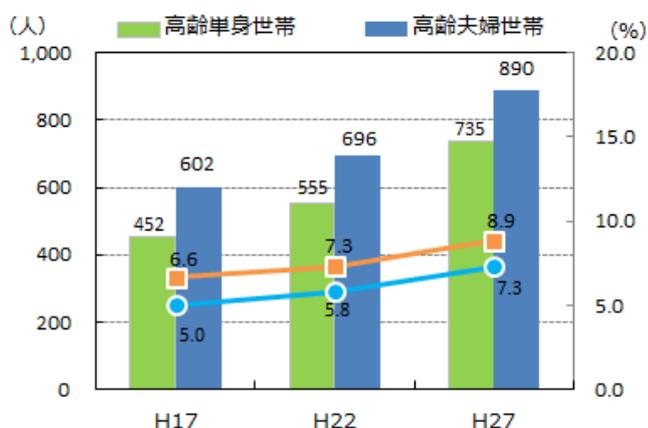
- 平成 29（2017）年における本市の総人口に占める 65 歳以上の高齢者の割合は、27.5%となっており、今後も増加が見込まれている。
- 高齢化に伴い、被保険者数と要支援・要介護者数が年々増加傾向にあり、介護の予防や重症化防止の取組が重要性を増している。
- 認知症の予防、早期発見・早期対応やその家族を支える体制の充実が求められている。
- 高齢者人口が年々増加する一方で、敬老会参加者、老人クラブ登録者数などは減少傾向にある。
- 高齢者が心身ともに健やかにいきいきと暮らせる社会参加の環境づくりが重要である。
- 市民、地域、保険医療福祉介護関連の事業者、行政などの連携による、高齢者の多様な状況に応じた適切な支援の重要性が高まっている。このことから、地域包括支援センターを中心としたケアマネジメントを強化し、地域共生型社会の実現を図ることが必要である。
- 介護保険制度の適切な運営や介護福祉人材の確保育成など持続可能な体制づくりが必要である。

現状・課題別データ

(1) 総合支援

《キーワード》いきがづくり、体制づくり、環境づくり

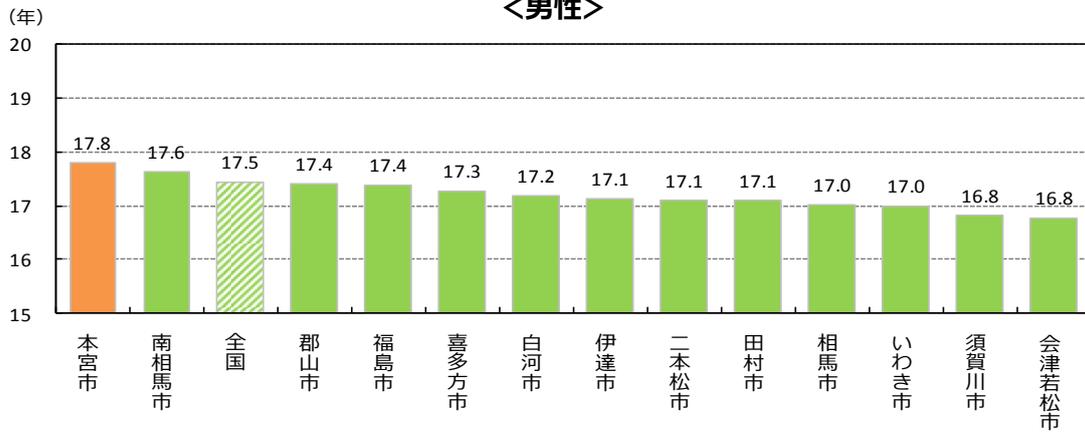
■ 高齢単身世帯数（率）、高齢夫婦世帯数（率）



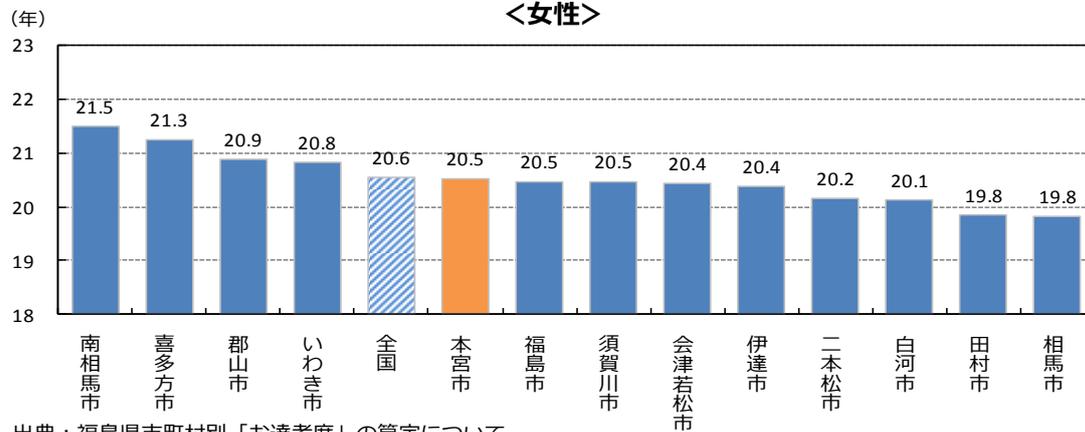
出典：統計でみる市区町村のすがた／平成 17 年国勢調査、平成 22 年国勢調査、平成 27 年国勢調査時点

健康寿命（お達者度）

<男性>



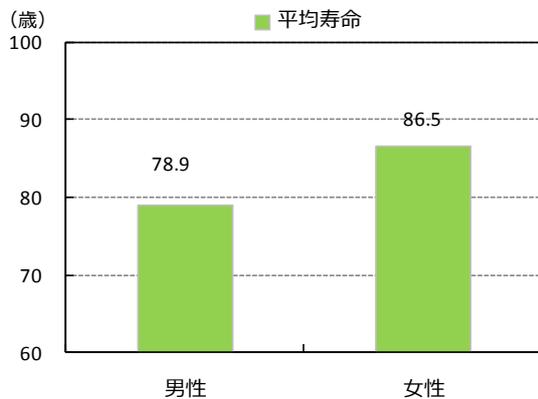
<女性>



出典：福島県市町村別「お達者度」の算定について

(福島県保健福祉部・公立大学法人福島県医科大学健康増進センター) / 平成 25 年

平均寿命

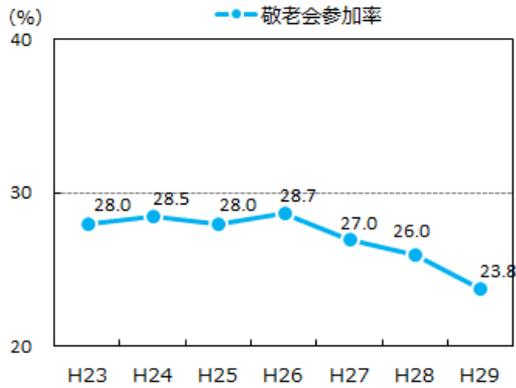


県内市部データ

	単位	男性	女性		単位	男性	女性
本宮市	歳	78.9	86.5	須賀川市	歳	78.8	84.9
福島県全体	歳	78.8	86.1	喜多方市	歳	77.4	86.9
福島市	歳	80.3	86.1	相馬市	歳	77.8	86.1
会津若松市	歳	79.0	86.6	二本松市	歳	78.9	87.1
郡山市	歳	79.4	86.3	田村市	歳	79.0	86.9
いわき市	歳	77.9	85.3	南相馬市	歳	79.3	85.9
白河市	歳	79.4	86.6	伊達市	歳	79.6	85.8

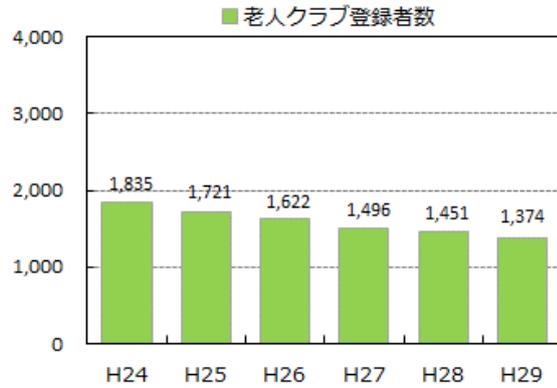
出典：市区町村別生命表（厚生労働省） / 平成 22 年 10 月 1 日時点

■ 敬老会参加率



出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

■ 老人クラブ登録者数



出典：業務概要（福島県県北保健福祉事務所）／各年度

■ シルバー人材センター会員数（率）

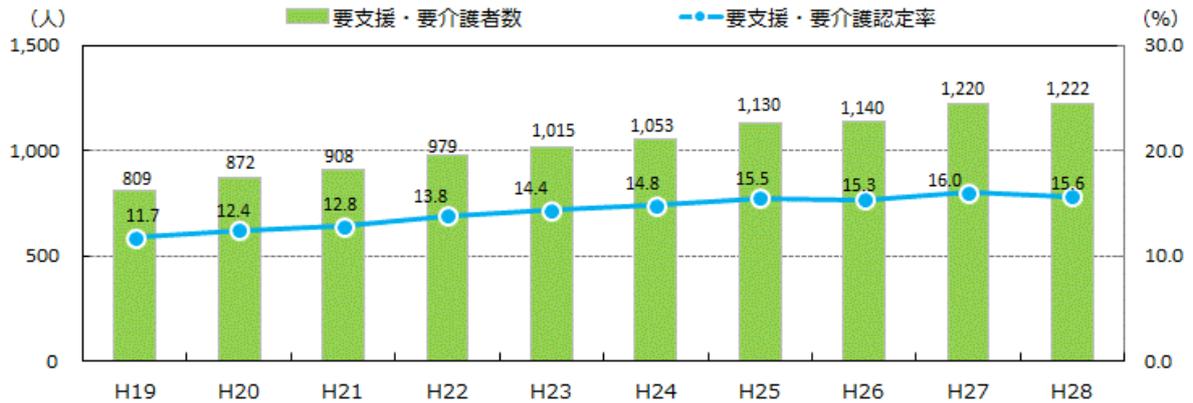


出典：会員数の推移（公益社団法人本宮市シルバー人材センター）／各年4月1日現在

(2) 介護保険

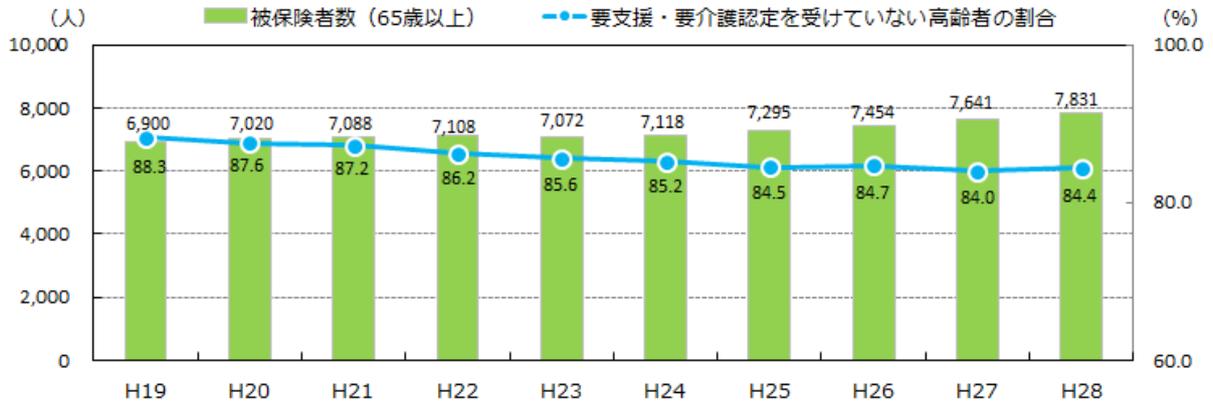
《キーワード》介護保険サービス（介護予防、介護支援）

■ 要支援・要介護認定率



出典：介護保険事業状況報告（年報・平成 18 年度～平成 27 年度）（厚生労働省）／各年 3 月 31 日現在

■ 要介護認定を受けていない高齢者の割合



出典：介護保険事業状況報告（年報・平成 18 年度～平成 27 年度）（厚生労働省）／各年 3 月 31 日現在

■ 介護予防事業参加者数



	単位	H24	H25	H26	H27	H28
介護予防講演会等	人	280	96	181	193	89
転倒予防教室	人	-	490	1,015	257	241
ふれあいサロン転倒予防教室	人	-	213	252	203	145
シニア運動教室	人	233	-	-	592	279
口腔教室	人	87	445	543	249	166
介護予防サポーター養成講座	人	-	-	33	20	21
はつらつ体操教室	人	74	-	-	-	-
運動器機能向上	人	22	34	61	69	-
口腔機能向上	人	12	10	10	29	-
市全域	人	708	1,288	2,095	1,612	941

出典：成果報告書「一般介護予防事業」ほか（本宮市）／各年度

3 障がい者・障がい児福祉

現状と課題

- 平成 29（2017）年 4 月時点で本市の人口の 4.6%にあたる 1,509 障がい者手帳を所持している。このうち、身体（身体障がい者手帳）が 1,085 人（3.52%）、知的（療育手帳）が 290 人（0.94%）、精神（精神障害者保健福祉手帳）が 134 人（0.43%）となっており、知的及び精神が増加傾向にある。
- 障がい者福祉は、市民意識調査で相対的に重要性の高い分野との評価がある一方で、満足度については、他の相対的にやや低い評価となっている。
- 誰もが住みなれた地域で安全・安心・快適で自分らしく生き生きと暮らせるよう、市民、地域、保健・医療・福祉関連事業者、行政の連携により、障がいと障がいのある方に対する理解をより一層深めていくことが重要である。また、多様なニーズを踏まえた、きめ細かい支援体制などの環境づくりが求められている。
- 地域共生社会の実現に向け、障がい者・障がい児に係る部門別計画を着実に実行することが重要である。

現状・課題別データ

（1）障がい者理解推進

《キーワード》理解促進、地域社会参加推進

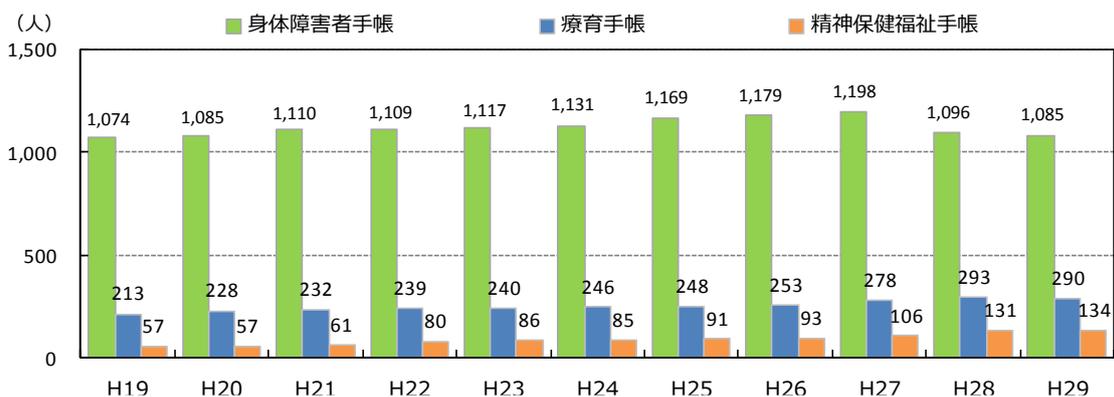
■ 地域社会移行者数

	単位	H24	H25	H26	H27	H28
地域社会移行者数	人	2	1	0	0	0

出典：本宮市第 1 次総合計画「主な成果指標」／各年度

※障がい者支援施設、精神科病院等に入所（院）している障がい者が、地域生活に移行した件数。

■ 障害者手帳（身体療育精神）保持者数



障がい種別身体障害者手帳所持者数

	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
全体	人	1,074	1,085	1,110	1,109	1,117	1,131	1,169	1,179	1,198	1,096	1,085
視覚	人	52	53	54	55	57	59	55	57	56	57	58
聴覚・平衡	人	106	106	109	108	106	106	112	112	119	112	111
音声・言語・そしゃく機能	人	13	11	9	10	9	9	11	12	12	9	10
肢体	人	641	641	653	644	656	653	682	689	691	637	617
内部	人	262	274	285	292	289	304	309	309	320	281	289

等級別療育手帳所持者数

	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
全体	人	213	228	232	239	240	246	248	253	278	293	290
A	人	94	97	94	95	94	93	91	87	91	89	87
B	人	119	131	138	144	146	153	157	166	187	204	203

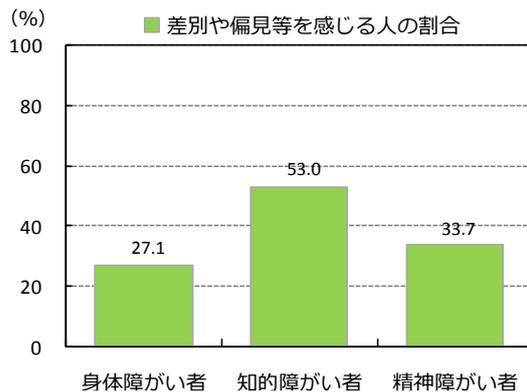
等級別精神保健福祉手帳所持者数

	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
全体	人	57	57	61	80	86	85	91	93	106	131	134
1級	人	13	13	13	13	15	13	13	11	8	9	7
2級	人	31	30	37	53	53	56	58	62	70	78	77
3級	人	13	14	11	14	18	16	20	20	28	44	50

出典：業務概要（福島県北保健福祉事務所）／各年4月1日現在

（ただし、精神保健福祉手帳所持者の平成28年、平成29年は3月31日現在）

■ 差別や偏見等を感じる人の割合

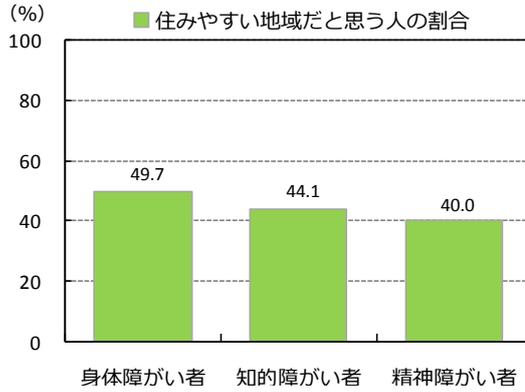


出典：本宮市障がい者計画・第4期障がい福祉計画／平成26年7月

(2) 支援体制

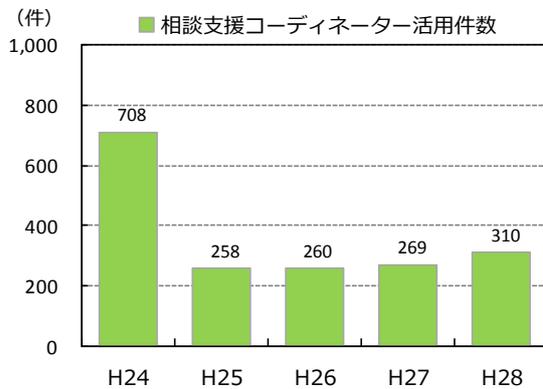
《キーワード》相談体制、福祉サービス

■ 障がいがある人にとって住みやすい地域だと思う人の割合



出典：本宮市障がい者計画・第4期障がい福祉計画／平成26年7月

■ 相談支援コーディネーター活用件数



出典：本宮市第1次総合計画「主な成果指標」／各年度

4 地域福祉

現状と課題

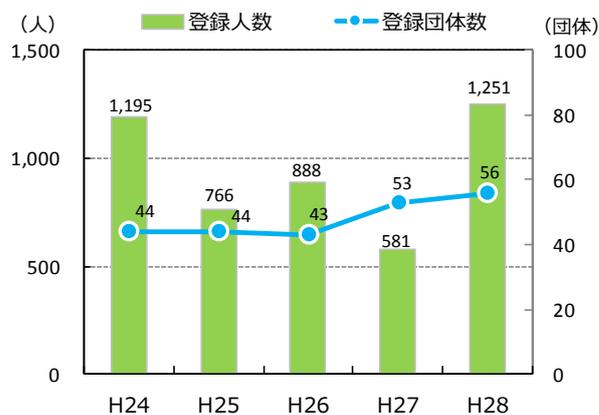
- 誰もが地域で生き生きと生活できるよう、共に支えあえる地域のネットワークの役割が重要である。
- 東日本大震災等をはじめとした全国的な大規模災害の経験を教訓に、その重要性はますます高まっている。
- 支援が必要な高齢者、障がい者、子ども、生活困窮者等の安定した生活を守る最後のセーフティネットとして、その状況に応じた適切な支援や制度の運用が求められている。
- 現在生活保護被保護世帯数と人員数は減少傾向にあるが、今後も生活困窮者の早期発見と自立支援を行う必要がある。

現状・課題別データ

(1) 地域包括ケア

《キーワード》 包括支援体制整備、見守り支援、福祉団体支援

■福祉ボランティア登録人数・団体数

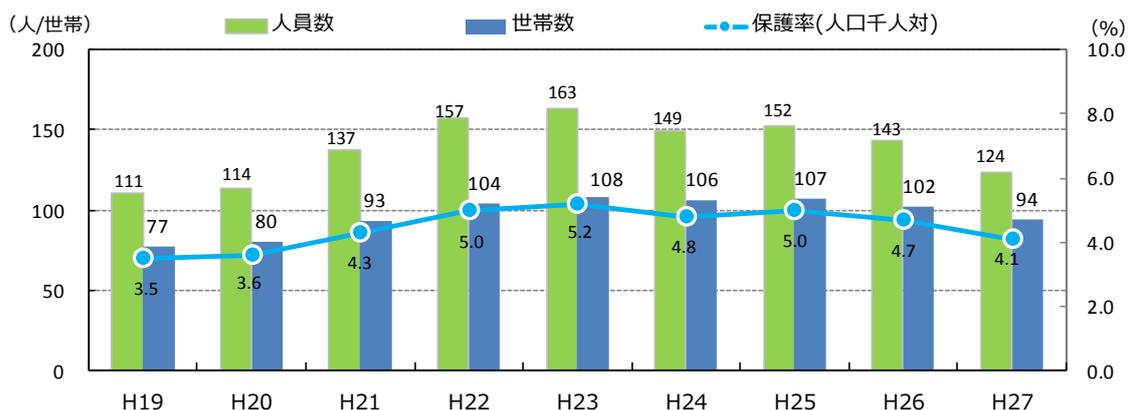


出典：本宮市第1次総合計画「主な成果指標」／各年度

(2) 生活支援

《キーワード》生活困窮、生活保護、国民年金

■生活保護被保護世帯数・生活保護被保護者数・保護率



■県内市部別保護率

	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
本宮市	%	3.5	3.6	4.3	5.0	5.2	4.8	5.0	4.7	4.1
福島県全体	%	7.3	7.5	8.3	9.2	9.3	8.9	8.7	8.7	8.6
福島市	%	8.3	8.4	9.1	10.3	10.8	10.4	10.2	10.1	10.0
会津若松市	%	10.9	11.1	12.3	14.3	15.4	15.6	15.9	15.8	15.7
郡山市	%	6.7	7.1	8.3	9.3	9.7	9.5	9.5	9.6	9.6
いわき市	%	11.8	11.7	12.2	13.4	14.1	13.2	12.8	12.8	12.5
白河市	%	4.7	4.8	4.9	5.6	5.8	5.6	5.2	5.4	5.8
須賀川市	%	6.3	6.7	7.8	8.8	8.8	8.3	8.3	8.2	8.2
喜多方市	%	7.2	7.6	8.2	9.2	9.6	9.9	9.8	9.3	8.8
相馬市	%	5.7	5.8	6.2	7.1	7.1	5.6	4.8	4.6	4.4
二本松市	%	4.4	4.8	5.9	7.1	7.6	7.6	7.4	7.4	7.4
田村市	%	4.8	4.7	5.3	6.1	5.9	5.9	5.7	5.4	5.2
南相馬市	%	6.4	6.7	7.4	7.8	3.5	2.8	2.1	3.2	3.9
伊達市	%	4.7	4.6	5.0	5.1	5.4	5.1	4.5	4.4	4.3

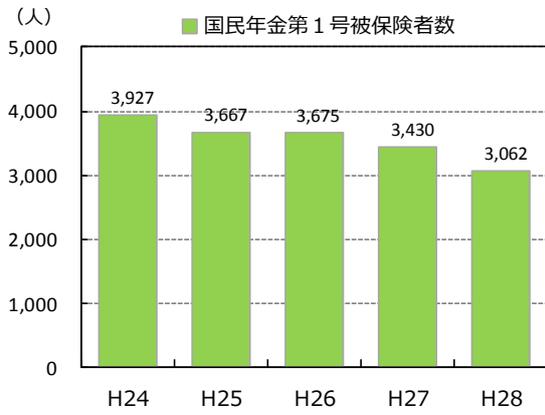
出典：福島県統計年鑑（福島県社会福祉課）／各年度内月平均

■就労支援者数（生活保護受給者自立支援事業による）

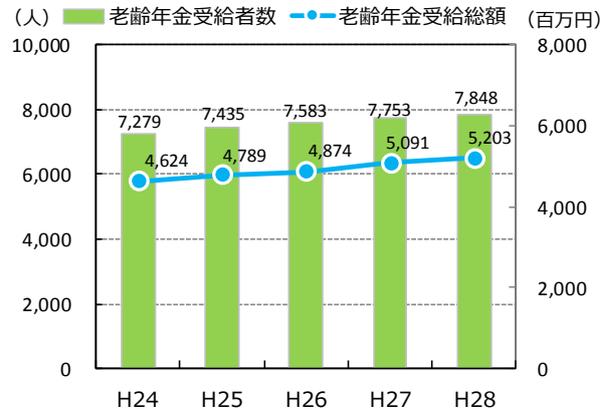
	単位	H24	H25	H26	H27	H28
生活保護受給者自立支援事業による就労支援者数	人	8	8	8	8	8

出典：本宮市第1次総合計画「主な成果指標」／各年度

■ 国民年金第1号被保険者数



■ 老齢年金受給者数・老齢年金受給総額



出典：成果報告書「国民年金事務」(本宮市) / 各年度末時点

1 農林業

現状と課題

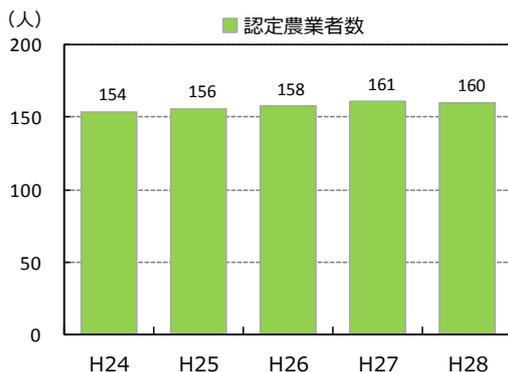
- 農業は古くから本市の基幹産業であるが、農林漁業からなる第1次の就業人口は年々減少し、高齢化や若者の農業離れに伴う担い手不足や耕作放棄地の増加などが課題となっている。
- 社会情勢・ライフスタイル等の変化に伴い、食に関する消費者ニーズの多様化・高度化、さらにはグローバル化が進んでいる。
- 将来にわたる持続可能な農業の振興には、農産物のブランド化・6次産業化等による農業者の安定収入の確保ややりがいの創出、担い手への農地の集積・集約化、ICTの活用による効率化など農業経営の仕組の再構築などが求められる。
- 新規就農者や担い手の確保には、就農希望者の視点に立ったきめ細かな支援や情報提供が必要である。
- 水田や森林が有する多面的機能（農林産物の供給、水源のかん養、ダム機能・土砂等の流出防止、豊かな景観等）を維持するため適切な維持管理が求められている。
- 東日本大震災等による全国的な風評は根強く、市民意識調査では、復興が進んでいないと考える市民の57.4%が要因として「風評の払しょく」と回答している。また、本宮市農村集落活性化将来ビジョン住民の意向把握（アンケート調査）によれば、52.4%の人が風評被害が収まらないと回答している。このことから、県、近隣自治体、関係機関等と連携しながら、市内農林産物の安全・安心を戦略的に発信していく必要がある。
- 農業水利施設としてのため池機能を保全しながら、大雨等の災害による放射性物質の流出を防止するため堆積土砂の除去に着手している。

現状・課題別データ

(1) 農業振興、担い手確保

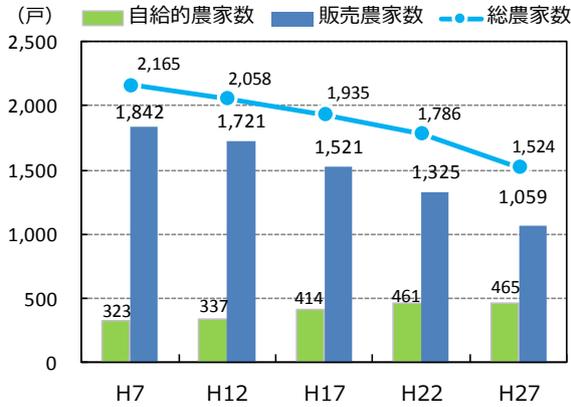
《キーワード》地産地消、生産消費拡大・販路拡大、6次産業化、担い手育成、新規就農促進、農業生産基盤整備

■ 認定農業者数

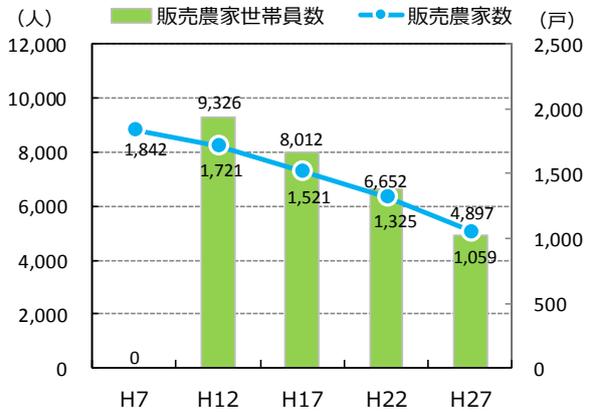


出典：本宮市第1次総合計画「主な成果指標」／各年度

■ 農家数

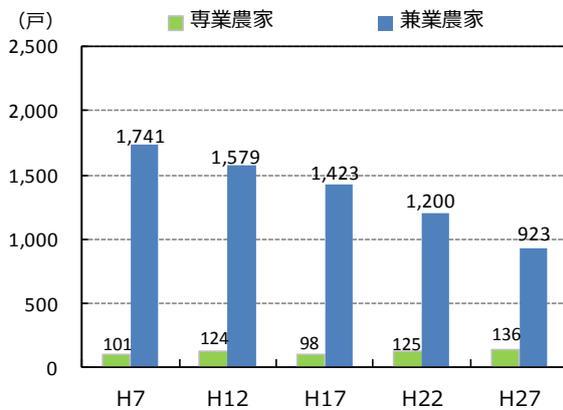


■ 販売農家数・販売農家世帯員数

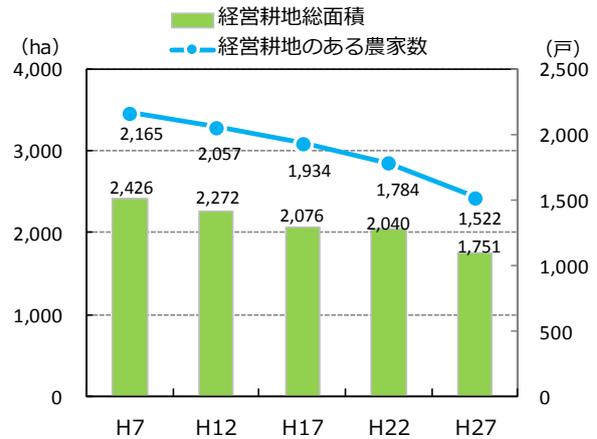


出典：農林業センサス・世界農林業センサス（農林水産省）／各年 2 月 1 日現在

■ 専業農家数・兼業農家数（販売農家内訳）



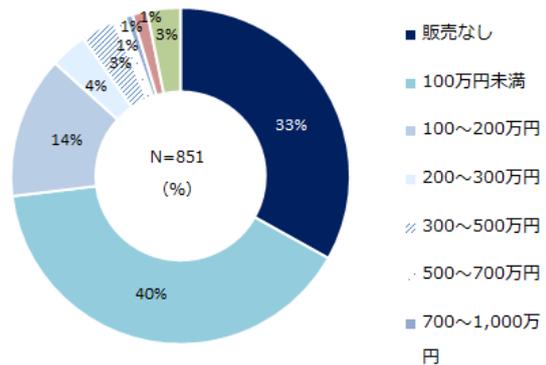
■ 経営耕地面積・経営耕地のある農家数



出典：農林業センサス・世界農林業センサス（農林水産省）／各年 2 月 1 日現在

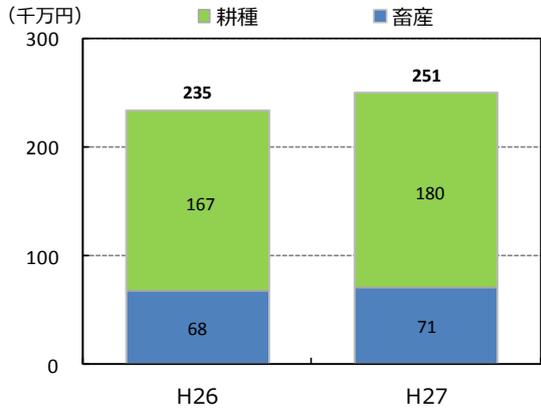
■ 農作物年間販売額

	回答数	割合
販売なし	282	33%
100万円未満	340	40%
100～200万円	116	14%
200～300万円	30	4%
300～500万円	28	3%
500～700万円	10	1%
700～1,000万円	6	1%
1,000万円以上	12	1%
未記載	27	3%
計	851	100%



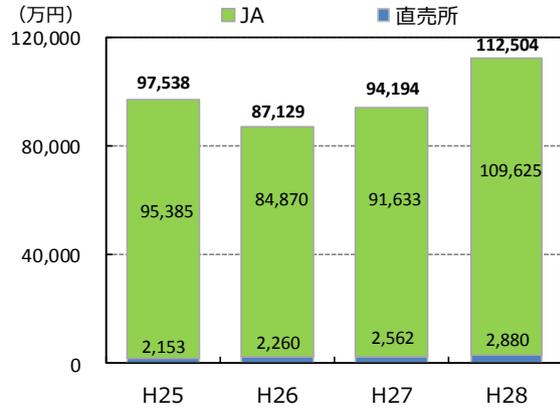
出典：本宮市農村集落活性化将来ビジョン住民の意向把握（アンケート調査）／平成 27 年 8 月下旬～9 月 4 日

■ 農業産出額（推計）



出典：市町村別農業産出額（農林水産省）／各年

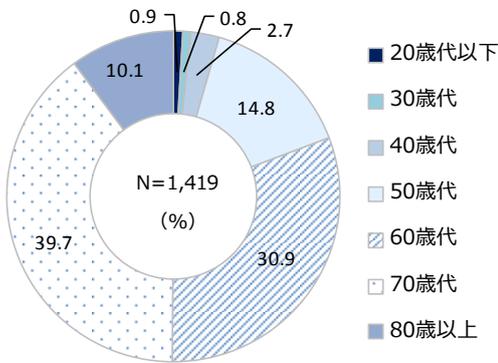
■ 農産物販売額（JA 直売所、しらさわ直売所）



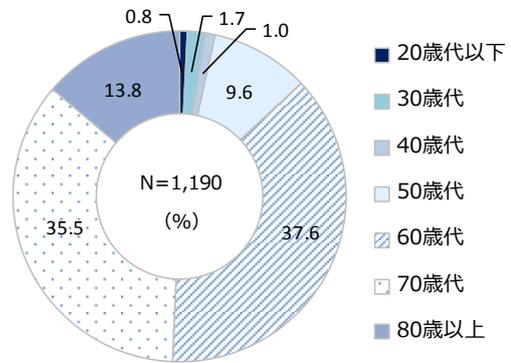
出典：本宮市農政課資料／各年度末

■ 基幹的農業従事者年齢構成

<H22>

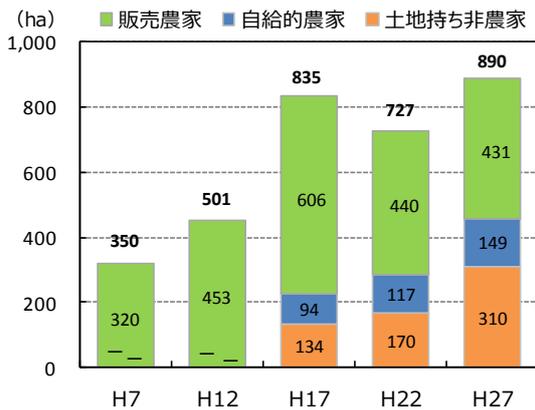


<H27>



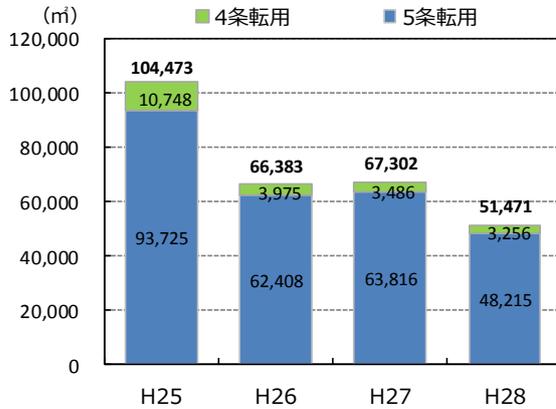
出典：農林業センサス・世界農林業センサス（農林水産省）／各年 2 月 1 日現在

■ 耕作放棄地面積



出典：農林業センサス・世界農林業センサス（農林水産省）／各年 2 月 1 日現在

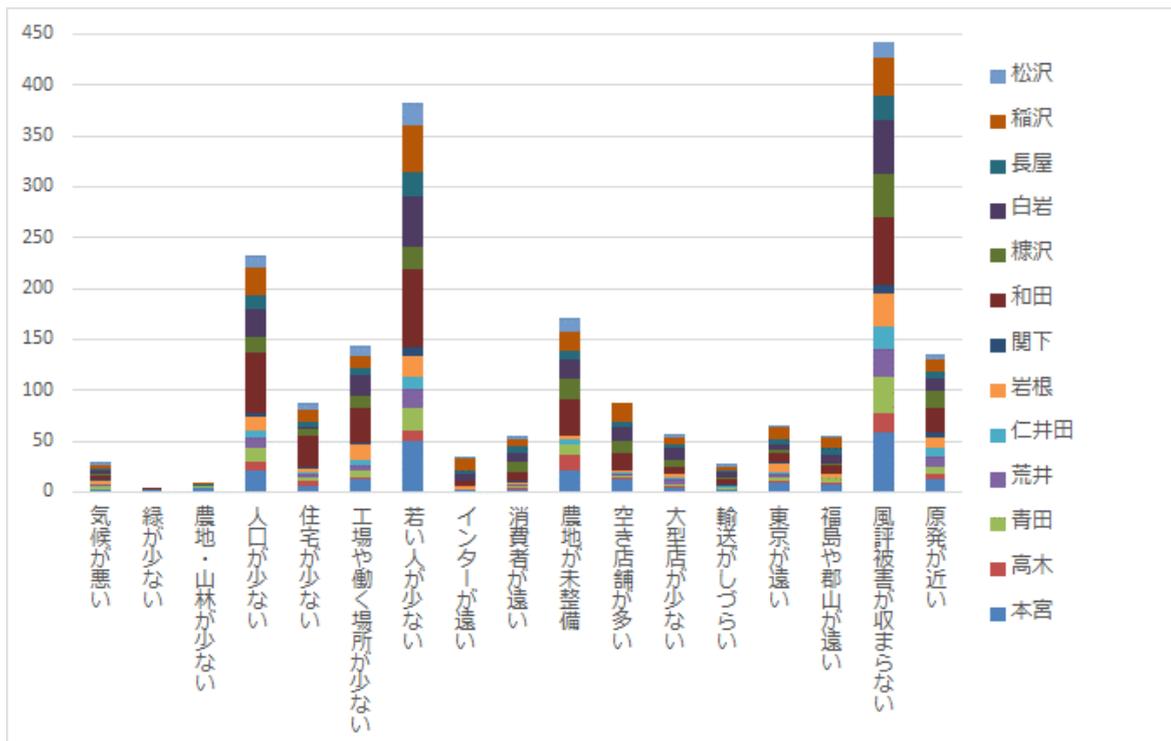
■農地転用面積



出典：本宮市農業委員会資料／各年度

■農業環境

	気候が悪い	緑が少ない	農地・山林がが少ない	人口が少ない	住宅が少ない	工場や働く場所が少ない	若い人が少ない	インターが遠い	消費者が遠い	農地が未整備	空き店舗が多い	大型店が少ない	輸送がしづらい	東京が遠い	風評被害が収まらない	原発に近い	アンケート回答者	
本宮	3	2	4	21	6	13	50	2	3	22	12	4	2	10	7	59	13	113
高木	0	0	0	8	5	1	10	1	1	15	2	1	1	1	2	18	4	36
青田	2	0	2	14	4	8	23	0	1	9	2	3	1	3	5	37	8	63
荒井	2	0	0	10	3	5	18	0	2	1	2	5	0	3	0	27	10	46
仁井田	0	0	0	8	1	4	13	0	1	4	2	2	1	2	0	22	9	31
岩根	4	0	0	13	4	15	20	3	2	4	2	3	1	9	4	32	10	69
関下	1	1	0	4	1	2	9	0	1	1	0	0	1	1	0	9	4	22
和田	4	1	0	59	32	34	76	5	8	35	17	6	5	9	9	66	24	131
糠沢	2	0	0	15	6	12	22	0	10	20	11	8	3	3	1	43	18	81
白岩	4	0	0	28	2	21	49	6	10	19	14	12	5	6	9	52	11	98
長屋	1	0	1	14	5	7	24	4	6	8	5	3	1	4	7	24	8	49
福沢	4	0	1	27	12	12	46	12	6	19	18	7	4	12	10	38	12	72
松沢	2	0	0	12	6	10	22	2	4	14	0	3	3	2	1	16	4	35
合計	29	4	8	233	87	144	382	35	55	171	87	57	28	65	55	443	135	846
割合 (N=846)	3.43%	0.47%	0.95%	27.54%	10.28%	17.02%	45.15%	4.14%	6.50%	20.21%	10.28%	6.74%	3.31%	7.68%	6.50%	52.36%	15.96%	100.00%

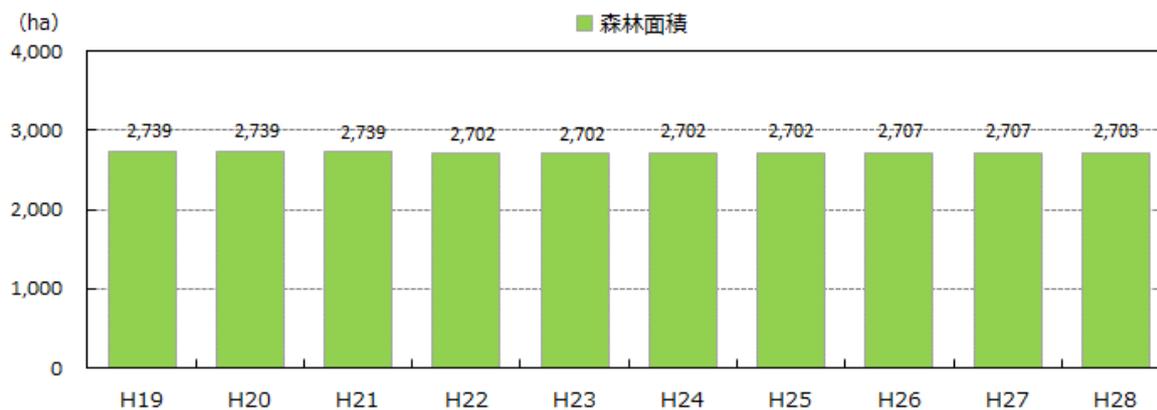


出典：本宮市農村集落活性化将来ビジョン住民の意向把握（アンケート調査）／平成 27 年 8 月下旬～9 月 4 日

(2) 森林・林業

《キーワード》森林保全

■ 森林面積



出典：福島県森林・林業統計書（福島県）／各年3月末現在

2 商工業・中小企業

現状と課題

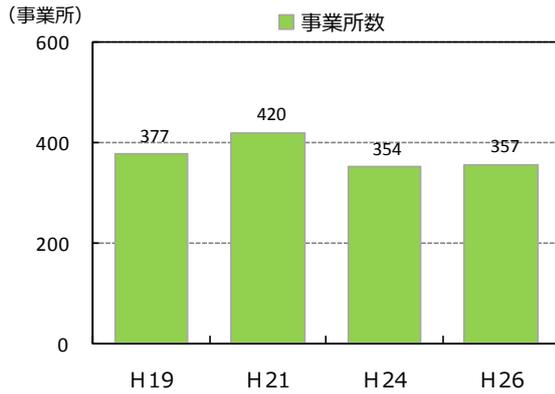
- 本市は、福島県のほぼ中央に位置し、東北道と磐越道のジャンクションが近い交通の要衝で、製造業や物流業など様々な業種の企業が立地している。
 - 事業所数は約 1,400 社あり、業種別では、小売業が最も多く約 360 事業所、建設業が 220 事業所、製造業が約 170 事業所で、多くが中小企業である。
 - 持続的な地域経済の活性化には、「域外市場産業（製造業、農業、観光など）」において域外から稼いだ資金を「域内市場産業（日用品小売業、対個人サービス業）」での消費につなげる地域経済の好循環を生み出すことが重要である。このため、競争力のある域外市場産業と魅力ある域内市場産業の育成が求められている。
 - 平成 28（2016）年の経済センサスによると、本市の製造品出荷額は約 2,430 億円となっており、従業員一人あたりの額は福島県内第 1 位となっている。
 - 商工会の会員数は年々減少傾向にあり、後継者の確保、安定収入の確保、商業の消費者の視点に立った魅力の向上などが課題となっている。
 - 全国的に企業の人手不足や中小企業経営者の高齢化に伴う後継者確保が課題となっている。こおりやま広域圏企業事業所意識調査では、本市の調査対象の 32.1%の企業事業所が地域で最も必要なこととして「人材確保」であると回答している。
- また、経営上の問題点として、22.6%の企業事業所が「事業承継・後継者不足」をあげている。
- 本市は平成 27 年（2015）国勢調査における昼夜間人口比率が 100.9 となっており、市外からの通勤者が多くいることから、こうした課題解決には広域的な視点をもつことが重要である。
 - 市民意識調査で企業誘致・事業創出分野は、重要度が全 35 項目中第 5 位にランキングされている一方、満足度は第 26 位となっており、戦略的な取組が求められている。
 - あらゆるものがネットにつながる「IoT」、AI（人口知能）等がけん引する第 4 次産業革命により産業構造が変化することが想定される。このことから、今後はこれらに対応する新分野の企業や若者のニーズに合った業種・職種の企業誘致に加え、新規創業や起業家育成の支援を行う必要がある。

現状・課題別データ

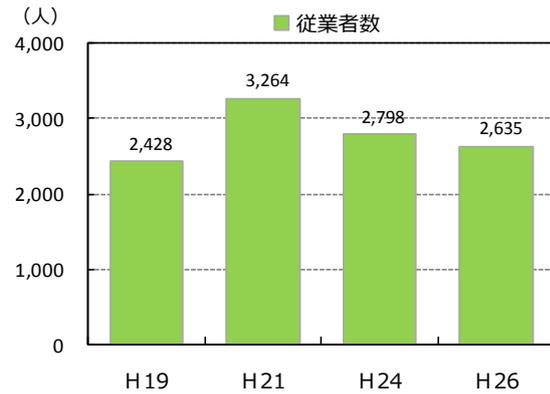
(1) 商業

《キーワード》 中心市街地、生活拠点等

■ 商業関連事業所総数



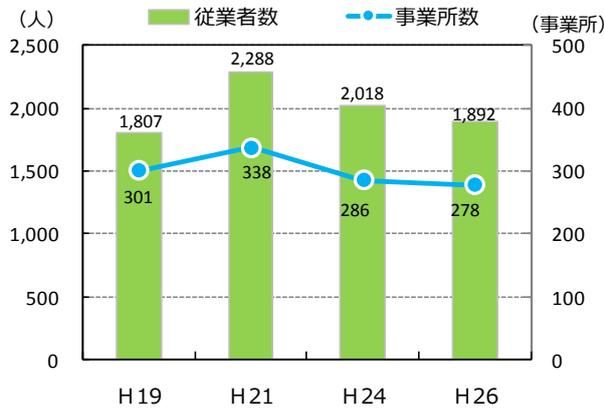
■ 商業関連従業者総数



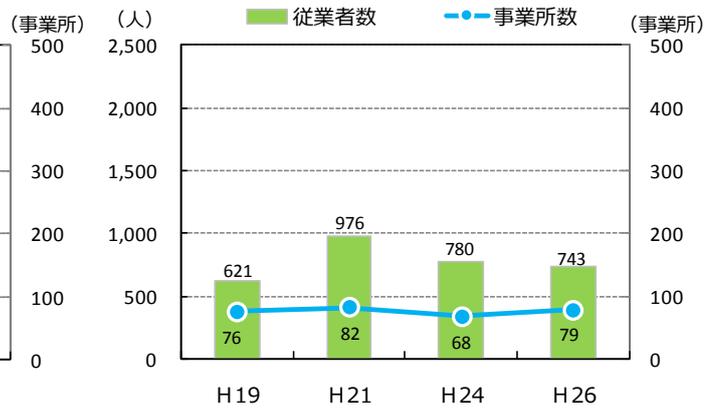
出典：商業統計（平成19年）（経済産業省）、経済センサス基礎調査（平成21年、平成26年）、経済センサス活動調査（平成24年）（総務省・経済産業省）／平成19・21・26年は7月1日現在、平成24年は2月1日現在

■ 小売/卸売事業所数・従業者数

<小売業>

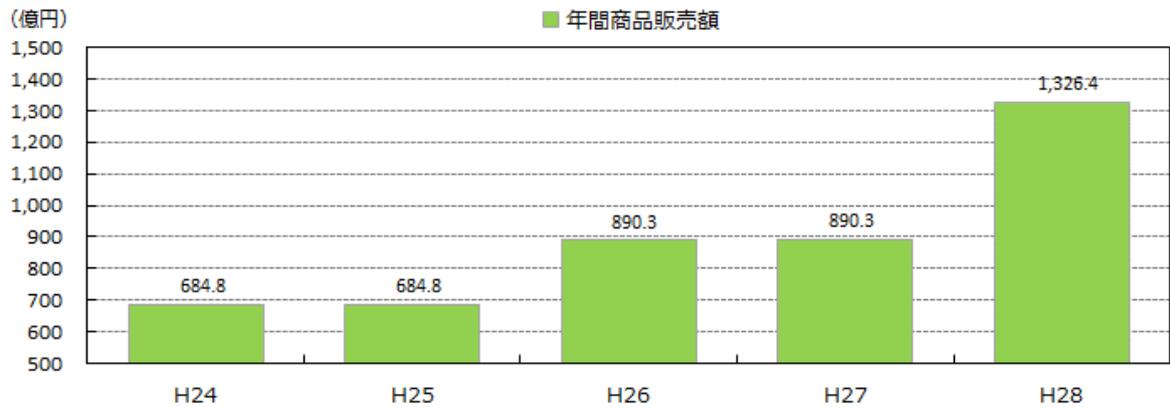


<卸売業>



出典：商業統計（平成19年）（経済産業省）、経済センサス基礎調査（平成21年、平成26年）、経済センサス活動調査（平成24年）（総務省・経済産業省）／平成19・21・26年は7月1日現在、平成24年は2月1日現在

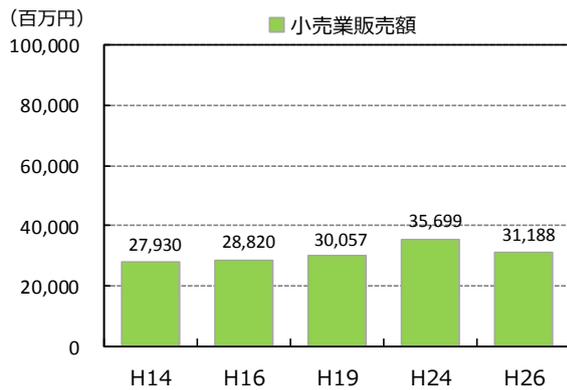
■ 年間商品販売額



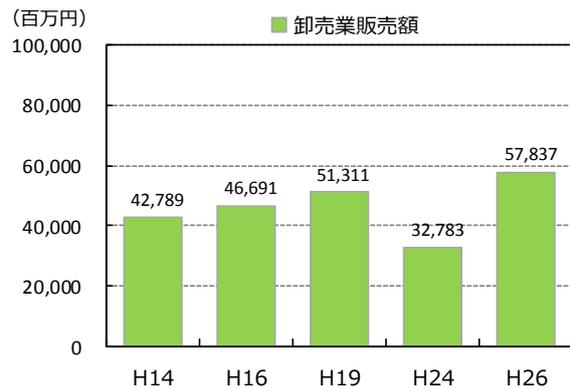
出典：本宮市第1次総合計画「主な成果指標」/各年度

■ 小売/卸売業年間商品販売額

<小売業>

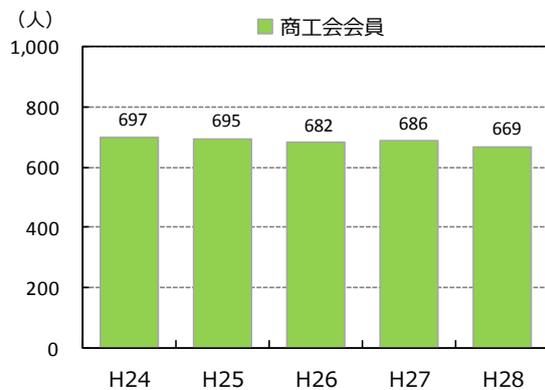


<卸売業>



出典：福島県商業統計調査（平成16年は簡易調査）、平成24年のみ経済センサス活動調査
（総務省・経済産業省）/（H26）7月1日時点、（H14・H16・H19）6月1日時点、（H24）2月1日時点

■ 商工会会員数

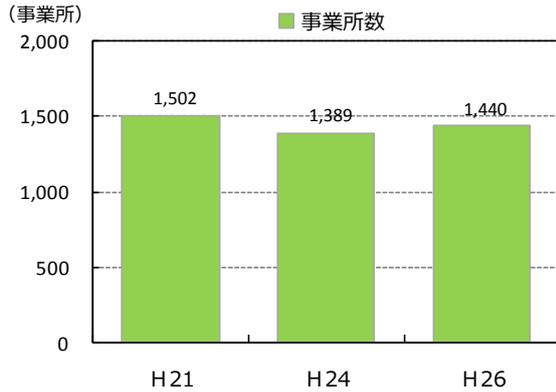


出典：本宮市第1次総合計画「主な成果指標」/各年度

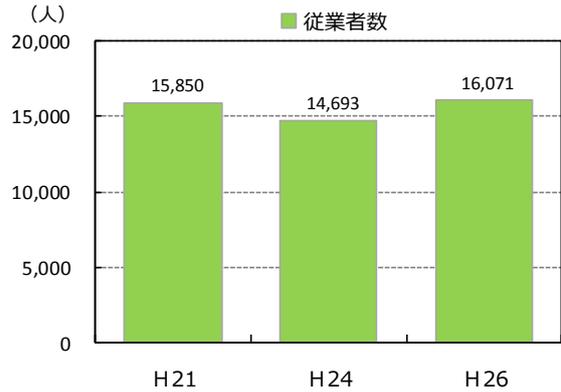
(2) 工業

《キーワード》企業誘致

■ 事業所数 (産業分類別)



■ 従業者数 (産業分類別)



産業分類別事業所数

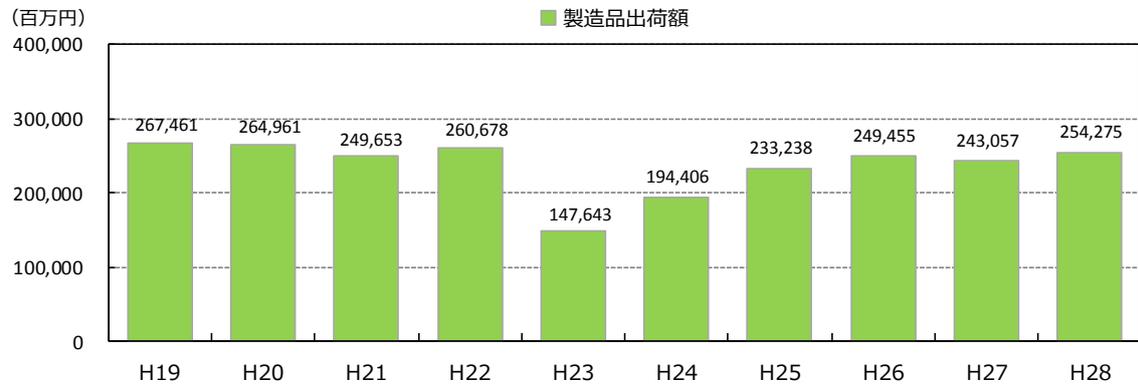
	単位	H21	H24	H26
農林漁業	事業所	9	8	6
鉱業、採石業、砂利採取業	事業所	2	2	2
建設業	事業所	253	233	220
製造業	事業所	161	173	169
電気・ガス・熱供給・水道業	事業所	-	-	-
情報通信業	事業所	9	5	6
運輸業、郵便業	事業所	71	71	92
卸売業、小売業	事業所	420	354	357
金融業、保険業	事業所	18	14	14
不動産業、物品賃貸業	事業所	101	98	110
学術研究、専門・技術サービス業	事業所	41	36	40
宿泊業、飲食サービス業	事業所	127	112	119
生活関連サービス業、娯楽業	事業所	114	107	107
教育、学習支援業	事業所	25	25	28
医療、福祉	事業所	68	67	84
複合サービス事業	事業所	6	7	7
サービス業(他に分類されないもの)	事業所	77	77	79
市全体	事業所	1,502	1,389	1,440

産業分類別従業者数

	単位	H21	H24	H26
農林漁業	人	90	68	61
鉱業、採石業、砂利採取業	人	8	8	8
建設業	人	1,510	1,450	1,429
製造業	人	5,511	5,432	5,590
電気・ガス・熱供給・水道業	人	-	-	-
情報通信業	人	21	10	18
運輸業、郵便業	人	1,925	1,773	2,611
卸売業、小売業	人	3,264	2,798	2,635
金融業、保険業	人	170	160	156
不動産業、物品賃貸業	人	199	202	245
学術研究、専門・技術サービス業	人	141	116	167
宿泊業、飲食サービス業	人	645	590	581
生活関連サービス業、娯楽業	人	509	408	382
教育、学習支援業	人	61	58	80
医療、福祉	人	962	920	1,317
複合サービス事業	人	78	197	162
サービス業(他に分類されないもの)	人	756	503	629
市全体	人	15,850	14,693	16,071

出典：経済センサス基礎調査（平成 21 年、平成 26 年）、経済センサス活動調査（平成 24 年）
（総務省・経済産業省）／平成 21・26 年は 7 月 1 日現在、平成 24 年は 2 月 1 日現在

■ 製造品出荷額

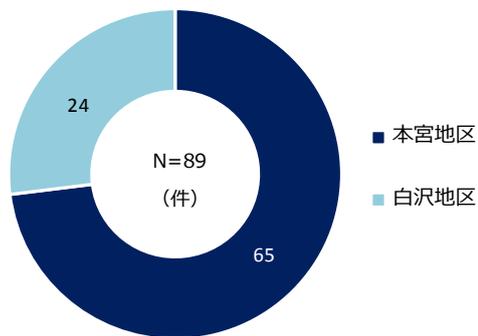


出典：工業統計調査（平成 19 年～平成 22 年・24 年～26 年・29 年）（経済産業省経済産業政策局調査統計部）／各年

※平成 23 年は「平成 24 年経済センサス活動調査」、平成 27 年は「平成 28 年経済センサス活動調査」（総務省・経済産業省）

※データは従業員数 4 名以上の事業所についての「製造品出荷額等」の集計値。ただし、平成 20 年のみ全事業所についての集計値である。

■ 市工業団地内企業立地数



出典：本宮市商工労政課資料／平成 28 年度末

3 雇用・労働環境

現状と課題

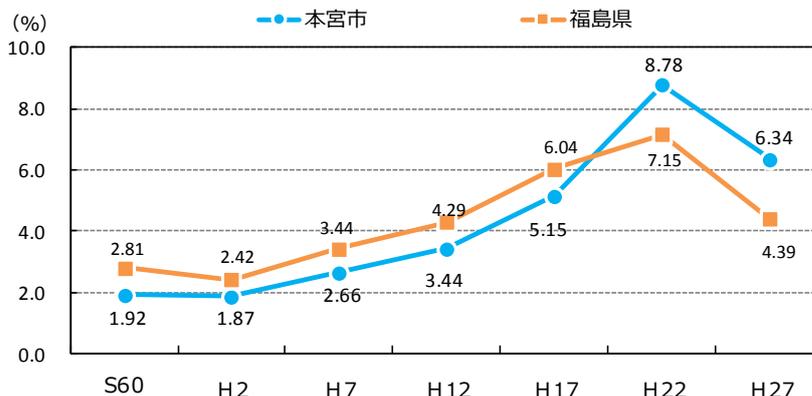
- 移住定住を推進するにあたって、雇用対策は最重要課題である。
- 管内の有効求人倍率は高い水準にあるが、業種・職種が若者の希望に合わないケースが多い。BtoC（顧客向け）企業の人気が高い傾向にあるが、市内には優良なBtoB（企業向け）企業が多く存在している。このことから、市内企業のPR活動や職場体験等を通じた理解促進等による若者と企業のニーズマッチの取組が必要である。
- 正規職員・従業員数が減少する一方で、非正規職員・従業員が増加傾向にあり、就労形態の変化・多様化がうかがえる。また、このことにより、収入格差が懸念されており、処遇改善のニーズが高まっている。
- 企業における人手不足の中、女性活躍が期待されている。他方、勤務条件等が子育て・介護世帯等との希望に合わないなどのミスマッチがみられる。このことから、男女共同や働き方改革の推進により、子育てや介護をしながら働き続けられる「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の環境づくりを推進することが必要である。
- 市民意識調査で雇用対策分野は、重要度が全35項目中第6位にランキングされている一方で、満足度は第33位となっており、戦略的な取組が求められている。

現状・課題別データ

(1) 雇用対策、労働環境

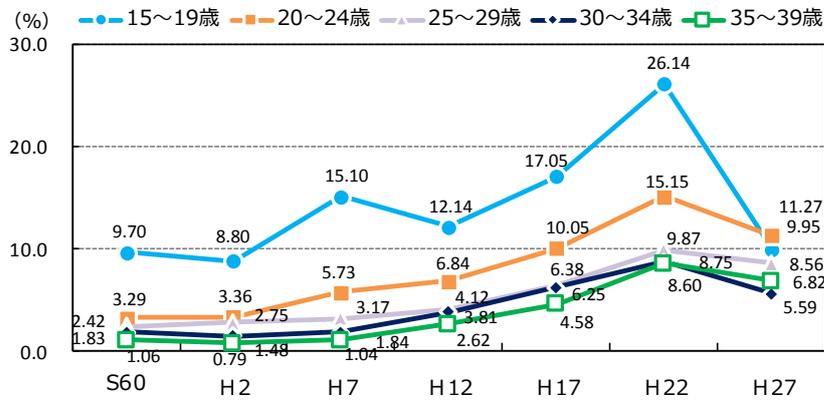
《キーワード》 ニーズマッチ、働き方改革への対応、勤労福祉

■ 完全失業率



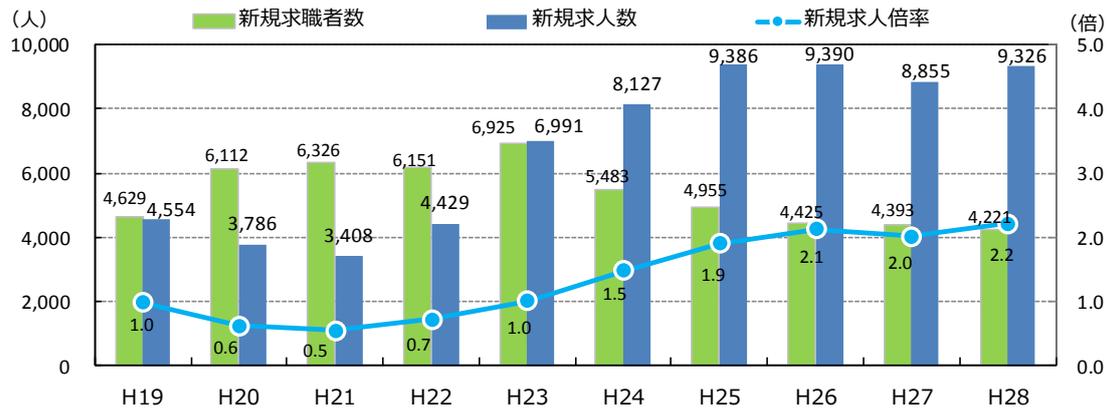
出典：国勢調査（総務省統計局）／各年10月1日現在

■ 完全失業率（若年層）



出典：国勢調査（総務省統計局）／各年 10 月 1 日現在

■ 新規求職者数・新規求人数・新規求人倍率



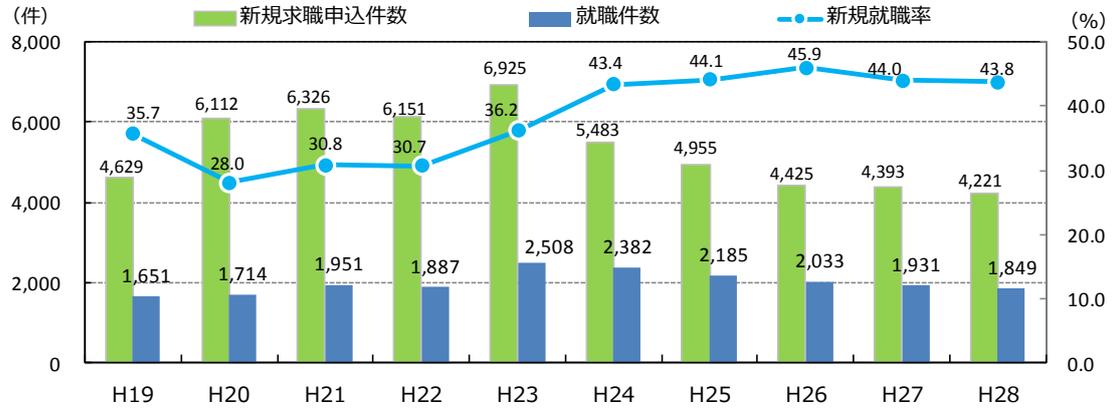
出典：「雇用失業情勢の概要」（二本松公共職業安定所）／各年度

■ 有効求職者数・有効求人数・有効求人倍率



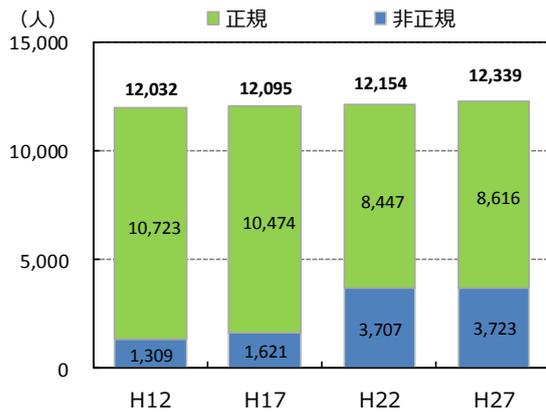
出典：「雇用失業情勢の概要」（二本松公共職業安定所）／各年度

■ 新規就職率



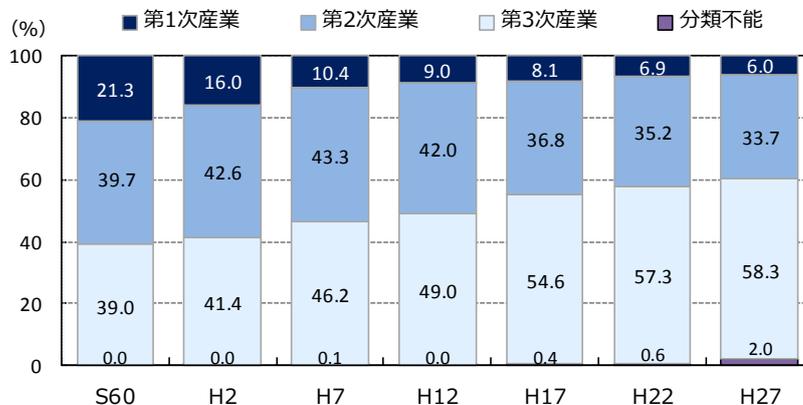
出典：「雇用失業情勢の概要」（二本松公共職業安定所）／各年度

■ 正規・非正規の職員・従業者数



出典：国勢調査（総務省統計局）／各年 10 月 1 日現在

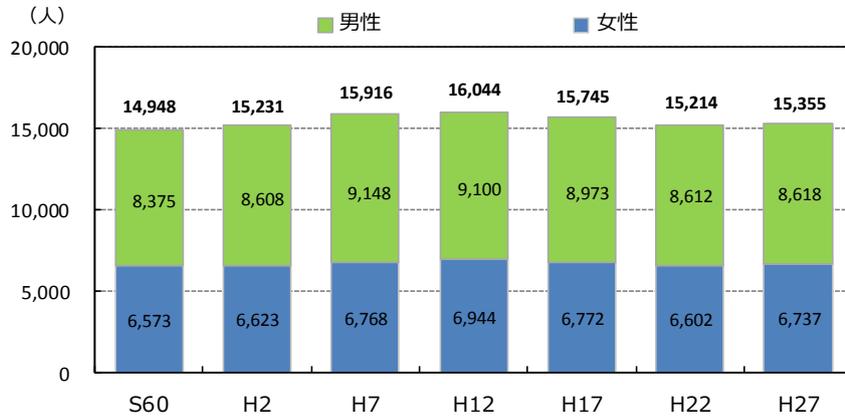
■ 就業人口（産業区分別）



出典：国勢調査（総務省統計局）／各年 10 月 1 日現在

■ 就業者数（男女別・年齢別）

性別



出典：国勢調査（総務省統計局）／各年 10 月 1 日現在

年齢別

	単位	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27
15～19歳	人	326	373	326	340	253	178	199
20～24歳	人	1,471	1,237	1,529	1,472	1,280	1,042	874
25～29歳	人	1,695	1,519	1,435	1,628	1,570	1,415	1,217
30～34歳	人	1,874	1,728	1,603	1,464	1,576	1,564	1,502
35～39歳	人	1,865	2,009	1,904	1,709	1,478	1,689	1,613
40～44歳	人	1,406	1,936	2,128	1,949	1,731	1,460	1,733
45～49歳	人	1,521	1,422	1,946	2,082	1,914	1,655	1,473
50～54歳	人	1,614	1,434	1,357	1,828	1,992	1,795	1,651
55～59歳	人	1,444	1,437	1,290	1,226	1,664	1,813	1,767
60～64歳	人	893	1,096	1,094	903	837	1,247	1,503
65～69歳	人	500	606	750	752	635	583	982
70～74歳	人	234	290	351	431	485	400	411
75～79歳	人	82	102	141	183	223	248	256
80～84歳	人	20	36	54	56	78	87	123
85歳以上	人	3	6	8	21	29	38	51
市全体	人	14,948	15,231	15,916	16,044	15,745	15,214	15,355

出典：国勢調査（総務省統計局）／各年 10 月 1 日現在

4 観光・交流・にぎわい創出

現状と課題

- 本市には、文化財、全天候型あそび場・運動施設、本格的英国庭園や観光物産品など多くの観光交流資源が存在している。
- これらの資源をブラッシュアップ（磨き上げ）するとともに、多分野・多地域全体の連携をマネジメントし相乗効果を高めながら、多様な観光ニーズに対応するとともに観光・交流人口増加につなげることが重要な課題である。また、これらの効果を戦略的に市内の経済発展やにぎわい創出に波及させていかなければならない。
- 安定した誘客を確保するためには観光・交流ルートの確立が必要である。他方、滞在型観光に対応できる宿泊施設がないことが課題となっている。
- 新たな魅力ある観光物産品の開発と地域経済の好循環の創出のため、農商工や異業種間連携を推進しながら6次産業等による特産化・ブランド化の必要性が高まっている。
- 観光・交流ルートの確立、特産化・ブランド化には、周辺自治体等との連携により弱点等を補完し合うことも重要である。
- 2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックの「復興『ありがとう』ホストタウン」に登録されたことを契機としてPR活動と受入体制を強化していく必要がある。

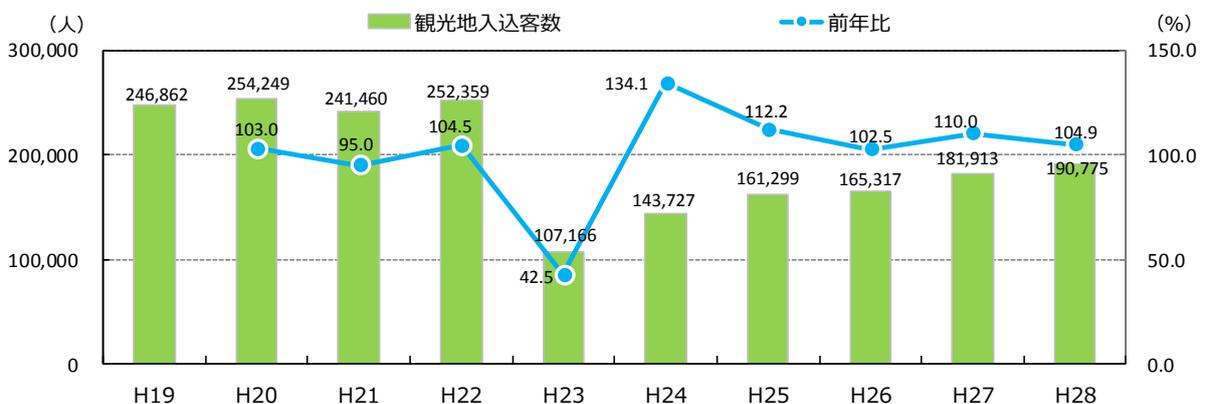
4節 経済・産業・仕事
5 観光・交流・にぎわい創出

現状・課題別データ

(1) 誘客・交流・にぎわい創出

《キーワード》観光物産、イベント開催、広域観光・インバウンド、情報発信

■観光地入込数

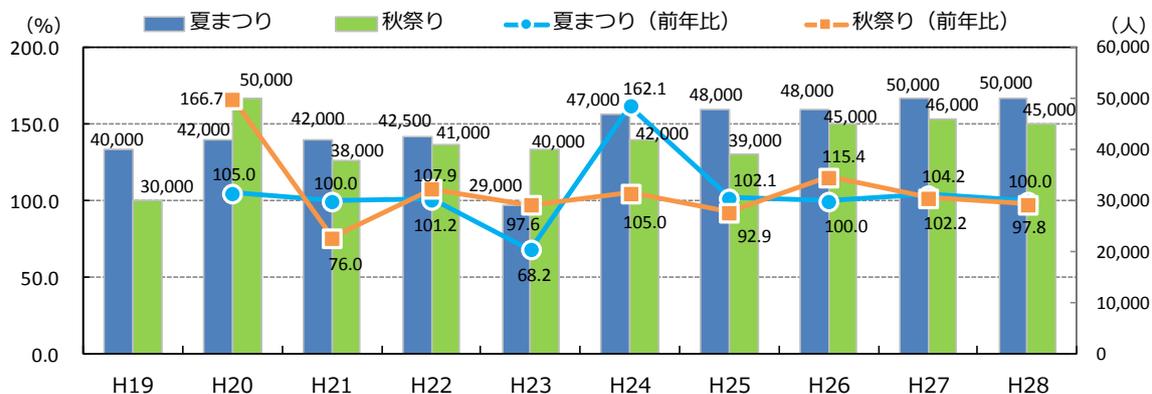


観光地点別

	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
花と歴史の里 蛇の鼻	人	29,883	24,893	27,085	28,334	10,158	16,944	21,697	15,336	22,424	29,695
アサヒビール福島工場	人	121,729	112,806	110,075	109,325	11,985	29,413	43,242	43,831	47,239	49,267
岩角山	人	25,250	24,550	24,300	31,200	16,023	8,370	9,360	13,150	16,250	16,813
本宮市夏まつり	人	40,000	42,000	42,000	42,500	29,000	47,000	48,000	48,000	50,000	50,000
もとみや秋祭り	人	30,000	50,000	38,000	41,000	40,000	42,000	39,000	45,000	46,000	45,000
市全域	人	246,862	254,249	241,460	252,359	107,166	143,727	161,299	165,317	181,913	190,775

出典：福島県統計年鑑（福島県観光交流課）／（平成 19～平成 27）各年
 県HP統計資料一覧 28年観光客入込状況調査（福島県観光交流課）／平成 28年

■観光イベント参加者数（夏まつり・秋祭り）



出典：福島県統計年鑑（福島県観光交流課）／H19～H27（各年1月1日～12月31日）
 県HP統計資料一覧 28年観光客入込状況調査（福島県観光交流課）／H28（各年1月1日～12月31日）

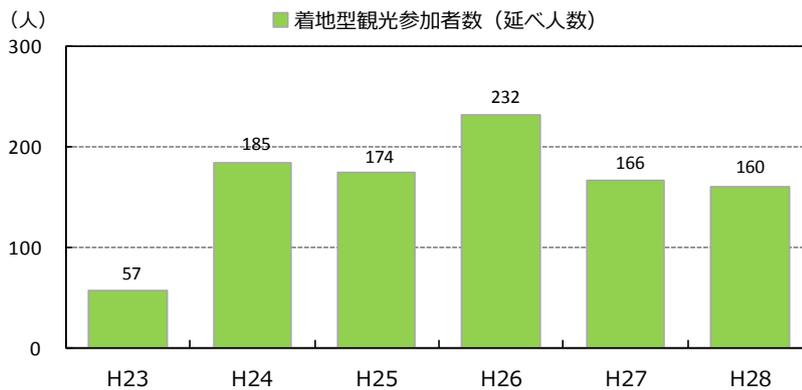
■市公式観光ホームページビュー数

	単位	H29
市公式観光ホームページビュー数（累計）	ビュー	37,904

出典：Google アナリティクス／各年度末

※公式観光ホームページ「みずいろナビ」は、平成 29 年 10 月開設。平成 30 年 3 月末までの累計

■着地型観光参加者数

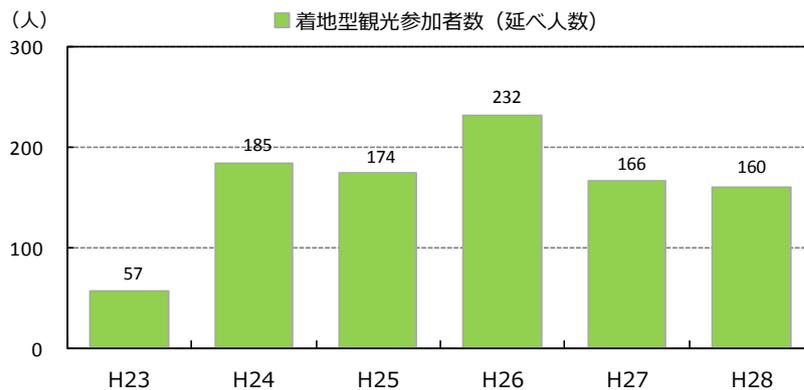


出典：成果報告（本宮市）／各年度末

（2）地域資源保護・活用

《キーワード》観光資源保護・開拓・商品開拓・活用・連携

■着地型観光参加者数（再掲）



出典：成果報告（本宮市）／各年度末

1 環境保全・エネルギー

現状と課題

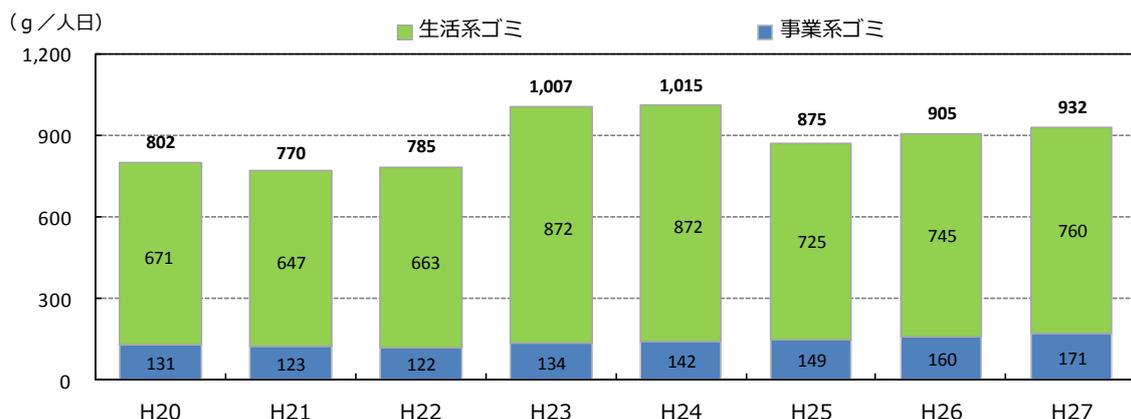
- 本市は、水と緑の豊かな自然環境に恵まれたまちである。
- 良好な自然環境を次世代へ継承することは、現世代の責務であり、人と自然が共生する持続可能なまちづくりが求められている。
- 環境問題は、大気・土壌・騒音・振動・光害といった身近な生活環境から地球温暖化等にいたるまで大小・広範囲にわたり複雑・多様化している。
- 地球温暖化は気候変動をもたらし、災害等様々な悪影響を及ぼすことから、地球規模で取り組まなければならない重要課題である。
- 温室効果ガス排出量の増加や東京電力福島第一原子力発電所事故の発生などを背景として、安全・安心で持続可能なエネルギー普及の重要性と必要性がより高まっている。
- 東日本大震災等直後と比較し放射線量は着実に減少し、国の基準値を大幅に下回っている。
- ごみ排出量が増加傾向にある一方で、集団資源回収量が減少傾向にあり、循環型社会の実現に向けたさらなる啓発活動が必要である。
- 再生可能エネルギーの利活用が進んでいる一方で、森林保全や適正管理の重要性などの問題が顕在化している。

現状・課題別データ

(1) 環境負荷、ごみ減量化

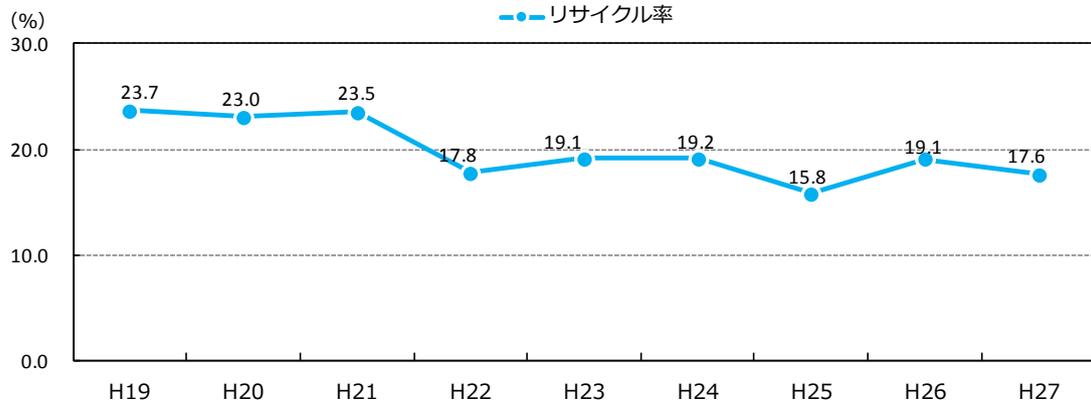
《キーワード》再生可能エネルギー普及促進、省エネルギー、3R活動推進

■ごみ排出総量

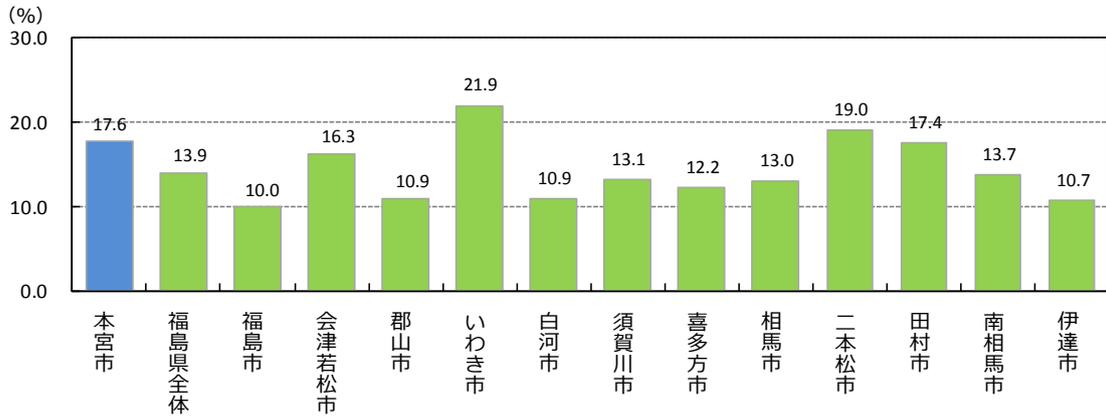


出典：一般廃棄物処理実態調査結果(ごみ処理状況)/各年度

■リサイクル率

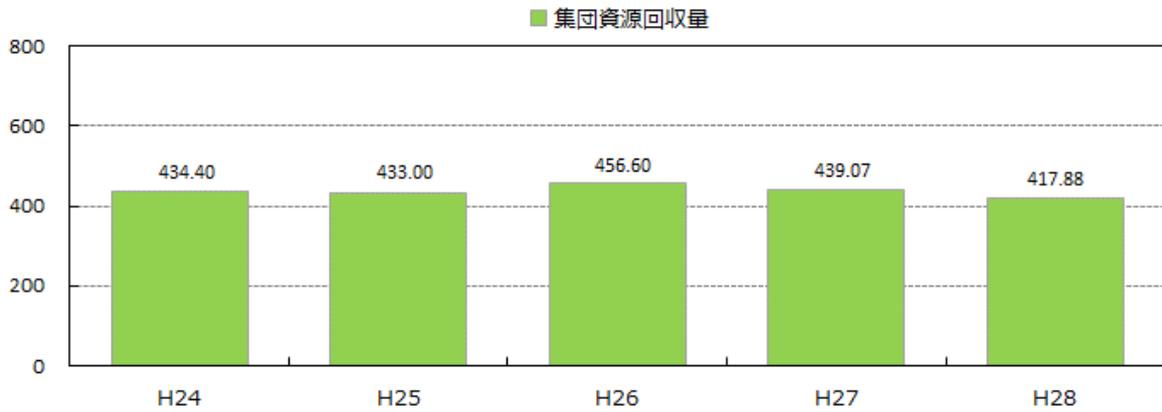


県内市部データ (H27)



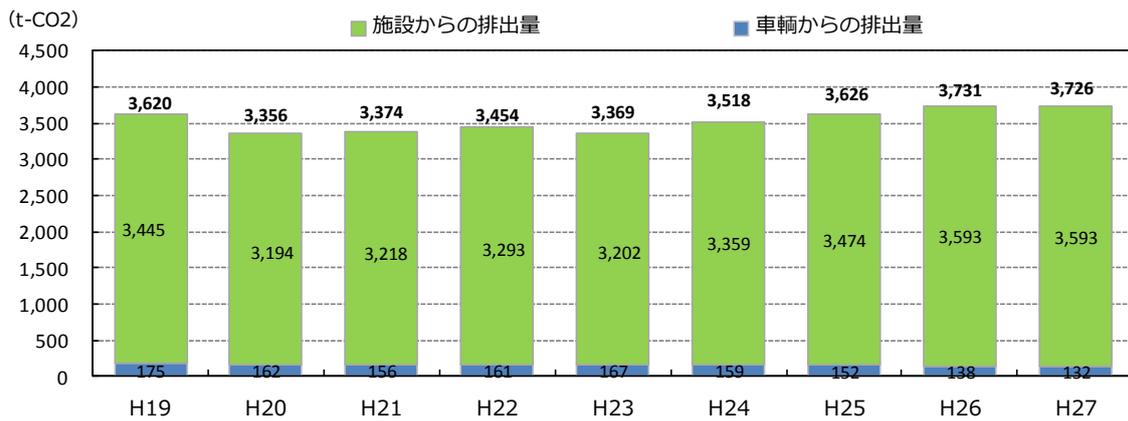
出典：一般廃棄物処理実態調査結果(ごみ処理状況)/平成 27 年度

■ 集団資源回収量



出典：本宮市総合計画「主な成果指標」／各年度

■ 温室効果ガス排出量



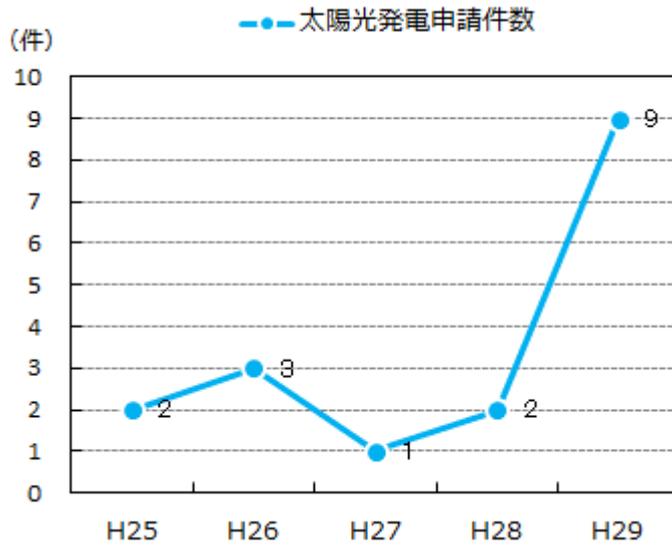
種類別

	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
電気	t-CO2	2,054	1,862	1,941	2,069	1,877	2,018	2,221	2,266	2,216
水道	t-CO2	49	45	44	52	47	49	52	53	53
ガス	t-CO2	42	42	44	43	44	42	42	43	48
灯油	t-CO2	894	844	787	737	814	814	743	855	748
重油	t-CO2	404	402	402	392	420	435	417	376	530
ガソリン	t-CO2	120	118	113	117	125	119	118	106	107
軽油	t-CO2	55	35	43	44	42	40	35	32	26

出典：環境活動レポート（本宮市）／各年度

※施設の新設や増設、空調設備追加等により単純比較はできない。

■太陽光発電申請件数（市開発事業指導要綱案件）



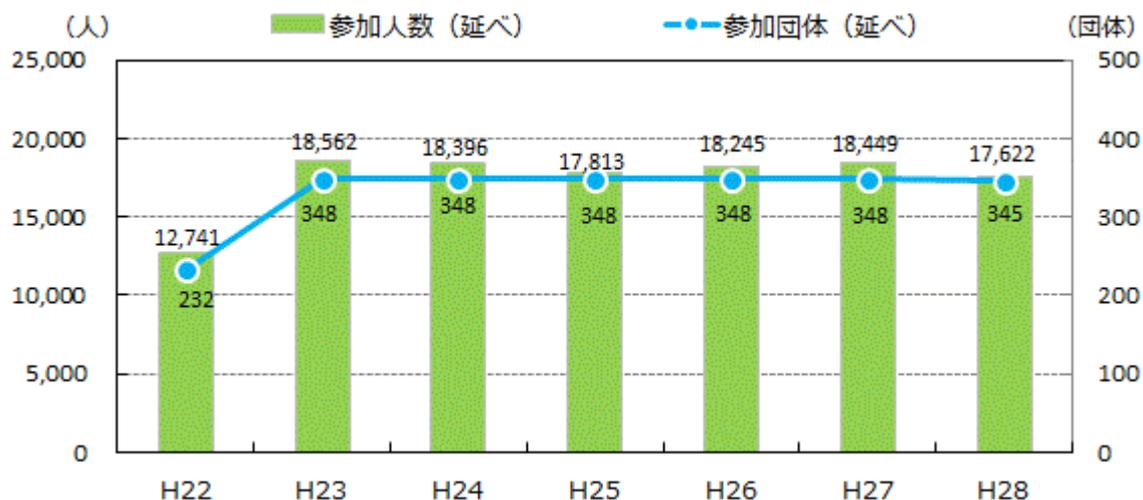
出典：開発事務処理一覧表（本宮市政策推進課）／各年度末

※開発事業指導要綱案件（0.1ha以上）の件数のため、要綱に該当しない案件についてはデータなし。
変更届も件数に含む。

(2) 自然環境、生活環境

《キーワード》美化活動、不法投棄防止、資源、水環境・利活用、放射能対策

■ 美化活動参加者数



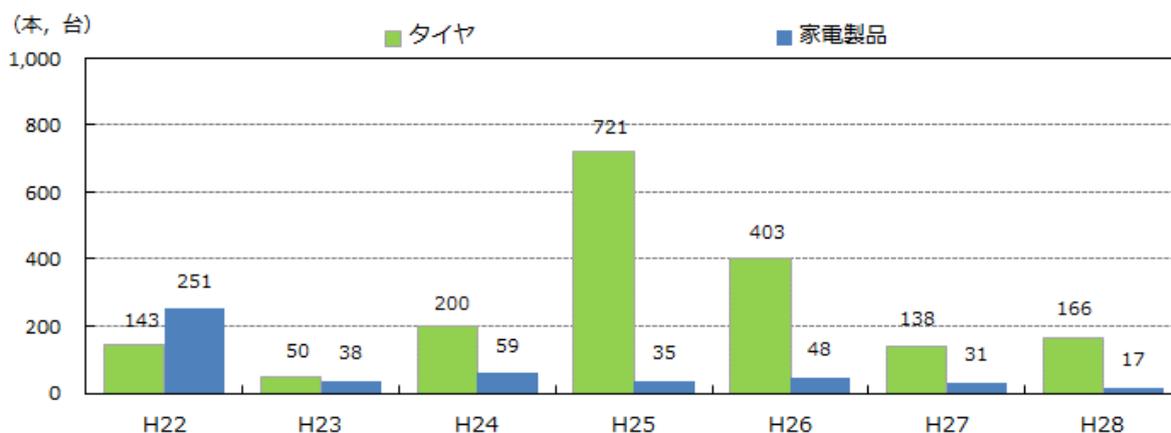
活動種別

	単位	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
クリーンアップ作戦	人 (延べ)	6,513	6,453	6,275	5,901	6,153	6,205	5,954
秋の一斉美化活動	人 (延べ)	6,228	6,131	6,060	6,000	6,107	6,038	5,817
春の一斉美化活動	人 (延べ)	-	5,978	6,061	5,912	5,985	6,206	5,851

出典：成果報告（本宮市）／各年度末

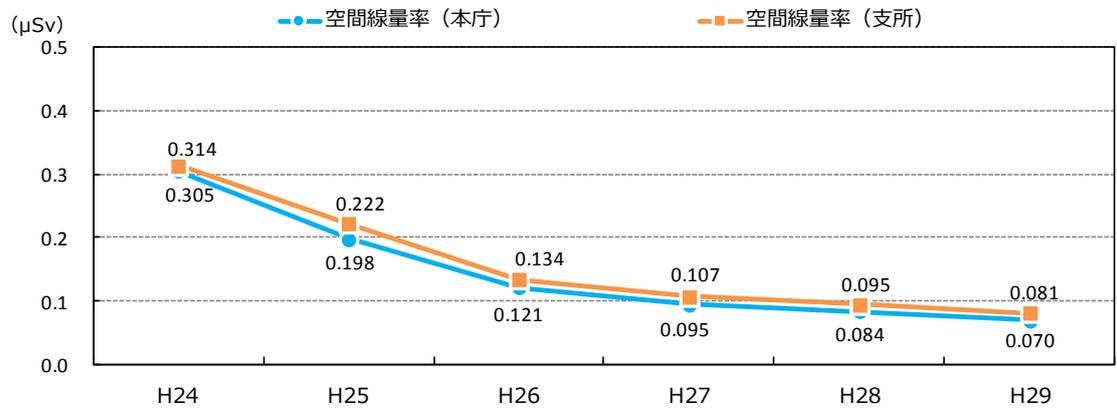
※平成 21 年度及び平成 22 年度「春の一斉美化活動」はデータなし

■ 不法投棄数



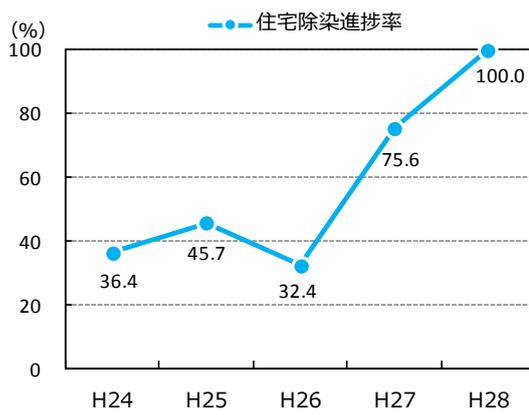
出典：成果報告（本宮市）／各年度末

■ 空間線量率



出典：放射線モニタリング情報（原子力規制委員会）／各年度 3 月 31 日 昼 12 時時点

■ 住宅除染進捗率



出典：除染実施区域（市町村除染）の概要・進捗（環境省 HP「除染情報サイト」）／各年度末時点

2 防災・消防・生活安全

現状と課題

- 東日本大震災等の教訓を風化させることなく、災害は発生するものということを前提に「備え」の意識を高めることが必要である。
- 災害発生時においては、公助には限界があり、自助（自分の身は自分で守る）と共助（共に支えあう）の取組が重要となる。
- 自主防災組織の組織率は20%程度にとどまっており、さらなる普及促進・支援が必要な状況にある。
- 地震、風水害、雪害、火山災害、原子力災害等あらゆる災害を想定し、地域、各種活動団体、関係機関、民間企業等との連携によるソフトとハード両面からの危機管理体制の強化が求められている。
- 消防活動支援や施設整備等をとおして、持続的に消防力を維持していく必要がある。
- 会社員消防団員が増加する中において、団員の確保と合わせ、企業と連携した活動のしやすい環境づくりが重要である。
- 犯罪・交通事故は横ばい又は減少傾向にある。他方、事件・交通事故の傾向として、高齢者による交通事故や高齢者を対象とした振り込め詐欺などが増加している状況にある。
- 警察等関係機関との連携のもと、事件事故の傾向に応じた対策を講じながら未然に防止することが重要である。

現状・課題別データ

(1) 自主防災（自助・共助）

《キーワード》防災意識向上、自主防災組織支援

■ 自主防災組織数（率）

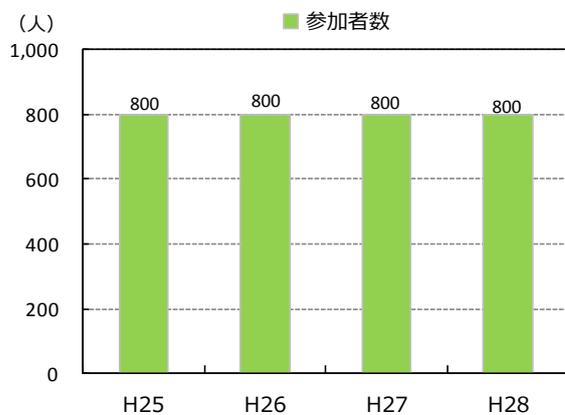


出典：消防防災年報（福島県消防保安課）／各年4月1日現在

※組織率＝組織されている地域の世帯数／管内世帯数

H23～24年は東日本大震災の影響で正しい数値が出せないため集計せず。

■ 防災訓練参加者数

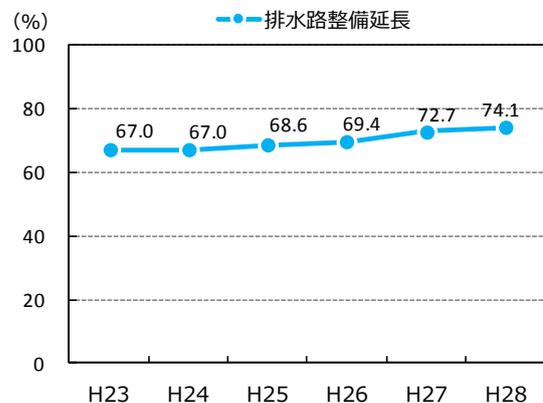


出典：成果報告「防災体制整備事業」（本宮市）／各年度

（2）防災体制整備（公助）

《キーワード》防災体制整備、水防活動、防災通信施設、自治体間連携

■ 排水路整備延長

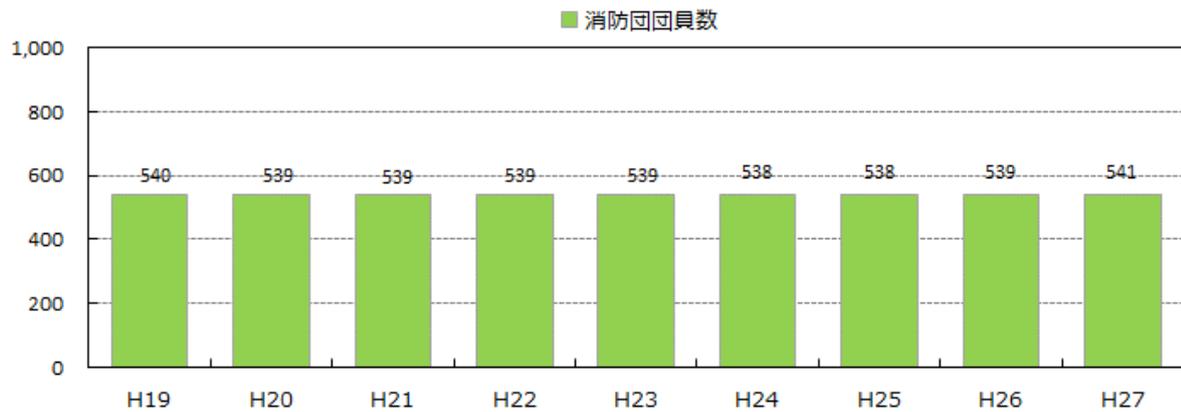


出典：成果報告（本宮市）／各年度

(3) 消防

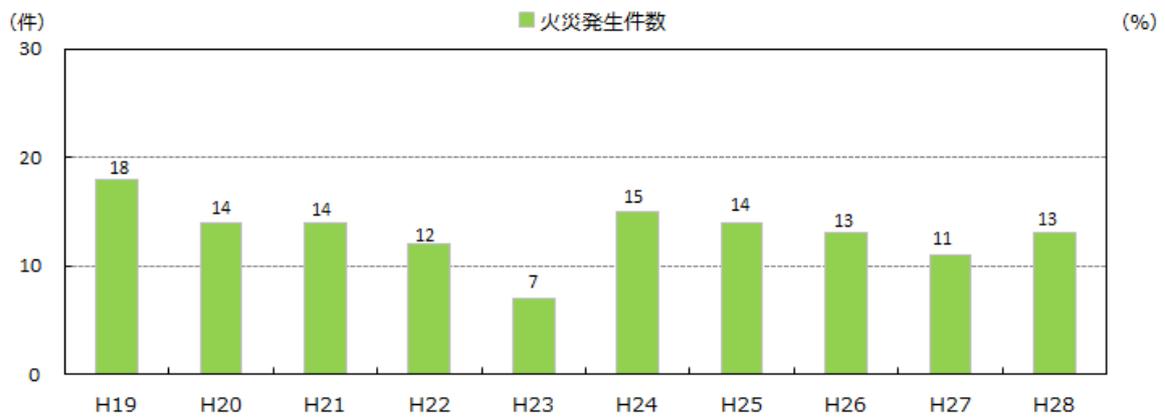
《キーワード》消防団活動、安達広域消防、消防施設整備

■ 消防団員数



出典：福島県統計年鑑（福島県消防保安課）／各年4月1日現在

■ 火災発生件数

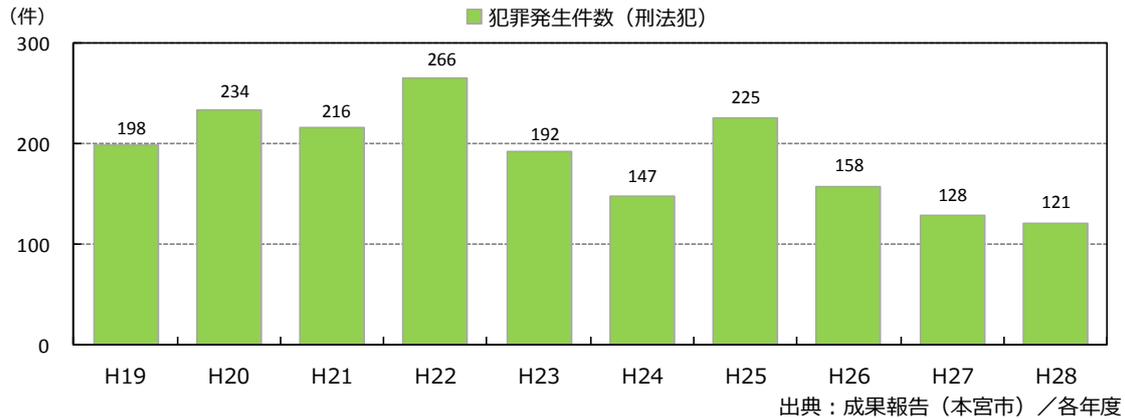


出典：(火災発生件数) 福島県統計年鑑（福島県消防保安課）／各年1月1日～12月31日

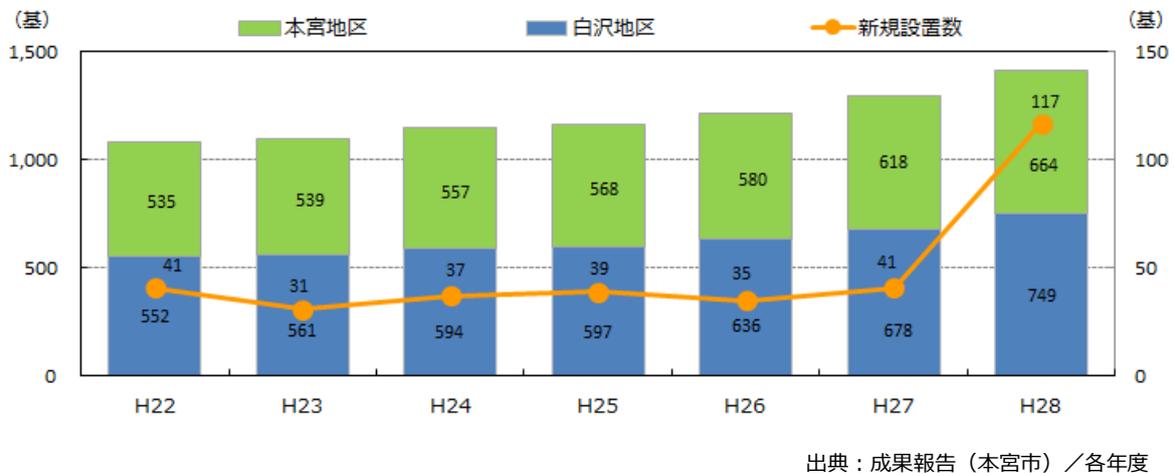
(4) 防犯

《キーワード》防犯啓発、防犯灯

■ 犯罪発生件数



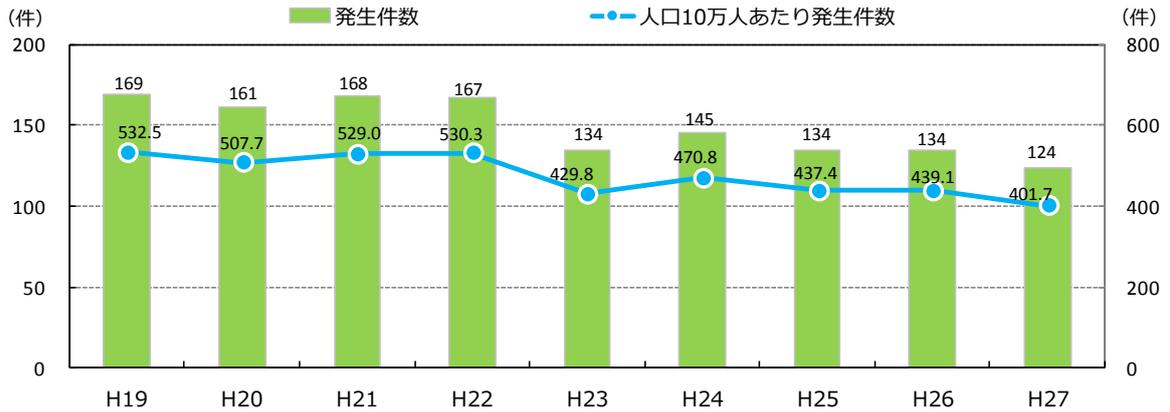
■ 防犯灯設置件数



(5) 交通安全

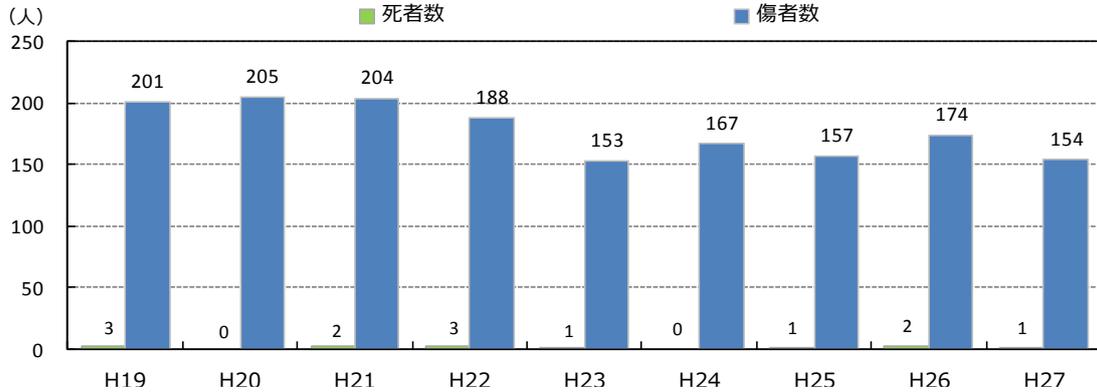
《キーワード》交通安全啓発

■ 交通事故発生件数



出典：交通白書（福島県警察本部交通部交通企画課）／各年

■ 死者数・傷者数

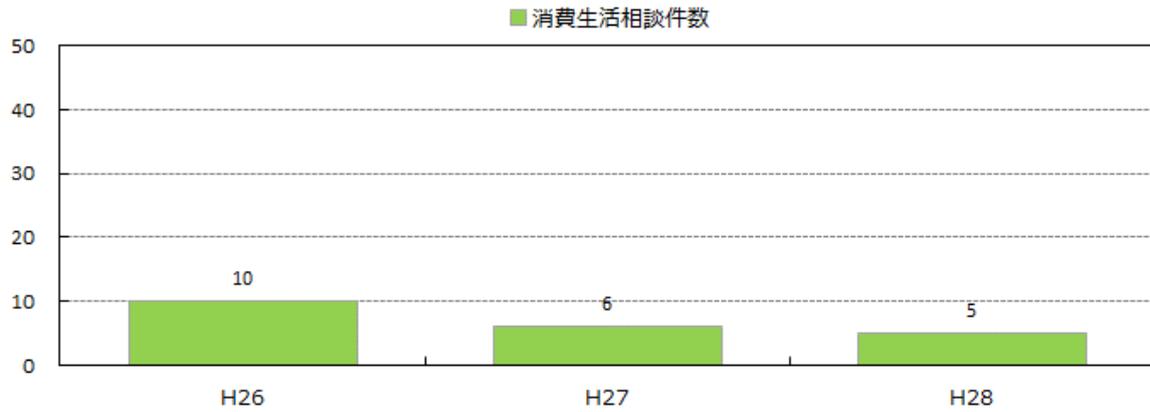


出典：交通白書（福島県警察本部交通部交通企画課）／各年

(6) 市民相談・消費者保護

《キーワード》消費者相談窓口

■ 消費生活相談件数



出典：成果報告「消費啓発・相談事業」（本宮市）／各年度末

3 都市機能・住環境・土地利用

現状と課題

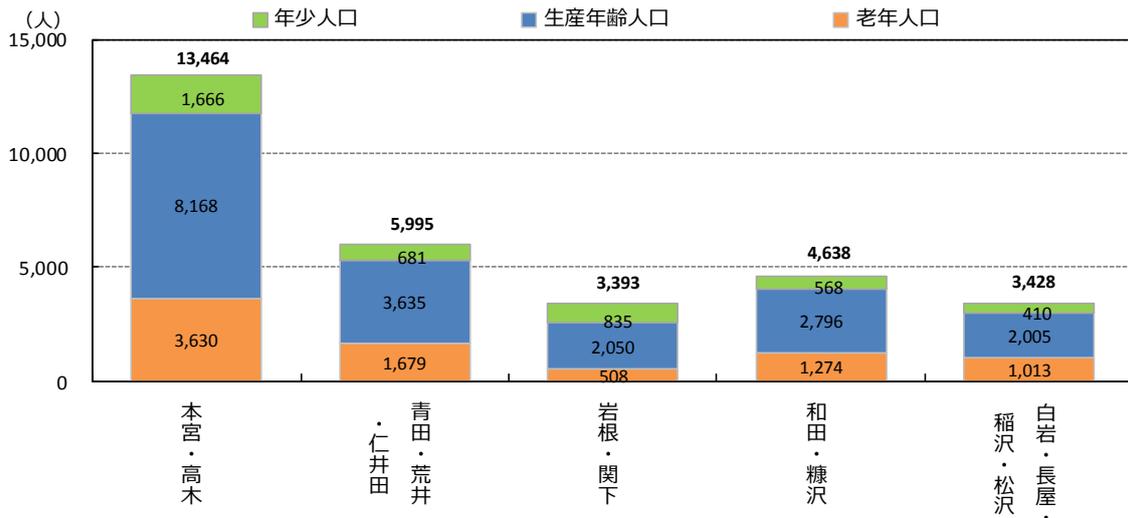
- 本市は東北自動車道、磐越自動車道、国道4号などの道路網に加え、東北本線が縦断する交通の要衝となっている。
- JR本宮駅及び周辺地区については、整備計画に基づき駅舎・東西自由通路、地域交流センター、西口広場の整備、東西アクセス道路の整備等が進められている。
- JR五百川駅周辺については、朝夕の通勤通学時の混雑が顕著であり、安全性と利便性の向上が求められている。
- 白沢支所周辺については、しらさわ夢広場でイベント等が開催されるなど、市東部地域のにぎわい創出の場となっている。
- 定住を支える安全安心で便利な魅力ある都市機能の強化が求められている。
- 今後さらに進行する少子高齢化に対応するため、これら都市拠点・地域拠点の利活用により魅力の創出を図る必要がある。
- 本市は、豊かな自然と優れた利便性を兼ね備えたまちである。また、市内にはバラエティに富んだ様々な公園が存在する。各施設の適正管理のもと癒しの空間と美しい景観を維持しながら、こうした強みを活かし、魅力を発信していくことが重要である。
- 移住定住を推進するため、民間活力による周辺環境と調和のとれた優良住宅の誘導を図る必要がある。
- 市内には市営住宅383戸、定住促進住宅40戸、復興公営住宅61戸がある。地域の活力と経済を支える人口誘導を図るため、定住促進住宅や市営住宅などの適正管理と入居促進を図る必要がある。また、老朽化した市営住宅の統廃合等についても検討が必要である。
- 都市拠点や地域の空洞化の解消を図るため、空き家・空き店舗などの既存ストックの有効活用を図る必要がある。また、安全・安心を確保するため耐震化、バリアフリー化及び空き家の適正管理を推進する必要がある。
- 本市では、農用地、森林、河川・水路、道路、住宅地、工業用地など様々な土地利用が行われている。
- 魅力的な都市づくりには、災害に強く自然環境や景観が維持された持続可能な秩序ある土地利用の推進を図ることが必要である。
- 人口減少・少子高齢化が進む中、定住につながる土地利用の最適化が求められている。

現状・課題別データ

(1) 都市拠点、地域拠点

《キーワード》本宮駅東西自由通路、五百川駅周辺、白沢総合支所周辺

■ 地区別人口（年齢3区分）



出典：国勢調査（総務省統計局）／10月1日現在

(2) 公園管理、利活用、景観・緑地

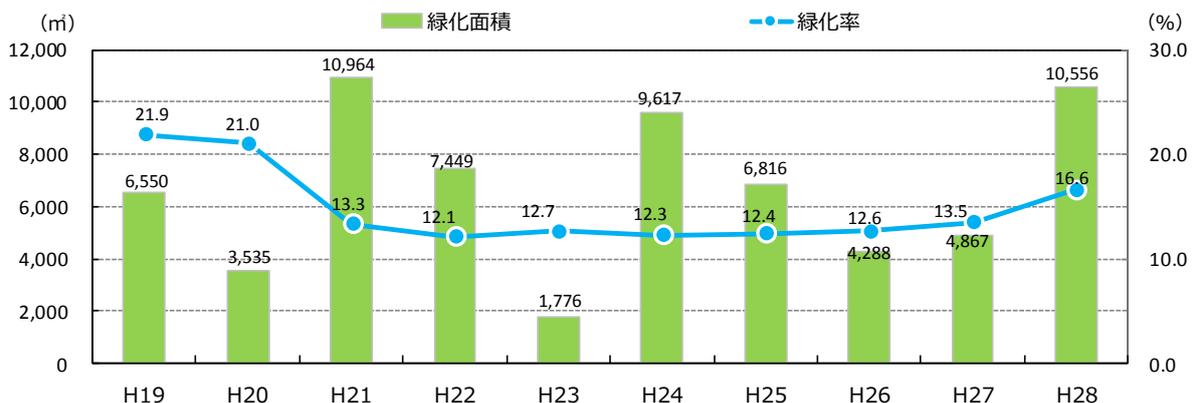
《キーワード》都市公園環境整備、情報発信、緑化条例、普及啓発

■ 都市公園面積

	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
都市公園面積	ha	62.99	62.99	62.99	62.99	62.99	62.99	62.99	62.99	64.39	64.39	64.39

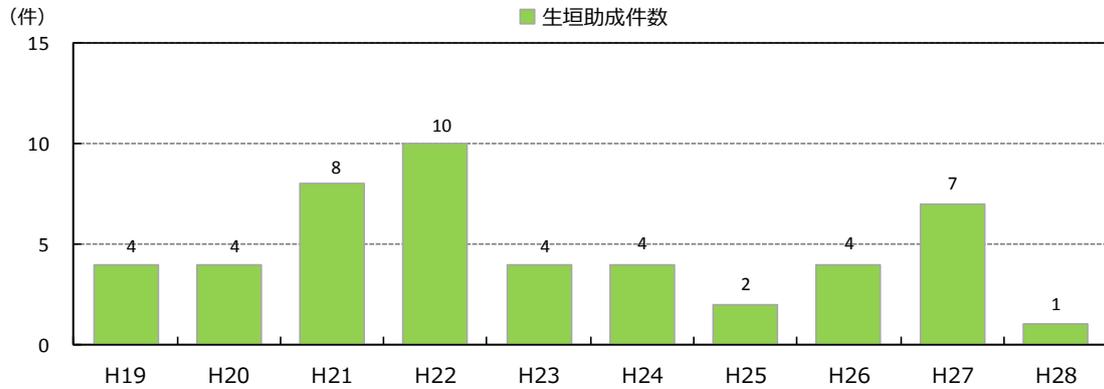
出典：市町村公共施設状況調査（総務省自治財政局）／各年3月31日時点

■ 開発事業における緑化面積



出典：緑化計画受付簿（本宮市まちづくり推進課）／各年度末

■ 生垣助成件数



出典：成果報告（本宮市）／各年度末

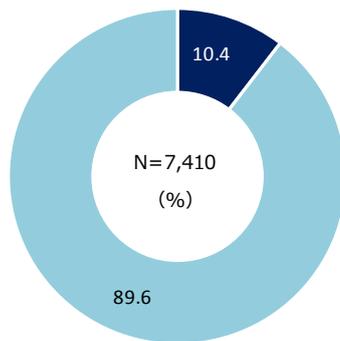
（3）安全快適住宅

《キーワード》耐震化診断、マイホーム奨励、宅地造成奨励

■ 持ち家における耐震診断実施率

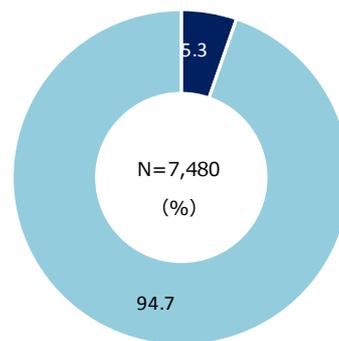
<H20>

- 耐震診断を実施したことがある持ち家の割合
- 耐震診断を実施したことがない持ち家の割合



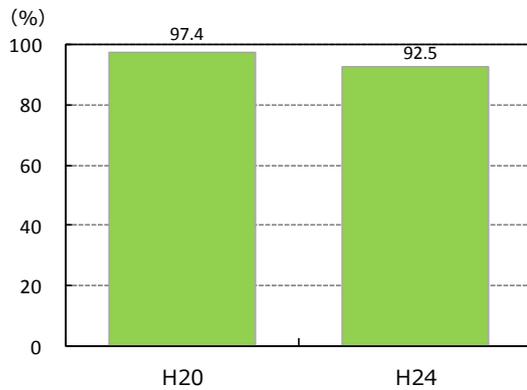
<H24>

- 耐震診断を実施したことがある持ち家の割合
- 耐震診断を実施したことがない持ち家の割合



出典：住宅・土地統計調査（総務省統計局）／各年10月1日時点

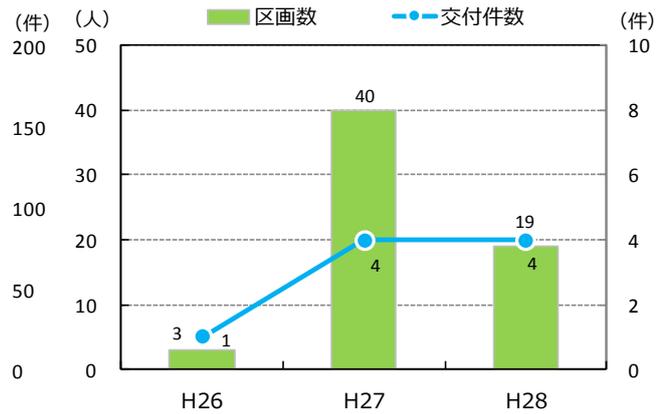
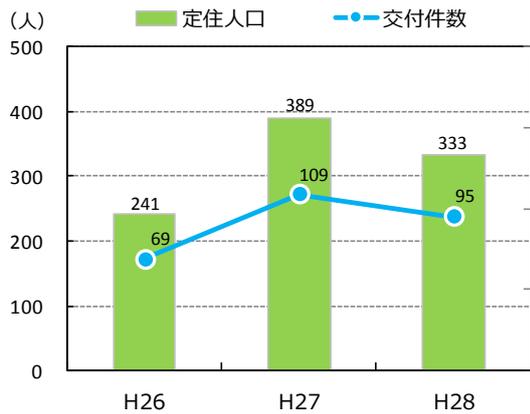
■ 耐震診断を実施し耐震性が確保されていた持ち家率



出典：住宅・土地統計調査（総務省統計局）／各年10月1日時点

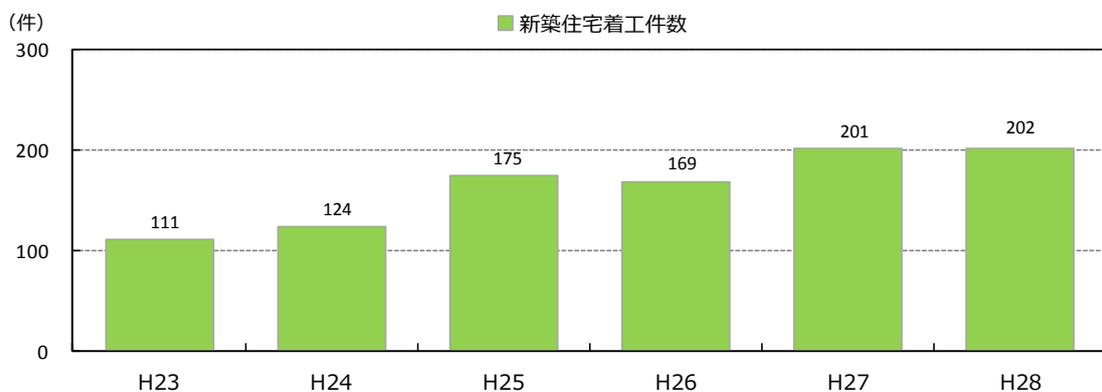
■ マイホーム取得奨励金交付件数・定住人口

■ 宅地造成奨励金交付件数・活用宅地区画数



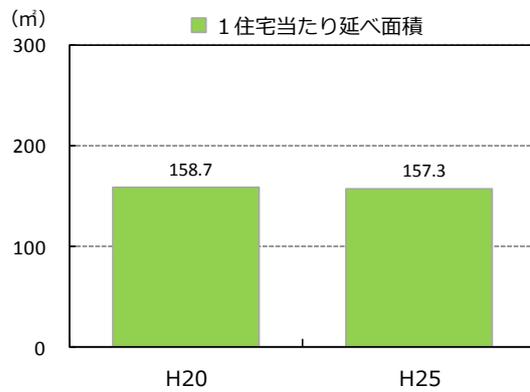
出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

■ 新設住宅着工戸数



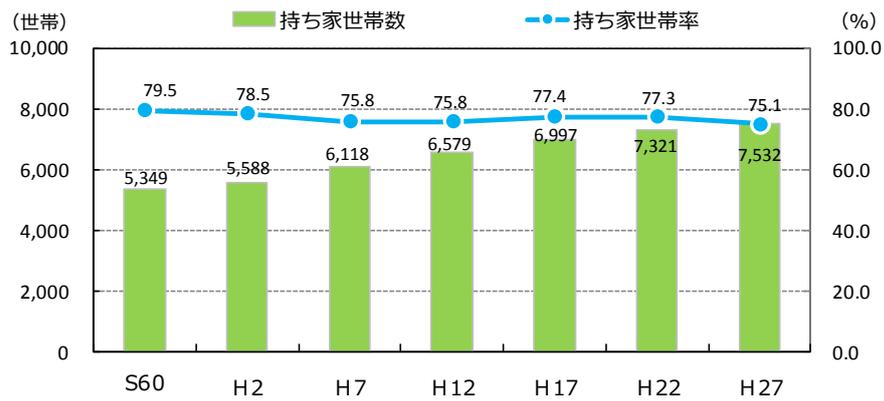
出典：建築着工統計調査（国土交通省）／各年

■ 住宅延べ面積（1 住宅当たり）



出典：住宅・土地統計調査（総務省統計局）／各年 10 月 1 日時点

■ 持ち家世帯数・比率

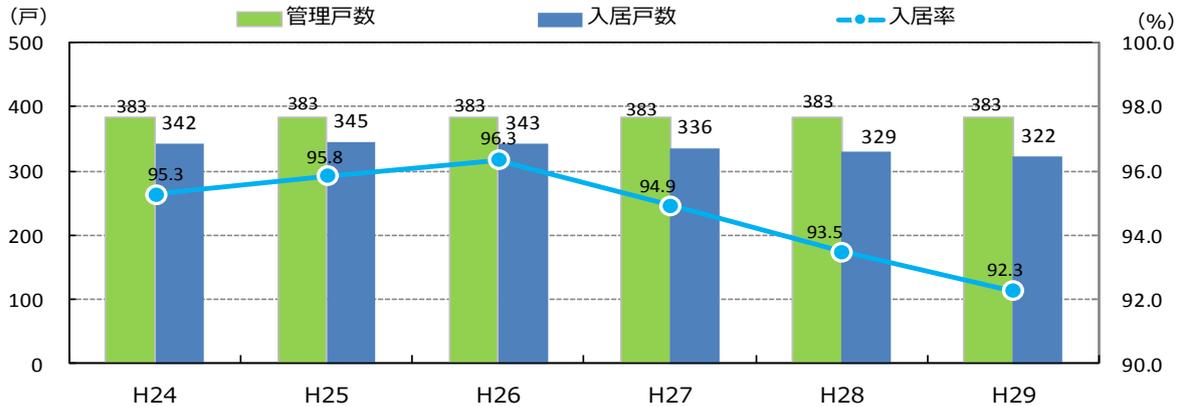


出典：国勢調査（総務省統計局）／各年 10 月 1 日時点

(4) 市営住宅

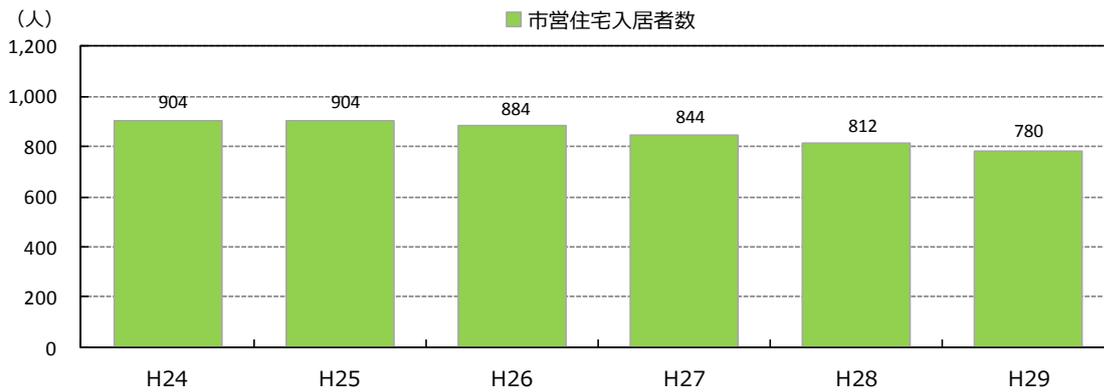
《キーワード》市営住宅、定住促進住宅、復興公営住宅

■市営住宅管理戸数・入居戸数・入居率（復興公営住宅・定住促進住宅を除く）



出典：成果報告書、建設課資料（本宮市）／各年度末

■市営住宅入居者数

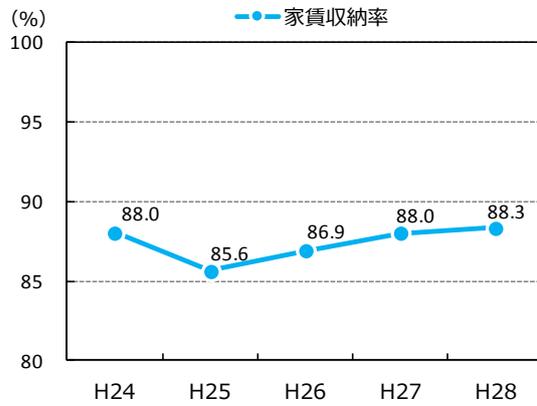


住宅別入居者数

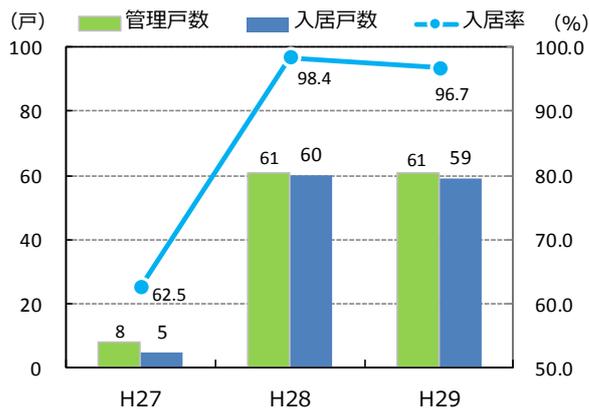
	単位	H24	H25	H26	H27	H28	H29
立石	人	46	45	42	41	39	33
兼谷平	人	138	142	146	134	139	136
千代田	人	6	6	1	1	0	0
瀬戸川	人	172	163	151	139	132	132
榊形	人	25	24	24	20	20	21
北川原田	人	44	41	41	40	40	37
花町	人	7	8	8	8	7	7
団子森	人	7	11	12	7	7	2
村山	人	199	198	196	190	183	168
桑内	人	6	6	6	6	6	6
柳内	人	37	39	39	38	29	29
柳内第二	人	17	17	14	11	11	12
石神	人	54	55	60	58	59	56
石神第二	人	50	46	53	52	44	51
小田部	人	13	15	15	14	14	11
大谷戸	人	31	31	24	30	29	27
下田	人	52	57	52	55	53	52
市全体	人	904	904	884	844	812	780

出典：建設課資料（本宮市）／各年度末

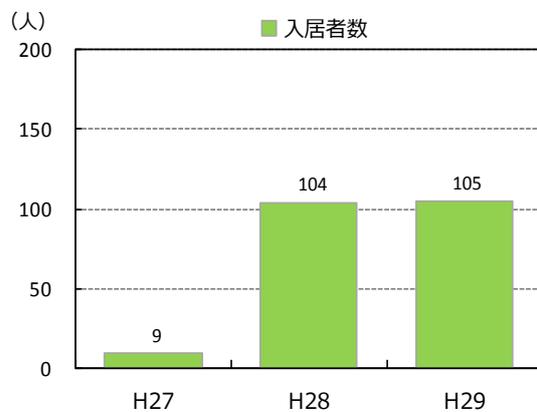
■市営住宅家賃収納率



■市営住宅（災害公営住宅分）管理戸数・入居戸数・入居率



■市営住宅（災害公営住宅分）入居者数

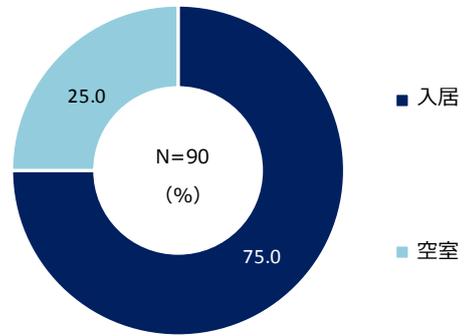
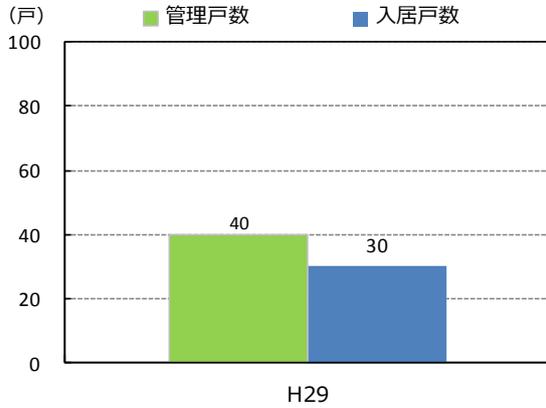


住宅別入居者数

	単位	H27	H28	H29
榊形第二	人	9	32	34
吹上	人	0	32	31
下田第二	人	0	40	40
市全体	人	9	104	105

出典：建設課資料（本宮市）／各年度末

■ 定住促進住宅 管理戸数・入居戸数・入居率・入居者数 (H29)

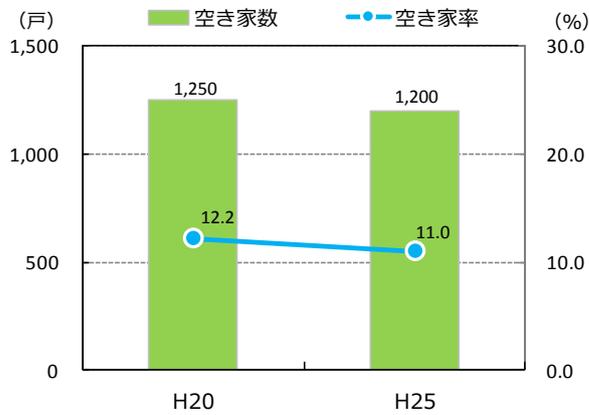


出典：建設課資料（本宮市）／平成 29 年度末

(5) 空家等対策

《キーワード》空家バンク、空家等対策計画

■ 空家数・空家率

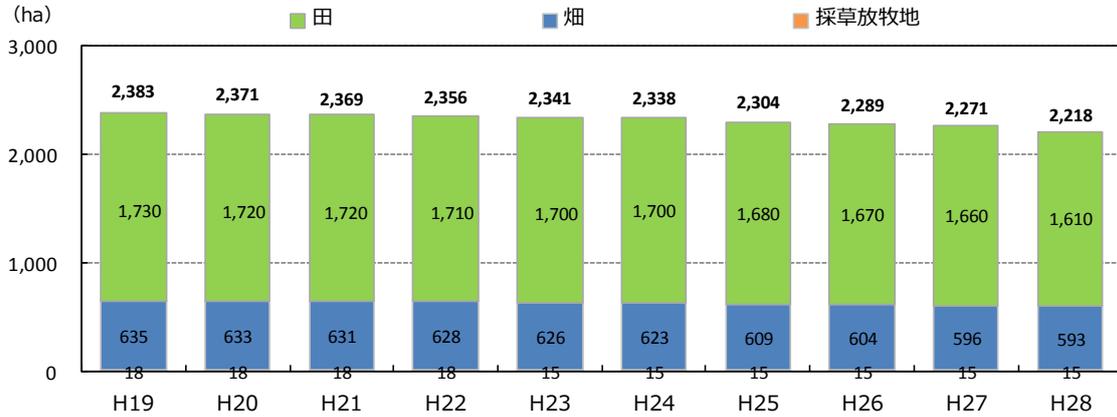


出典：住宅・土地統計調査（総務省統計局）／各年 10 月 1 日時点

(6) 土地利用計画

《キーワード》国土利用計画、都市計画マスタープラン、農業地域振興計画、森林整備計画

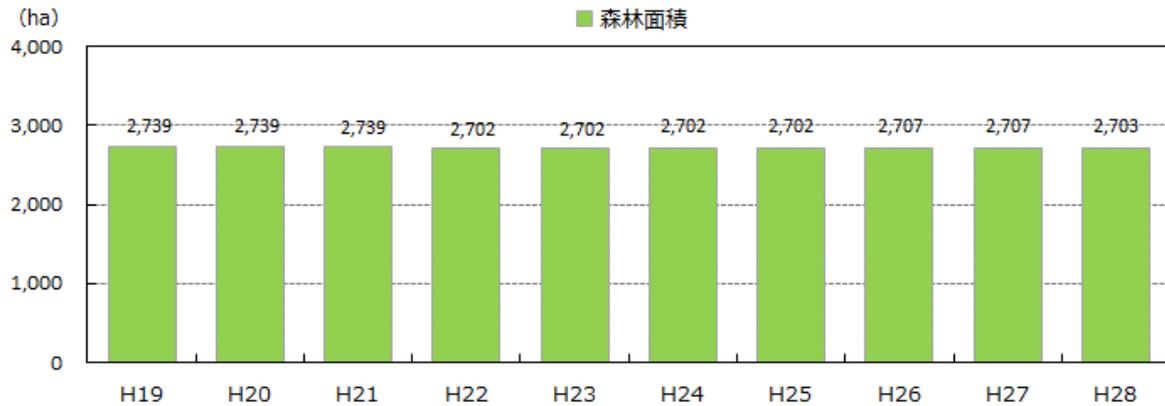
■ 農用地面積



出典：(田・畑) 耕地及び作付面積統計 (農林水産省) / 各年 7 月 15 日時点

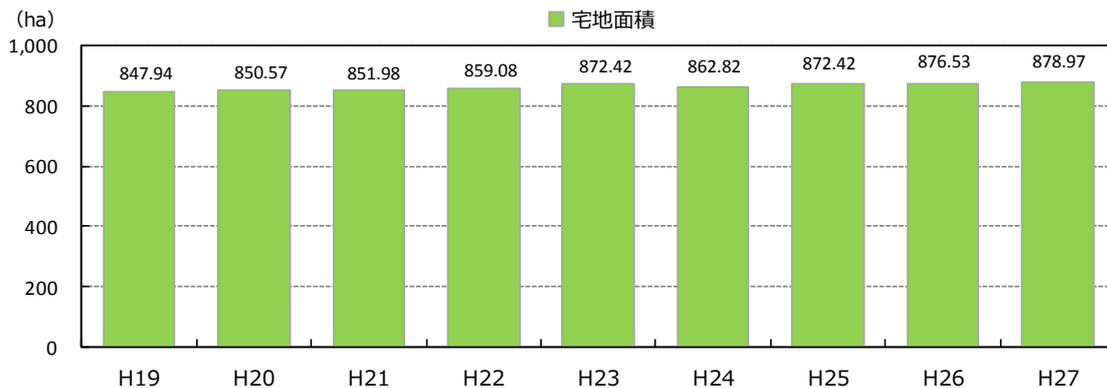
(採草放牧地) 世界農林業センサス / (H19~H22) 平成 12 月 1 日時点、(H23 年~) 成 22 年 2 月 22 日時点

■ 森林面積 (再掲)



出典：福島県森林・林業統計書 (福島県) / 各年 3 月末現在

■ 宅地面積



出典：地域別面積管理表 (福島県 土地・水調整課) / 平成 27 年 10 月現在

4 道路・公共交通

現状と課題

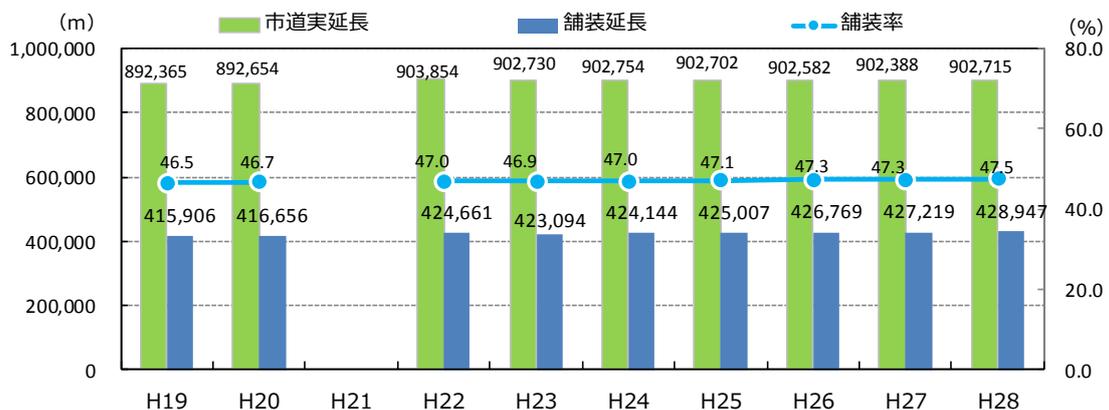
- 安全・安心で快適な道路網の整備が求められている。
- 現在、大山・松沢線（安達太良ドリームライン）をはじめ、合併支援道路整備、阿武隈川上ノ橋架替に伴う道路整備や橋梁長寿命化など幹線の維持・整備が進められている。
- 本市内では、通勤・通学時もほとんど交通渋滞がなく、快適な道路環境を維持している。
- ドライバーの高齢化に伴う交通安全対策が重要な課題となっている。
- 冬期間の積雪時は、的確な情報収集と各関係機関等との連携による通勤・通学路時等の安全を確保しなければならない。
- 道路に対する市民のニーズは高く、継続的に安全安心な維持管理を行っていく必要がある。
- ドライバーの高齢化に伴い、地域公共交通の重要性は急速に増大しており、市民意識調査でも高いニーズを示している。
- 他方、市内巡回バスの利用者は依然として低迷しており、市民意識調査で地域公共交通分野は、重要度が全35項目中9位にランキング中で、満足度は35位にとどまっている。
- 高齢者の単身または少数世帯が増加する中において、生活を維持するための交通手段の確保は喫緊の課題である。
- 全ての市民が、将来にわたり安心して暮らし続けられる環境づくりは、本市の定住促進の必要条件であり、中心市街地への誘導等を含めた総合的・戦略的な検討が必要である。

現状・課題別データ

(1) 都市計画道路、幹線道路

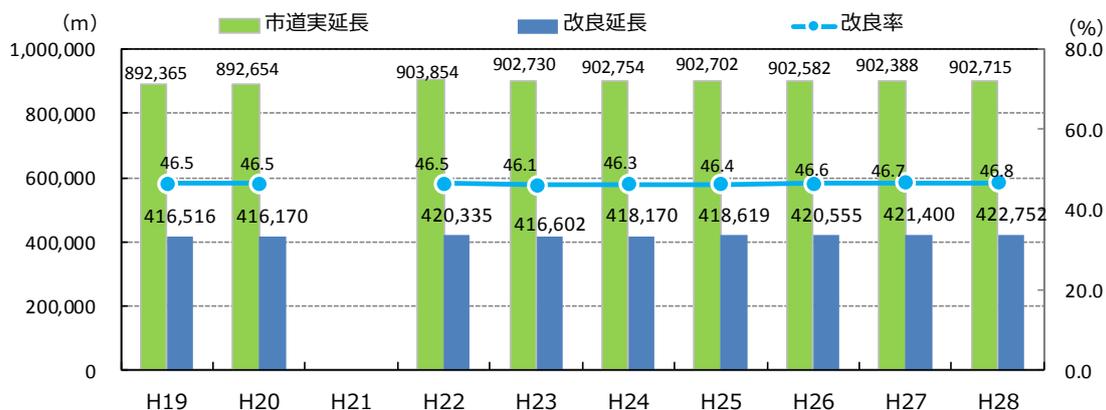
《キーワード》都市計画道路、主要幹線道路、生活道路、交通安全施設、国道・県道

■市道実延長、市道舗装率



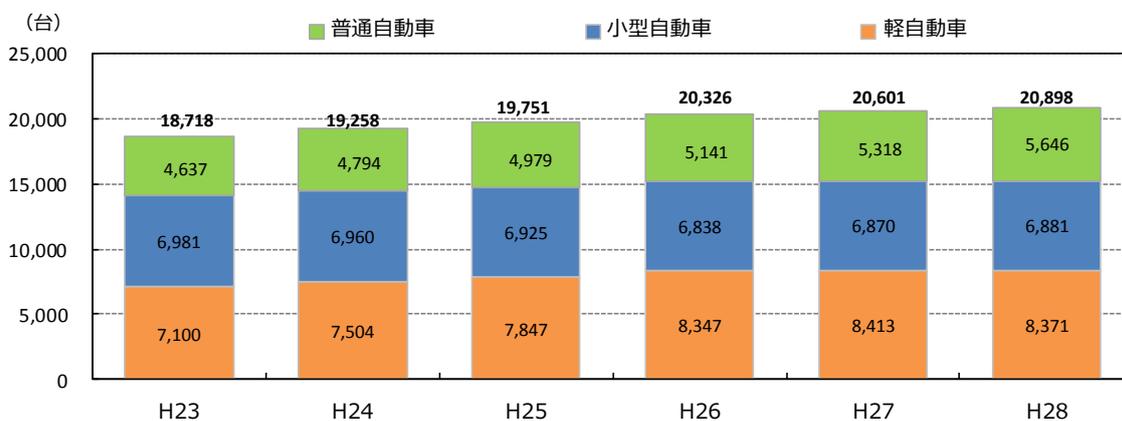
出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

■市道実延長、市道改良率



出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

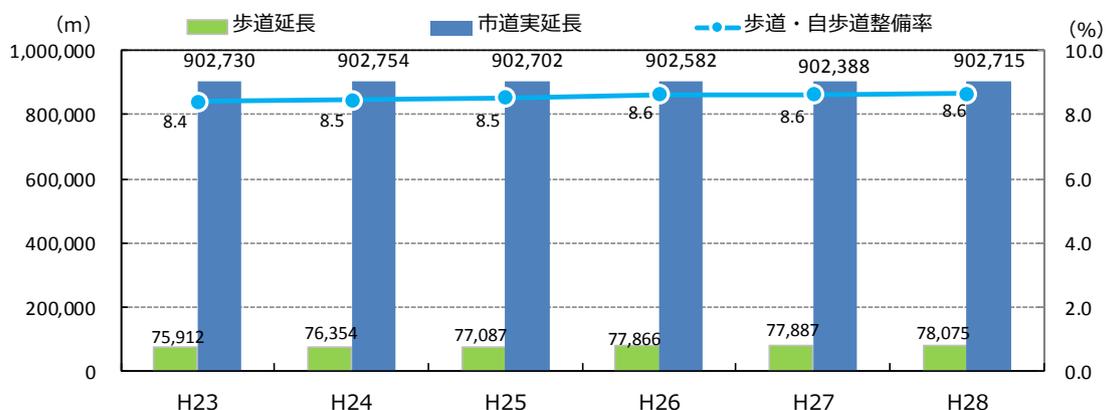
■自動車保有台数



出典：福島県内市町村別自動車数調（東北運輸局福島運輸支局）／各年3月31日時点

※普通自動車および小型自動車は事業用を除く。軽自動車は二輪、三輪および貨物車を除く。

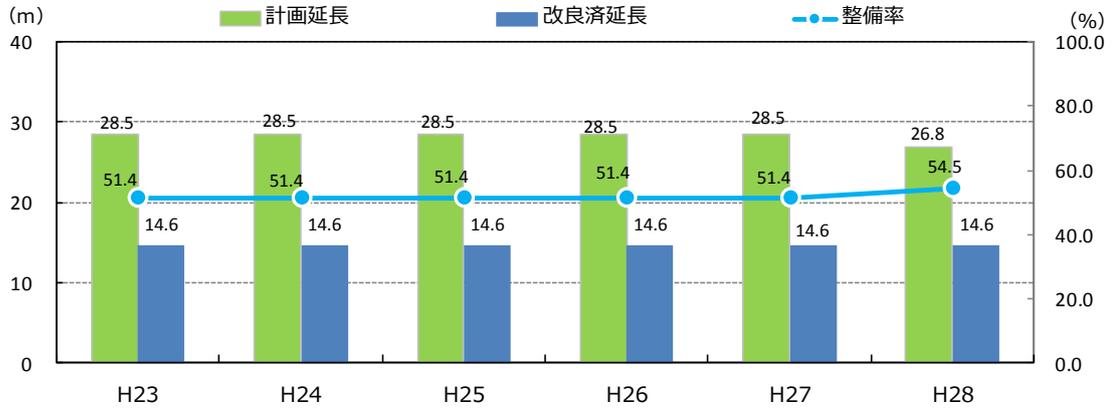
■市道の歩道・自転車歩行者道設置整備率



出典：市町村道の部分自歩道現況（市町村別調書）／次年度4月1日現在

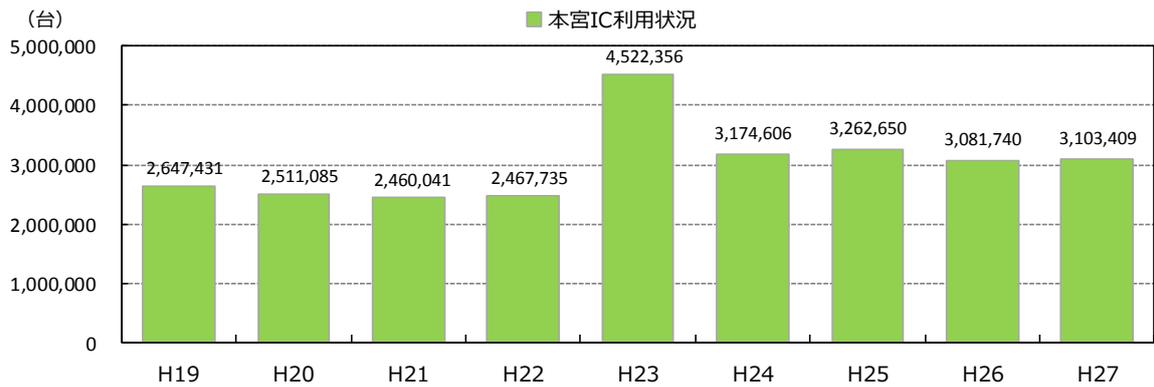
※4月1日現在の値のため、前年度分として掲載

■ 都市計画道路整備率



出典：都市計画道路現況調査（福島県）／各年度3月31日現在

■ 本宮 IC 利用状況



出典：福島県統計年鑑（福島県）／各年度末

(2) 公共交通システム

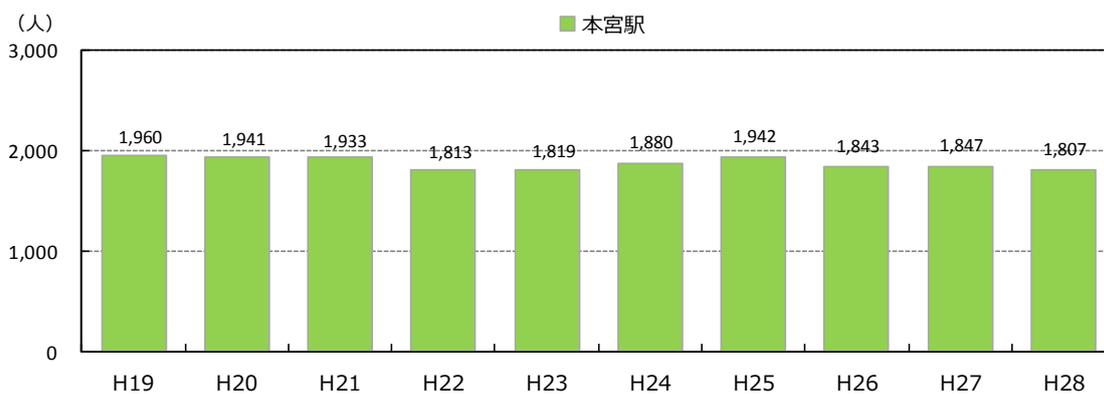
《キーワード》市内巡回バス、デマンドタクシー、路線バス、通勤通学バス、JR 等交通機関連携

■ 地域公共交通利用者数（種別ごと一日あたり）

	単位	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
市街地巡回バス	人/日	17.4	20.1	20.0	24.4	26.4	25.4	26.9	28.2
通勤・通学バス	人/日	17.5	28.2	31.8	35.6	34.9	33.1	32.8	28.8
市営バス（下樋・熱海線）	人/日	51.6	46.1	46.7	47.0	47.9	43.2	37.5	34.4
広域バス（岳・竹の内線）	人/日	44.9	40.4	34.7	37.7	37.3	38.2	33.4	32.7
乗合タクシー	人/日	111.3	115.0	118.9	121.3	113.2	112.3	116.3	112.5

出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

■ 駅利用状況（1日平均乗車人員）



出典：JR 東日本「各駅の乗車人員」／各年度末

5 水道・下水道・雨水排水路

現状と課題

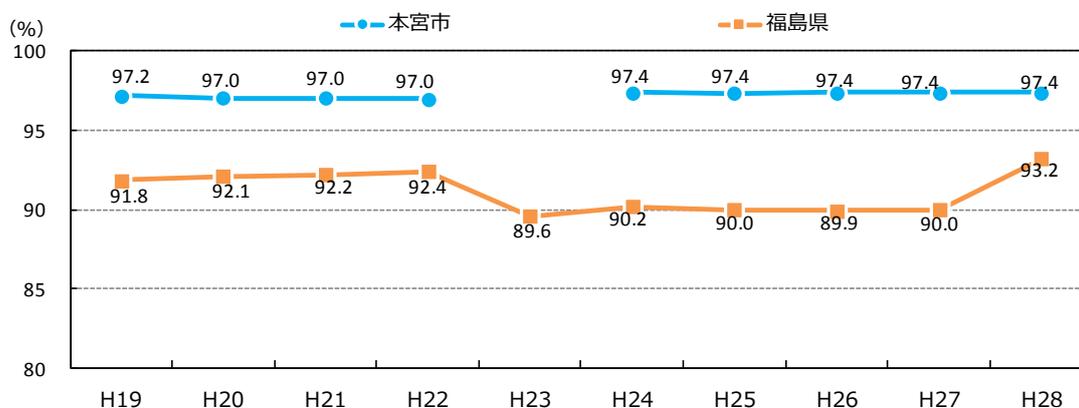
- 水は市民のライフラインの根幹である。本市の水道普及率は97.4%となっている。今後も継続的に安定供給を図るため、水源の確保に努めていく必要がある。
- 本市の水道水等は、東日本大震災等の影響による放射線量の測定を継続的に行っており、安全が確保されている。今後もこうした取組と安全性のPRを行っていくことが重要である。
- 本市の汚水処理人口普及率は74.1%となっており、良好な生活環境の確保と水質保全のため、今後も普及促進に努める必要がある。
- 持続可能な汚水処理サービスを継続するため、施設の長寿命化と効率的な運営を図る必要がある。
- 本市の水害対策については、阿武隈川築堤をはじめ、排水ポンプ場や雨水幹線の整備が進められている。また、集中豪雨による浸水頻度の高い万世地内については、平成29年に浸水対策計画が策定された。

現状・課題別データ

(1) 水道

《キーワード》水の安定供給

■ 水道普及率

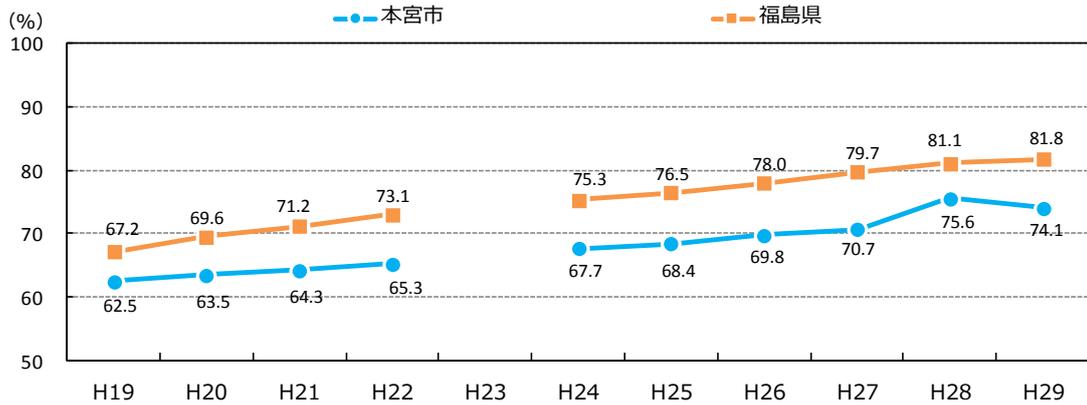


出典：福島県統計年鑑（福島県企画調整部統計課）／各年3月31日現在
 ※H23.3.31（平成22年度末）の、本宮市のデータなし。

(2) 下水道

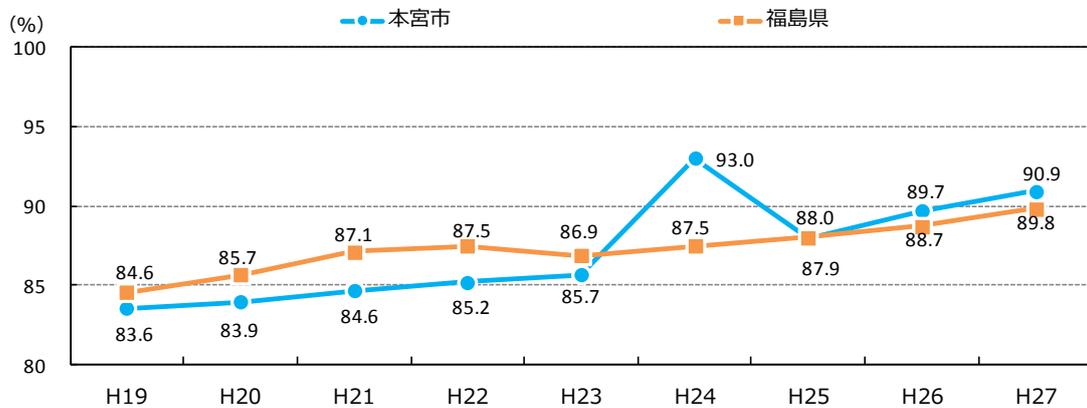
《キーワード》雨水処理施設、汚水処理施設

■ 汚水処理人口普及率



出典：福島県統計年鑑（福島県企画調整部統計課）／各年 3 月 31 日現在
 平成 28 年度末福島県汚水処理人口普及率（福島県土木部下水道課）／各年 3 月 31 日現在
 ※H23.3.31（平成 22 年度末）は震災のためデータなし。

■ 水洗化率

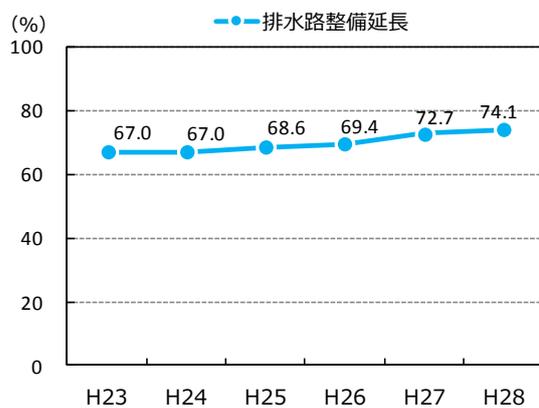


出典：一般廃棄物処理実態調査結果（し尿処理状況）環境省）／各年度

(3) 雨水排水路・河川改修

《キーワード》雨水排水路、築堤

■排水路整備延長（再掲）



出典：成果報告（本宮市）／各年度

1 市民活動

現状と課題

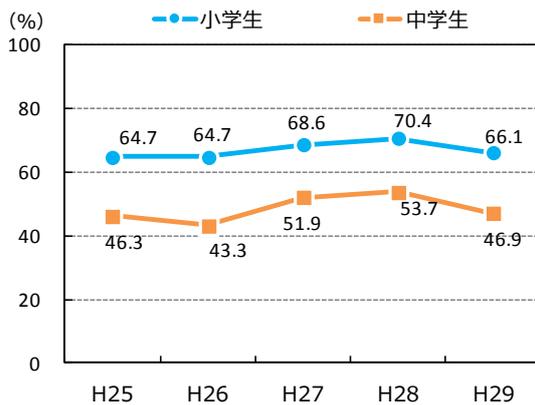
- 地域の活力維持には、市民の主体的な活動が重要である。
- 近年、地域の人口減少や価値観の多様化等により、地域活動の担い手の確保が課題となっている。
- 市内の単身・少数世帯が増加する中において、町内会加入率は減少している状況にある。
- 地域と将来を担う地域の子どもたちの地域行事やボランティア活動等をとおし、地域との結びつきを強化することが重要である。

現状・課題別データ

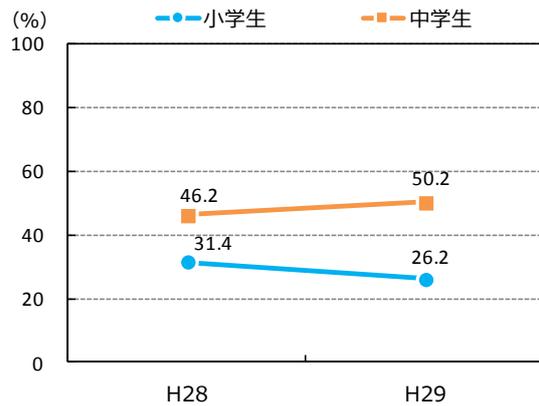
(1) 町内活動、ボランティア、NPO

《キーワード》町内会支援、ボランティア活動支援、普及啓発

■地域の行事に参加している児童・生徒の割合 (再掲)

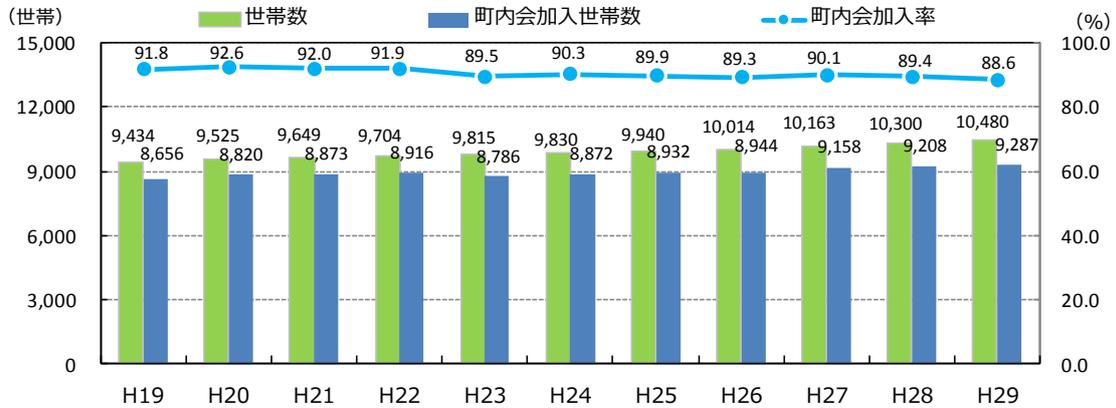


■地域社会などでボランティア活動に参加した経験のある児童・生徒の割合 (再掲)



出典：全国学力・学習状況調査／各年度

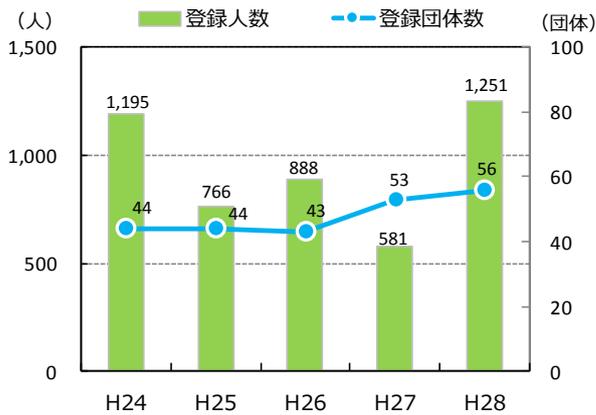
■町内会入会者数（率）



出典：本宮市生活環境課資料／各年 3 月 31 日時点

※世帯数は前年度 3 月 31 日の住民登録数で当年度の世帯数としている。推計人口による世帯数とは異なる。

■福祉ボランティア登録団体数・登録人数（再掲）



出典：本宮市第 1 次総合計画「主な成果指標」／各年度

■NPO 団体数

	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
NPO団体数	団体	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9

出典：福島県 H P 福島県所管の N P O 法人に関する情報 認証状況／平成 29 年 9 月 30 日時点

2 都市交流・国際交流・多文化共生

現状と課題

- 社会情勢の目まぐるしい変化に対応するグローバルな視点を持った人材の育成は自治体共通の課題である。
- 本市では、友好都市やへそのまち協議会等を通して、全国様々な自治体との交流を行っている。また、プリンス・ウィリアムズ・パーク英国庭園の開園を契機に、英国との交流を開始した。

今後は、こうした絆を活用しながら、多様な価値観や文化に対応し得る幅広く活躍できる人材育成と地域の活性化につなげることが重要である。

現状・課題別データ

(1) 都市交流

《キーワード》友好都市協定、全国へそのまち協議会

■友好都市、へそのまち協議会等協定締結状況

	単位	H25	H26	H27	H28	H29
友好都市締結数	件	1	-	-	-	-
へそのまち協議会参加自治体数	件	-	-	8	9	9

締結自治体内訳

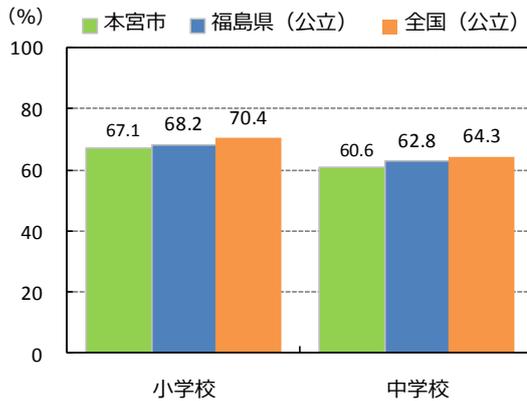
	H25	H26	H27	H28	H29
締結した友好都市	上尾市	-	-	-	-
へそのまち協議会参加自治体	-	-	北海道富良野市 福島県本宮市 栃木県佐野市 群馬県渋川市 兵庫県西脇市 岡山県吉備中央町 熊本県山都町 沖縄県宜野座村	北海道富良野市 福島県本宮市 栃木県佐野市 群馬県渋川市 奈良県吉野町 兵庫県西脇市 岡山県吉備中央町 熊本県山都町 沖縄県宜野座村	北海道富良野市 福島県本宮市 栃木県佐野市 群馬県渋川市 奈良県吉野町 兵庫県西脇市 岡山県吉備中央町 熊本県山都町 沖縄県宜野座村

出典：本宮市政策推進課資料／各年度末

(2) 国際交流・多文化共生

《キーワード》英国交流、姉妹庭園、国際理解啓発

■外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい生徒の割合



出典：全国学力・学習状況調査／平成 29 年度

■国際理解講演会等参加者数

	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
国際理解講演会等参加者数	人	—	—	—	—	—	—	—	20	—	23	29

出典：国際理解講演会結果報告書（政策推進課）／各年度末

3 人権・男女共生

現状と課題

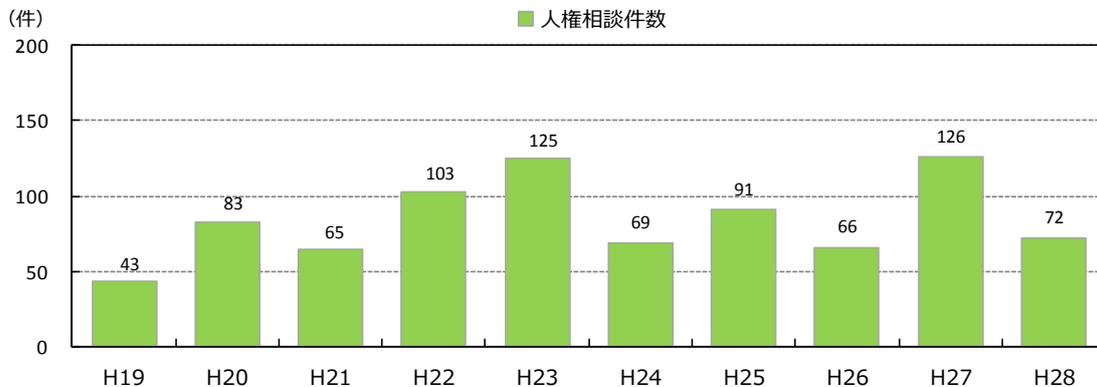
- 人権は、日常生活の最も基本的なルールで、万人に共通した1人ひとりに備わった権利である。
- すべての市民がお互いを尊重し、誰もが平和で平等な生活が送れるよう、差別、いじめ、虐待、暴力等の解消に向け、広く人権やユニバーサルデザインの意識を普及・啓発していく必要がある。
- 関係機関等との連携により、人権問題に関する相談体制を充実させることが重要である。
- 性別等によらず自らの意思に基づき、活躍の場や機会を与えられる社会の実現が求められている。
- 子育てや介護を行いながら働き続けられるよう、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図ることが重要であり、市民をはじめ、企業等の理解と協力が必要である。
- 女性の就業率は、平成22（2010）年まで減少傾向にあったが、平成27（2015）年は上昇に転じており、特に60～69歳、次いで30～34歳の上昇率が高くなっている。

現状・課題別データ

（1）人権問題

《キーワード》人権・ユニバーサルデザイン普及・啓発、人権相談窓口

■人権相談件数

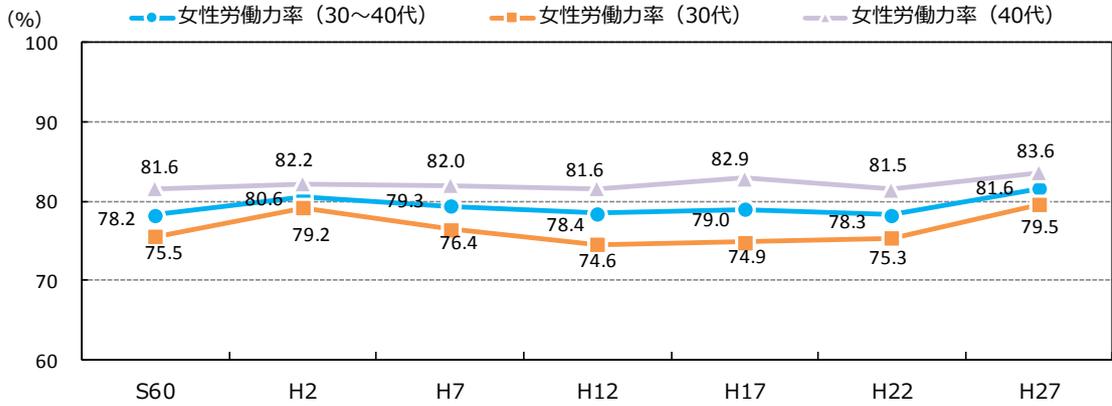


出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

(2) 男女共生・女性活躍

《キーワード》男女共同啓発、女性活躍

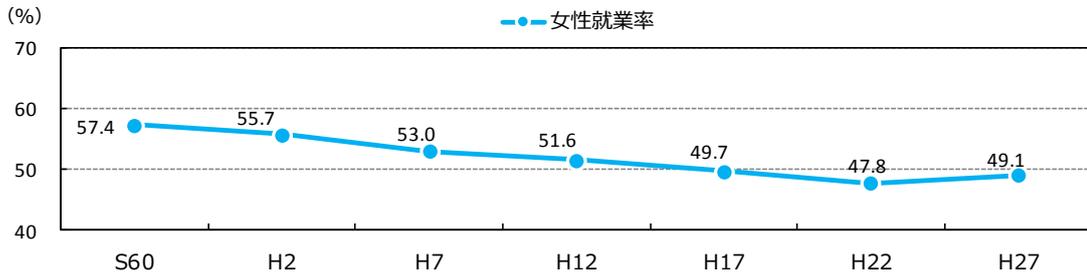
■ 女性労働力率 (30~40代)



出典：国勢調査（総務省統計局）／各年 10 月 1 日時点

※労働力率：労働力人口／（『対象総人口』－『労働力状態「不詳」人口』）、平成 17 年以降は、「労働力状態（不詳）」を除く

■ 女性就業率



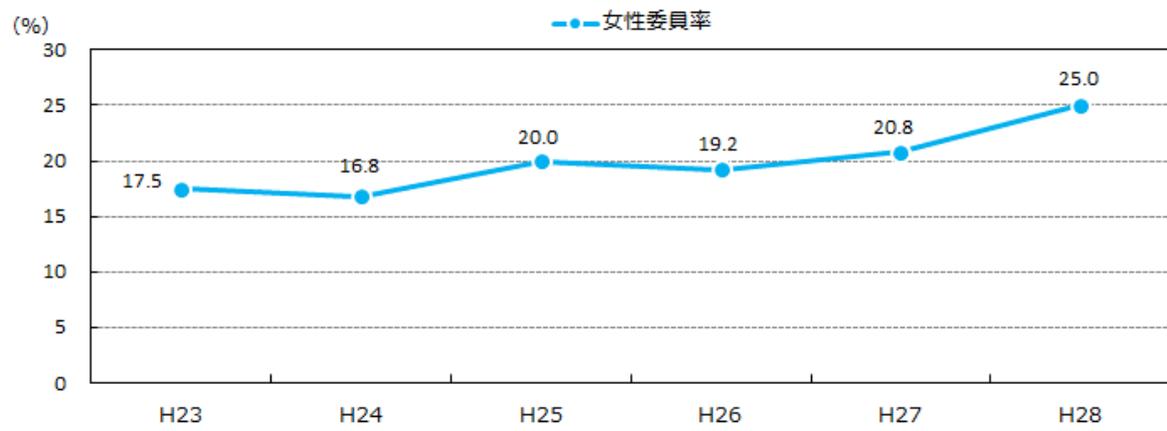
年齢別

	単位	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27
15~19歳	%	18.4	17.2	13.5	14.4	11.8	8.6	12.1
20~24歳	%	85.9	80.9	76.6	76.9	70.5	69.7	66.5
25~29歳	%	75.2	74.8	71.0	73.6	72.3	71.0	73.3
30~34歳	%	72.2	75.3	72.0	69.2	69.8	67.8	74.5
35~39歳	%	77.6	81.8	78.6	78.2	75.2	71.0	72.8
40~44歳	%	81.9	83.8	83.3	81.6	80.9	76.5	76.6
45~49歳	%	80.4	81.3	78.9	82.5	82.1	78.1	81.7
50~54歳	%	70.2	74.6	73.2	71.1	76.2	75.7	77.3
55~59歳	%	60.4	58.0	60.3	58.0	60.8	65.3	71.3
60~64歳	%	46.2	42.0	40.0	38.6	38.0	42.5	51.6
65~69歳	%	29.1	29.8	27.3	28.0	28.6	27.0	32.6
70~74歳	%	10.0	17.3	15.6	17.7	17.8	16.9	19.5
75~79歳	%	5.1	5.3	9.1	9.7	9.4	10.3	10.7
80~84歳	%	1.9	2.8	3.5	5.7	4.4	3.6	5.6
85歳以上	%	0.0	1.4	0.7	0.7	1.5	1.9	2.5
市全体	%	57.4	55.7	53.0	51.6	49.7	47.8	49.1

出典：国勢調査（総務省統計局）／各年 10 月 1 日時点

※女性就業率：女性就業者数／女性 15 歳以上人口

■ 女性委員率



出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

※行政における審議会・委員会等の女性委員登用率

4 情報通信

現状と課題

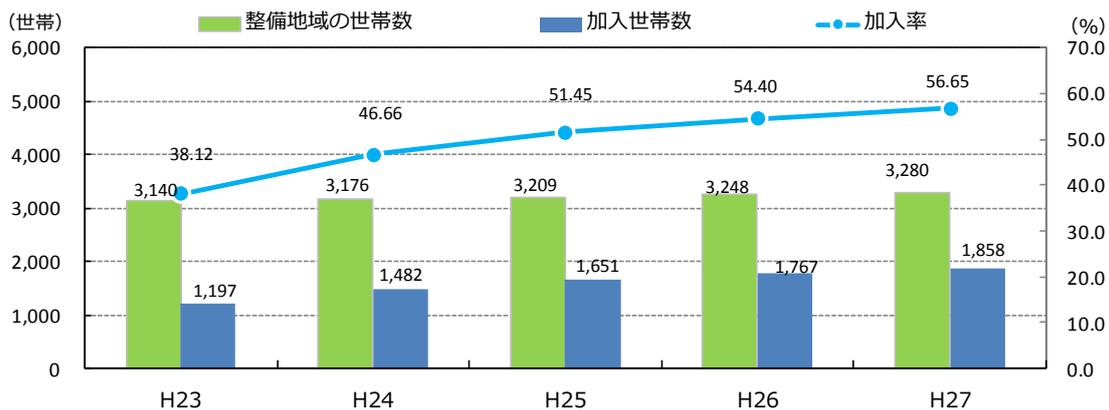
- 高度情報化が進展する中であって、情報通信技術（ICT）の活用による市民の日常生活や行政手続きにおける利便性の向上など、市民の多様なニーズへの対応や行政運営の効率化・省力化等が求められている。
- 本市では、全地域で光回線が利用可能となっており、さらなる利活用を図る必要がある。
- 高度情報通信技術の活用にあたっては、セキュリティ対策の強化が必要である。
- マイナンバーカードの交付件数は1,846件となっている。今後はさらなる市民の生活利便性の向上に資する活用を図る必要がある。
- 中高生意識調査では、「将来本宮市がどんなまちになったらよいか」との質問に対し、「インターネットやWi-Fi環境などの情報ネットワークが充実したまち」との回答が、中学生65.6%、高校生50.4%といずれも選択項目中トップであった。

現状・課題別データ

(1) 情報通信施設

《キーワード》光ファイバー網の整備、Wi-Fi環境の整備、Iot、AI等導入の調査検討

■ 光回線利用者数

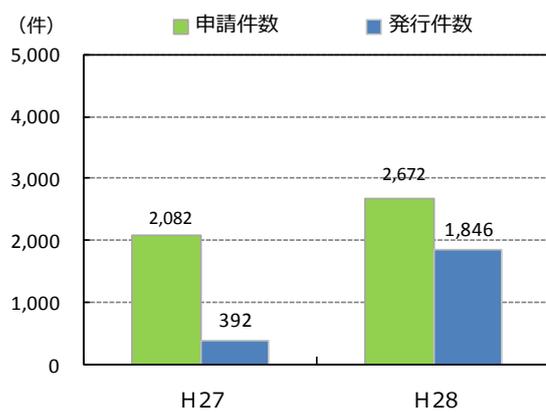


出典：地域情報通信基盤整備推進交付金事業報告（本宮市施設管理課）／各年度末
※対象地域は岩根地区および旧白沢地区全域

(2) 情報通信技術利活用

《キーワード》マイナンバー、普及啓発・セミナー等

■ マイナンバーカード発行者数



出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

※H27年度から発行開始

5 公共施設

現状と課題

- 本市には、子育て支援施設、社会教育施設、スポーツ・レクリエーション施設、保健・福祉施設、公園などバラエティに富んだ多世代が交流できる公共施設が多くある。
- その中でも、健康増進や子育て支援や多世代交流を目的とした「えぼか」や子供の屋内・屋外あそび場や英国庭園を備えた「プリンス・ウィリアムズ・パーク」、みずいろ公園や屋内運動施設「まゆみアリーナ」などには、市内のみならず、市外からの利用者も多い。また、平成30年3月には新たに多世代交流施設「あぶくま憩の家」がオープンした。
- 各施設を子どもから高齢者まで全ての市民が生涯を健康で生きいきと暮らすための活動の拠点として利用促進を図ることが必要である。
- 施設の老朽化や維持管理に伴う経費については、大規模改修や建替え等にかかる費用を抑えながら、年度ごとの支出を平準化させるとともに、中長期的視点による計画的・戦略的なマネジメントの強化が求められている。
- 他分野連携のもと面的プロモーション活動を行い、定住・観光・交流人口の増加に資する費用対効果の高い財産としていくことが重要である。
- 施設の利用促進にあたっては、情報通信技術（ICT）を活用するなど、市民の視点に立った利便性の向上が求められる。

現状・課題別データ

(1) 公共施設整備・管理・利活用

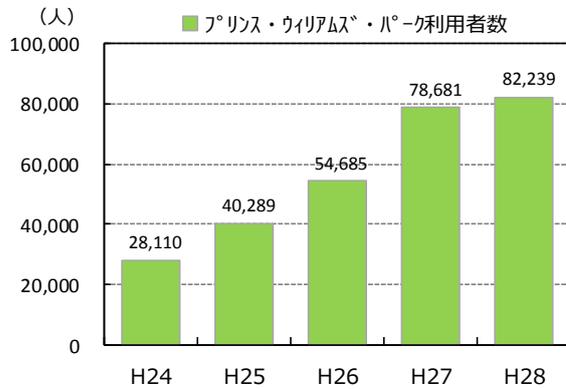
《キーワード》公共施設等総合管理計画、えぼか、多世代交流

■えぼか利用者数



出典：成果報告書「本宮市民元気いきいき応援プラザ施設維持管理事業」（本宮市）／各年度末

■プリンス・ウィリアムズ・パーク利用者数



出典：成果報告書「スマイルキッズパーク運営事業」「屋内あそび場運営事業」（本宮市）／各年度末
 ※平成 24 年 7 月オープンのため、平成 24 年度は 7 月から翌年 3 月までの数値。

■公共施設数

種別	施設数	種別	施設数
行政系施設	32	市民文化系施設	27
公営住宅	20	公園	3
子育て支援施設	13	産業系施設	8
学校教育系施設	11	医療施設	1
社会教育系施設	3	上水道施設	22
スポーツ・レクリエーション系施設	20	下水道施設	9
保健福祉施設	5	その他	16
		市全体	190

出典：本宮市公共施設等総合管理計画（本宮市）／H29 年 3 月時点
 ※建物がない施設（管理等が無い公園や運動場）や道路は含まれていない。

6 広域等連携

現状と課題

- これまで、消防、ゴミ処理など特定の分野において広域行政組合による連携を行ってきた。
- 今般、人口減少・少子高齢化が進展する一方で、地域課題や社会ニーズが複雑・多様化していることを背景に、近隣自治体の相互の弱点を補完し、相乗効果を高めるため、新たな広域連携の必要性が高まっている。
- 地域の課題を解決するには、産学金官による連携が重要である。本市では、現在、3大学、2金融機関と連携協定を締結している。こうしたつながりを最大限に活用し、多分野において連携を図ることが必要である。

現状・課題別データ

(1) 関係機関等連携

《キーワード》大学包括連携協定、金融機関包括連携協定

■ 包括連携協定締結状況

	単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
大学との連携協定	件	-	-	1	1	-	-	-	1	-	1	1
金融機関との連携協定	件	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-

連携協定内訳

	H21	H22	H26	H28	H29
大学との連携協定	郡山開成学園	福島大学(包括)	日本大学工学部	郡山開成学園(包括)	相模女子大学
金融機関との連携協定			東邦銀行(包括) 二本松信用金庫(包括)		

出典：本宮市のあゆみ／各年度末

7 行政活動

現状と課題

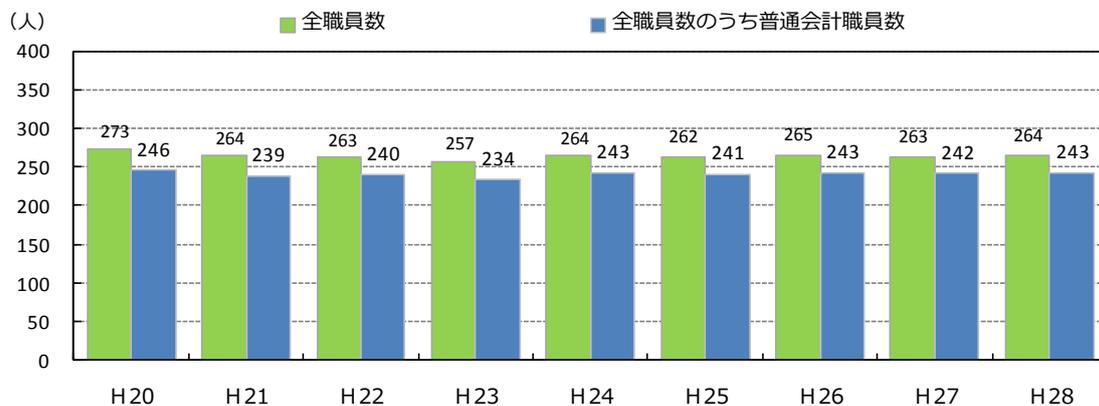
- 社会情勢が目まぐるしく変化する中で、地方分権に対応した質の高い市民の視点に立った行政運営が求められている。
- 将来を見据えながら、経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を最大限かつ有効に活用することが重要である。特に、他の全ての経営資源を有効活用しうる「ヒト」の育成は、最重要課題である。
- 本市の財政規模は、復興事業等により近年は増加傾向にあったが、今後は人口減少・少子高齢化も相まって減少に転じていくことが想定される。
- 国からの地方交付税の減少も想定され、稼ぐ力を高めるなど自主財源確保の視点を持ちながら、長期視点に立った足腰の強い持続可能な財政運営を行っていく必要がある。
- 財産の適正管理、有効活用及び適正処分が必要である。
- 自治体経営において、エビデンス（客観的証拠）に基づくマネジメントサイクル（PDCA）の確立や民間視点の導入の必要性が高まっている。
- 本市が選ばれる自治体となるため、情報を活用した戦略的な広報活動により知名度や信頼感（ブランド・エクイティ：ブランド価値）を高めていくことが重要である。
- 市民との情報共有により、若者から高齢者まで幅広い世代の市政に対する関心を高め、市民が主体のまちづくりにつなげていくことが必要である。

現状・課題別データ

（1）行財政運営

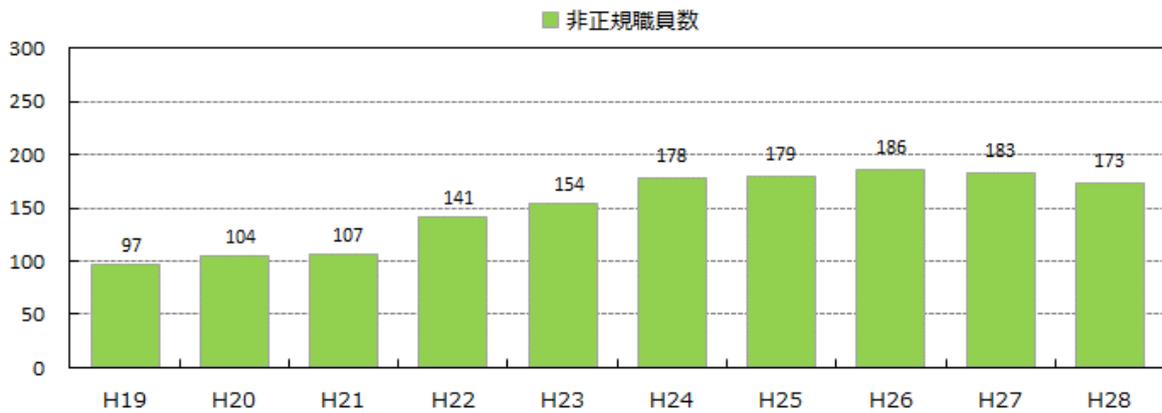
《キーワード》職員育成、財政運営、情報発信・情報収集、ファシリティマネジメント

■ 正規職員数



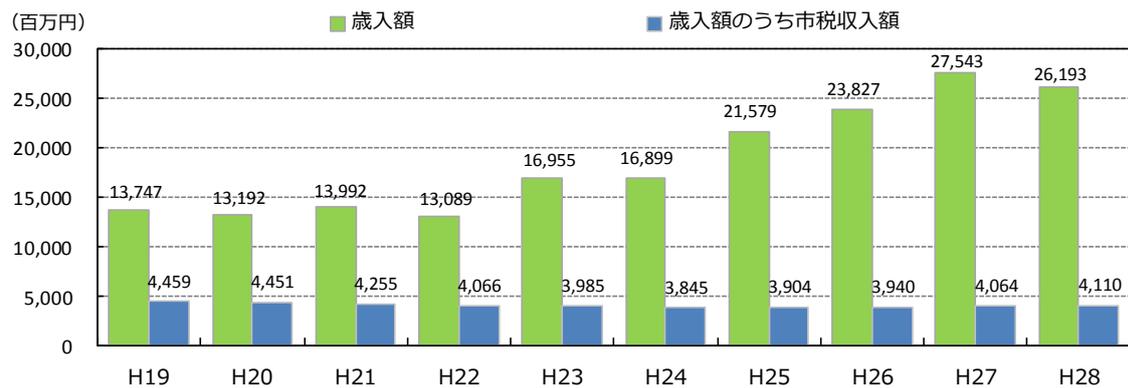
出典：本宮市人事行政の運営等の状況（本宮市総務部総務課）／各年4月1日現在
 ※平成26年までは教育長を含めた人数

■非正規職員数



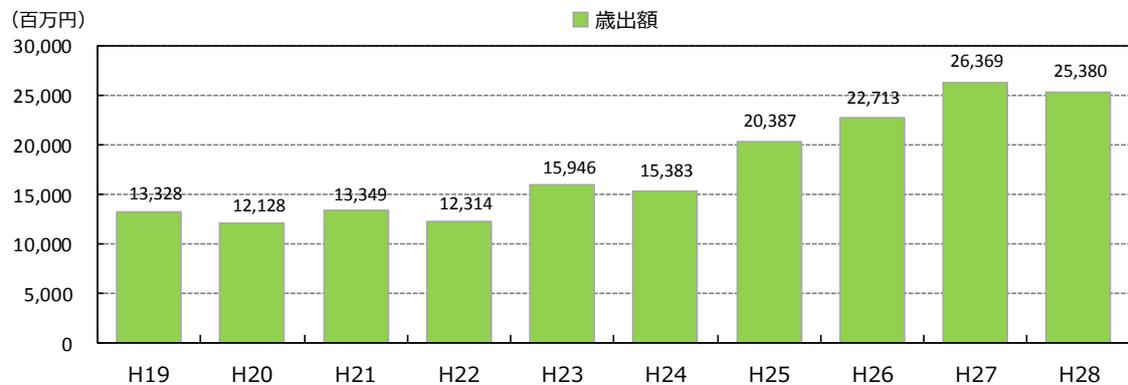
出典：本宮市総務部総務課資料／各年度末 ※嘱託職員、臨時職員の合算

■歳入（うち市税収入の額）の推移



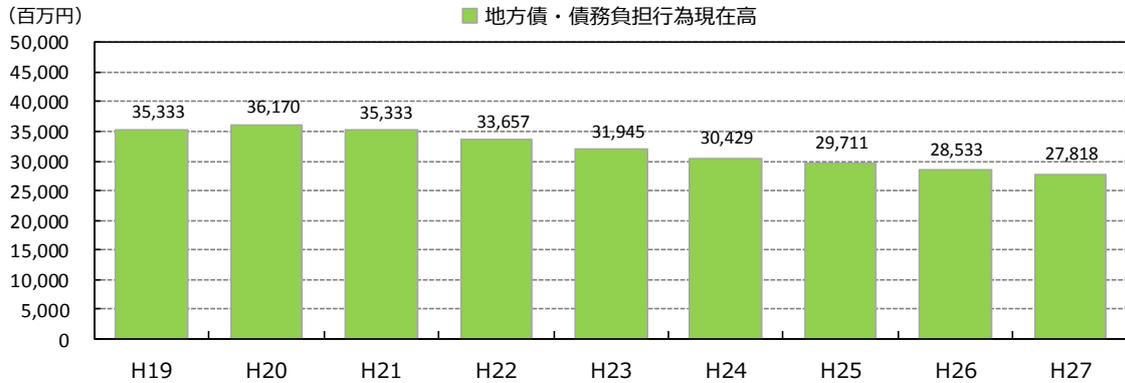
出典：本宮市決算書／各年度末（出納整理期間含む）

■歳出の推移



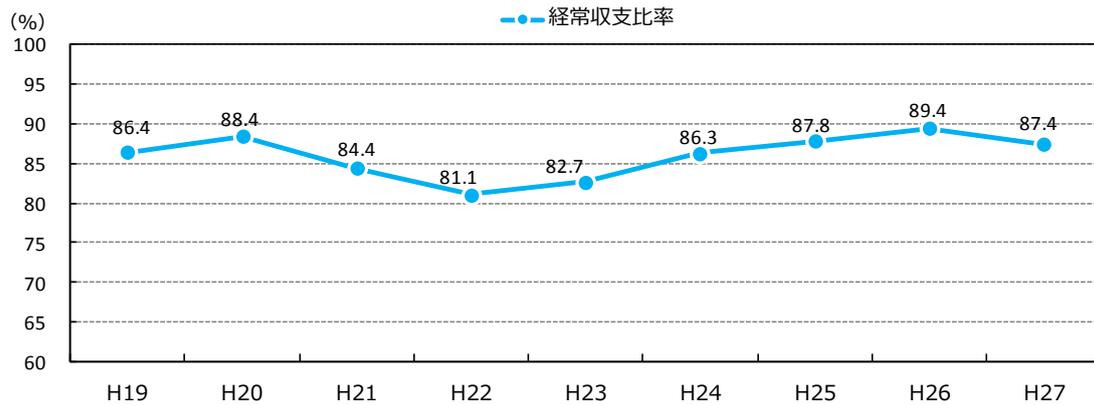
出典：本宮市決算書／各年度末（出納整理期間含む）

■ 地方債・債務負担行為の推移



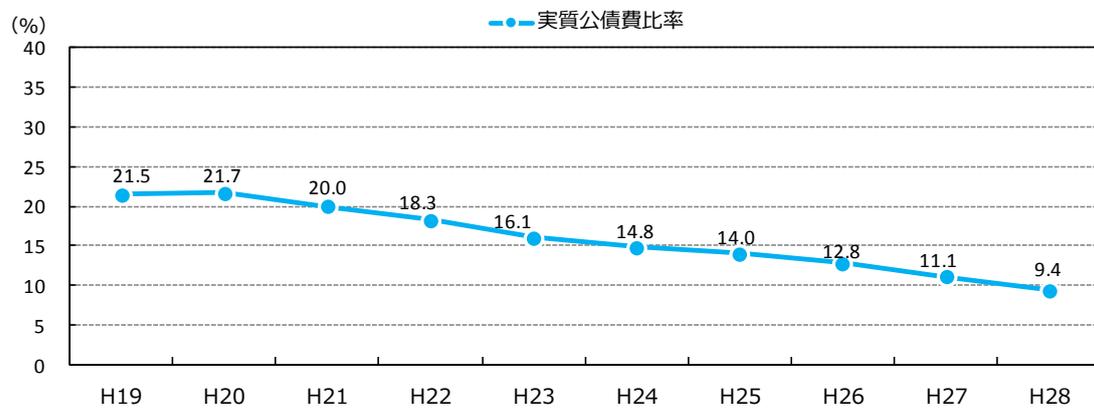
出典：本宮市決算書／各年度末（出納整理期間含む） ※一般会計・特別会計・企業会計を含む

■ 経常収支比率の推移



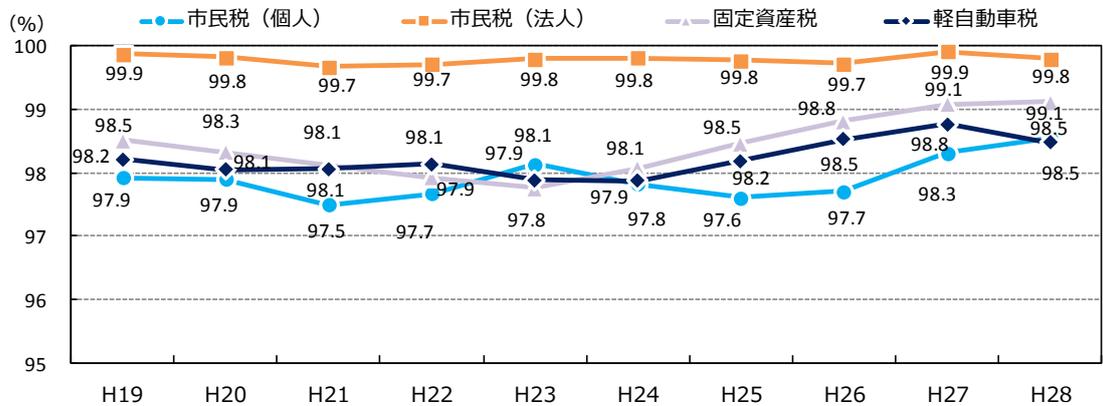
出典：本宮市決算書／各年度末（出納整理期間含む）

■ 実質公債費比率の推移



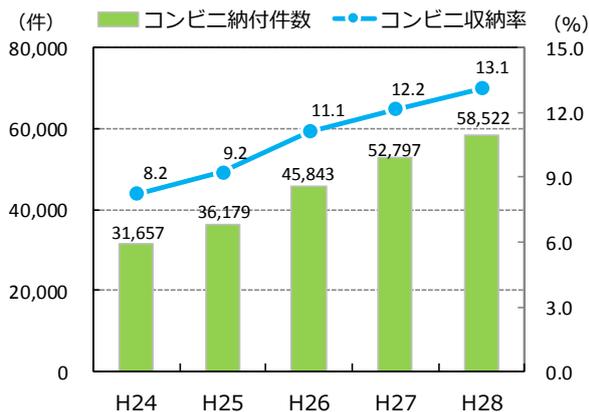
出典：本宮市決算書／各年度末（出納整理期間含む）

■ 主な市税の収納率



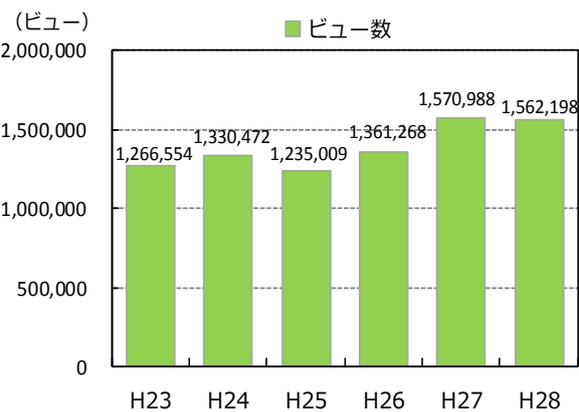
出典：本宮市一般会計歳入決算書／各年度末 ※現年課税分の収納率

■ コンビニ納付件数



出典：成果報告書（本宮市）／各年度末

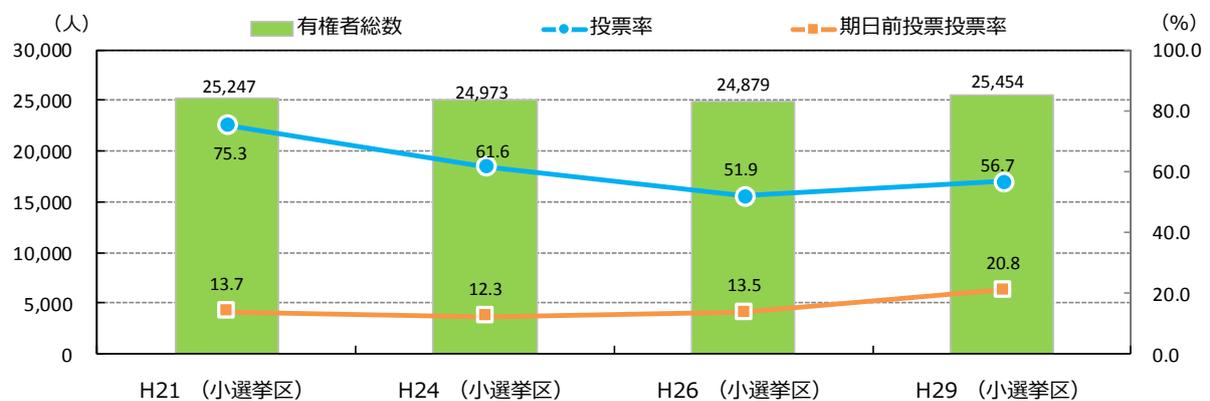
■ 市ホームページビュー数



出典：Google アナリティクス／各年

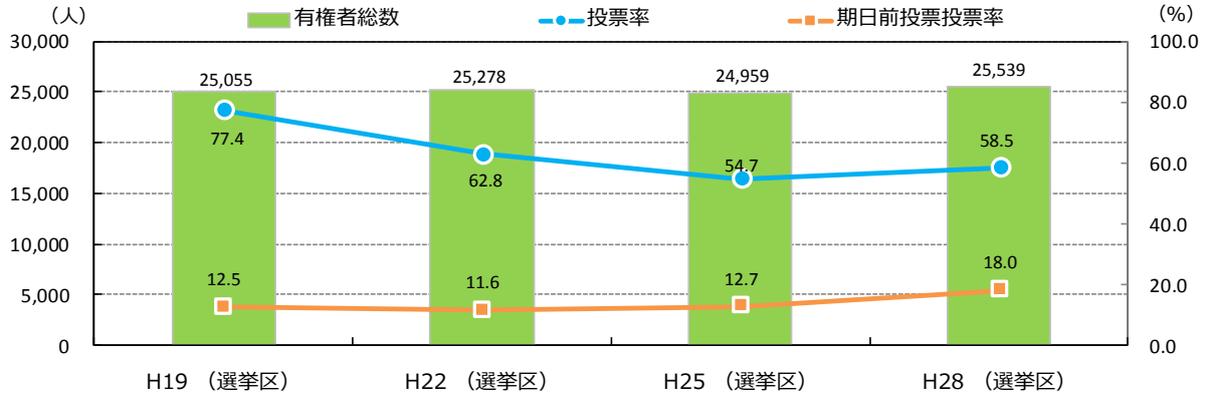
■ 各種選挙有権者数・投票率・期日前投票率

<衆議院議員・小選挙区>



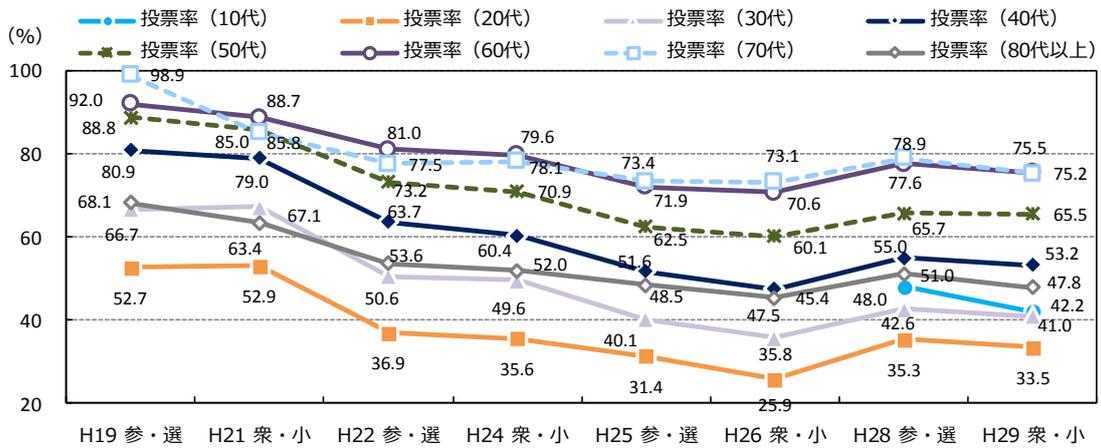
出典：本宮市選挙管理委員会／各年

<参議院議員・選挙区>



出典：本宮市選挙管理委員会／各年

■ 各種国政選挙投票率 (年代別)



出典：本宮市選挙管理委員会／各年